

## **Oracle® Hyperion Disclosure Management**

*Oracle® Hyperion Disclosure Management for Oracle Hyperion Financial  
Close Suite*

### **User's Guide**

リリース 11.1.2.3.000

更新日: 2013 年 1 月

Disclosure Management User's Guide, 11.1.2.3.000

Copyright © 2007, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	7
<b>第 1 章 Oracle Hyperion Disclosure Management について .....</b>	<b>9</b>
Disclosure Management の概要 .....	9
XBRL の理解 .....	9
タクソノミの使用 .....	10
<b>第 2 章 XBRL プランニングの考慮事項 .....</b>	<b>11</b>
Disclosure Management の統合 .....	11
XBRL および規制リソース .....	12
<b>第 3 章 財務サービスからのデータの取得 .....</b>	<b>13</b>
レポート・レベルまたはデータ・ソースのマッピング .....	13
Smart View でのデータ・ソースのマッピング .....	14
Smart View と Disclosure Management 間の移動 .....	16
データ・ソースの選択 .....	17
スマート・スライス関数グリッドの挿入 .....	18
Financial Reporting 関数グリッドの挿入 .....	19
Financial Reporting データ・ソースのマッピング .....	21
Disclosure Management マッピング・ツールの表示 .....	21
Financial Reporting での概念のマッピング .....	22
<b>第 4 章 XBRL インスタンス・ドキュメントの生成 .....</b>	<b>23</b>
XBRL インスタンス・ドキュメントの作成 .....	24
Disclosure Management サーバーへの接続 .....	24
ドキュメントの移行 .....	24
ドキュメントの登録 .....	25
財務諸表データの表示 .....	25
タクソノミへの財務レポートのマッピング .....	26
Disclosure Management のインタフェース .....	27
リボンおよびメニュー .....	27
Disclosure Management マッピング・ツールの各タブへの移動 .....	30
Disclosure Management マッピング・ツールのメニューへの移動 .....	31
XBRL タクソノミ概念について .....	31

タクソノミの選択	31
タクソノミ言語の変更	32
タクソノミ・ビュー	32
タクソノミ・ビューの変更	34
マッピングの概念	39
マップされた概念の除去	40
クイック・マッピング	41
NIL 値のマッピング	42
タクソノミのリフレッシュ	43
概念詳細の表示	43
タクソノミの変更	44
タクソノミ概念の検索	44
XBRL コンテキストについて	46
XBRL コンテキストの追加	46
コンテキストのマッピング	47
マップされたコンテキストの除去	48
コンテキストの更新	48
コンテキストの削除	48
コンテキストの検索	49
コンテキスト詳細の表示	49
XBRL 単位について	50
XBRL 単位の追加	50
単位のマッピング	51
マップされた単位の除去	52
単位詳細の更新	52
単位の削除	52
単位の検索	52
脚注について	53
脚注の追加	53
脚注のマッピング	54
マップされた脚注の除去	54
脚注の更新	55
脚注の削除	55
脚注のフォーマット	55
脚注の検索	56
脚注詳細の表示	57
変数について	57
静的変数の作成	58
参照変数の作成	58

静的変数のマッピング	59
参照変数のマッピング	59
変数リストの表示	61
変数の編集	61
変数の削除および変数マッピングの除去	61
ドキュメントでの変数マッピングの表示	62
変数の評価	62
次元について	63
プライマリ・アイテムのマッピング	65
ドメインおよびドメイン・メンバーのマッピング	65
レポート・レベルのマッピング	67
データ・ソース・レベル・マッピング	69
次元マッピングの検証	70
次元マップの格納	71
インスタンスの生成	73
型付き次元の適用	73
Disclosure Management を使用した EDGAR HTML の生成	76
Disclosure Management での EDGAR ドキュメントの作成	76
フォーマットに関するガイドライン	77
EDGAR のサンプル	78
タプルについて	78
タプルの操作	79
タプル・ビューの使用	79
Disclosure Management ドキュメントのロールオーバー	81
ブロック・テキストのマッピング	83
ネストされたタグ	83
マップされたデータの除去と Disclosure Management オブジェクトの削除	84
XBRL マップの除去	84
Disclosure Management オブジェクト削除の削除	86
データ・ソース・アイテムの削除と抑制	86
マッピングの確認	87
ツリー・ビューまたはリスト・ビューの変更	88
レポートの次元マッピングの確認	88
マップされたアイテムのプレビュー	88
コンテキストおよび単位の変更	90
符号の反転の設定	91
値のオーバーライド	91
「現在のマッピング」タブでの変更の保存	93
マッピングの確認のエクスポート	93

数値フォーマットのプレビューおよび変更 .....	94
ドキュメントの検証 .....	95
検証エラー・メッセージの表示 .....	95
エラーメッセージの解決 .....	96
確認モードのナビゲーション・オプション .....	97
インスタンス・ドキュメントの生成 .....	97
マップされたデータの検証 .....	98
インスタンス・ドキュメントのレンダリング .....	100
インスタンス・ドキュメントへのエクスポート .....	101
XBRL 出力のプレビュー .....	102
IXBRL フォーマットのインスタンス・ドキュメントの生成 .....	105
インスタンス・ビューアでのインスタンス・ドキュメントの表示(SEC または その他) .....	106
SEC ビューアのオフラインでの使用 .....	108
ルール・サポートを使用した検証 .....	108
レポートの複製 .....	109
レポートの複製の作成 .....	109
複製したレポートのフォーマットの変更 .....	110
レポートのエクスポート .....	114
レポートのインポート .....	115
ドキュメントのフォーマット .....	116
<b>第 5 章 マスター・ドキュメントおよびドックレットの操作 .....</b>	<b>123</b>
マスター・ドキュメントの使用 .....	123
ドックレットの追加 .....	124
ドックレットの再配置 .....	126
ドックレットのスタンドアロン・レポートの作成 .....	127
マスター・ドキュメント内でのドックレットの非表示 .....	127
ドックレットの除去 .....	128
Microsoft Word を使用した変更およびドックレットの追跡 .....	128
<b>付録 A. XBRL および Disclosure Management の用語集 .....</b>	<b>131</b>
<b>付録 B. EDGAR 検証メッセージ .....</b>	<b>135</b>
<b>索引 .....</b>	<b>137</b>

---

# ドキュメントのアクセシビリティについて

---

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

## Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。





# 1

# Oracle Hyperion Disclosure Managementについて

## この章の内容

Disclosure Management の概要 .....	9
XBRL の理解 .....	9
タクソノミの使用 .....	10

## Disclosure Management の概要

Oracle Hyperion Disclosure Management は、規制当局に提出する Extensible Business Reporting Language (XBRL(c)) タグが付けられた提出物 (SEC に提出する 10K や 10Q など) をグラフィカルに作成および編集できるように設計されたツールセットです。Microsoft Excel、Word またはデータ・ソース・メタデータにある、財務諸表およびそのサポート情報としてのスケジュールとコメントをまとめ、XBRL、EDGAR、PDF または HTML 形式でコンテンツにマップして、そのコンテンツを配布できます。さらに、Disclosure Management では、マッピング・プロセスの前にタクソノミを変更または拡張できます。複数のタクソノミを使用することもできます。この製品の主な目的は、短いサイクルで必要な重要ドキュメントを一元管理し、開示における不正確さのリスクを大幅に削減することです。

Oracle Hyperion Disclosure Management では、次の機能を備えた完全な XBRL の作成および管理のソリューションを提供します:

- 次のもので構成される、企業レベルの XBRL マッピング: Microsoft Office 内のレポート・レベル・マッピング; Oracle Hyperion Smart View for Office、Financial Reporting; Oracle Hyperion Financial Management および Oracle Hyperion Planning 内の再使用可能なデータ・ソース・メタデータ・マッピング; Oracle Essbase。
- XBRL タクソノミの管理、編集および表示。タクソノミ管理には、進化する XBRL 規格に企業が容易に対応できるようにするためのタクソノミの拡張が含まれます。更新されたタクソノミを既存のマップに対して使用できます。
- インスタンス・ドキュメントの検証、生成および表示
- XBRL または IXBRL のインスタンス・ドキュメントを生成します。

## XBRL の理解

XBRL は Extensible Markup Language (XML) に基づいた、無償で使用可能な財務レポート用コンピュータ言語であり、XBRL 対応ソフトウェアで生成され、使用されます。データをマップすると、情報の選択、分析、保存および交換が人手では

なくソフトウェアを使用して行われ、このためエラーが減少します。また、XBRLは標準化された言語のため、複数の企業および業種の財務データを、同じ条件で効率的に比較できます。このため、XBRLでは、識別マッピングをデータのアイテムに適用し、アイテムの処理と分析を対話的に行うことができます。XBRLマッピングを使用することで、金融界では、株式上場企業の財務諸表をデジタル規格ベースで準備、公開、正確に抜粋および自動的に交換することができます。XBRLは、新しい会計基準を設定しません。既存の基準のユーザビリティを拡張するものです。

XBRLタクソノミでは、概念の値がコンテキスト内に定義されるようデータの配置を指定します。たとえば、企業 ACME, Inc.が第1四半期に\$152,623の総利益をレポートしたとします。この情報は、XBRLでは、企業のID (ACME, Inc.)、レポート概念(総利益)、レポート通貨(ドル)、期間および小数点以下の桁数/精度の四捨五入設定として表示されます。

## タクソノミの使用

XBRLタクソノミは、XBRLドキュメント作成の中核です。XBRLドキュメントにはビジネスおよび財務ファクトのスナップショットが含まれるのに対して、XBRLタクソノミではこれらのファクトの定義とファクト間の関係が提供されます。タクソノミはXBRLにとっていわば辞書となります。これは、個々のレポート概念(「正味利益」など)、およびそれらの間の関係を定義します。財務レポートの目的が異なる場合は、異なるタクソノミが必要です。各地域の政府では、現地の会計基準を反映する、独自の財務レポート用タクソノミが必要です。NPOや法人などの組織では、独自のビジネス・レポート要件を処理するためのタクソノミが必要です。

XBRLタクソノミでは、多数の個別ビジネス・レポート概念(要素)を表すことができます。それぞれの要素には、ラベル、データ型、有効な残高の種類、およびその他のデータ属性など、要素を定義するための特定の属性があります。

公開されているタクソノミは、一般的な企業または規制当局がレポートする必要のあるタクソノミの大部分を表す標準的タクソノミです。また、XBRLでは、その企業または規制当局に固有のレポート仕様のために、拡張、または公開されているタクソノミへの変更が可能です。

企業は、その国、管轄区域、業種などの対応するタクソノミを使用する必要があります。たとえば、XBRL国際ショナルで正式に認められているUS GAAPタクソノミなどは、次のサイトにリストされています: <http://www.xbrl.org/>

[FRTaxonomies/](#)

# 2

## XBRLプランニングの考慮事項

### この章の内容

Disclosure Management の統合 .....	11
XBRL および規制リソース .....	12

## Disclosure Management の統合

XBRL インスタンス・ドキュメントを作成するために Disclosure Management をご使用の財務レポート・システムと統合するには、プランニングと組織が必要です。Disclosure Management をインストールした後、次の各事項を検討し、実行が必要な手順を決定してください:

- タクソノミ評価 - XBRL の申告要件に最も適したタクソノミを評価します。
- トレーニング - XBRL の申告要件、タクソノミ概念、および Disclosure Management の使用方法に関して主要人員をトレーニングするプランを実施します。
- XBRL プロジェクト・チーム - 次の機能を実行できるチームを作ります:
  - XBRL プロジェクトの管理
  - 地域の規制ルールおよび組織のレポート要件に関する専門知識の提供
  - XBRL に関する専門知識のデモンストレーション
- マッピング - 財務諸表をマップする作業を引き受ける人員を特定します。
- データ収集 - XBRL インスタンス・ドキュメントに登録される財務データを集計および作成するプロセスを決定します。
- 拡張 - 組織のレポート要件に基づいてタクソノミを拡張する責任を負う人員を指定します。
- 確認 - インスタンス・ドキュメントを確認および検証するプロセスを実施します。インスタンス・ドキュメントは、規制機関が XBRL の提出物に課すすべての追加提出要件に従う必要があります。たとえば、SEC には、申告者に対する追加提出基準があります。この提出基準は、XBRL 仕様に指定されている技術検証に追加されます。Disclosure Management には、XBRL(仕様への)妥当性を確認する検証機能があり、いくつかの規制および提出基準(SEC、HMRC)が徹底されます。ただし、規制当局による追加の提出基準が必要な場合もあります。

# XBRL および規制リソース

次の XBRL リソースおよびリンクはオンラインでアクセス可能です:

**注:** オラクル社は、後述のサイトに含まれるコンテンツをメンテナンスすることとはなく、またそれらをメンテナンスする責任を負うこともありません。

**表 1** XBRL リンクと説明

リソース	リンク
XBRL.org のメイン・サイト	<a href="http://www.xbrl.org">http://www.xbrl.org</a>
「How XBRL Works」のビデオ	<a href="http://xbrl.squarespace.com/journal/2008/5/10/how-xbrl-works.html">http://xbrl.squarespace.com/journal/2008/5/10/how-xbrl-works.html</a>
『XBRL in plain English』	<a href="http://www.batavia-xbrl.com/downloads/XBRLinPlainEnglishv1.1.pdf">http://www.batavia-xbrl.com/downloads/XBRLinPlainEnglishv1.1.pdf</a>
XBRL の仕様	<a href="http://xbrl.org/SpecRecommendations">http://xbrl.org/SpecRecommendations</a> (現在の仕様は XBRL 2.1)
XBRL の Wiki	<a href="http://www.xbrlwiki.info/index.php?title=Main_Page">http://www.xbrlwiki.info/index.php?title=Main_Page</a>
タクソノミ・リポジトリ	<a href="http://www.xbrl.org/FRTaxonomies">http://www.xbrl.org/FRTaxonomies</a>
タクソノミ・ビューア(無償)	<a href="http://bigfoot.corefiling.com/yeti/resources/yeti-gwt/Yeti.jsp">http://bigfoot.corefiling.com/yeti/resources/yeti-gwt/Yeti.jsp</a>
XBRL 次元のチュートリアル	<a href="http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/Dimensions_and_Aggregation_Tutorial.htm">http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/Dimensions_and_Aggregation_Tutorial.htm</a>
『XBRL US GAAP Preparers Guide』(PDF)	<a href="http://xbrl.us/Documents/PreparersGuide.pdf">http://xbrl.us/Documents/PreparersGuide.pdf</a>
SEC による XBRL の指令	<a href="http://www.sec.gov/rules/final/2009/33-9002.pdf">http://www.sec.gov/rules/final/2009/33-9002.pdf</a>
次世代 EDGAR システムの検索(XBRL の提出物を含む)	<a href="http://www.sec.gov/edgar/searchedgar/webusers.htm">http://www.sec.gov/edgar/searchedgar/webusers.htm</a>
SEC インスタンス・ドキュメント・ビューア:	<a href="http://www.sec.gov/spotlight/xbrl/xbrlviewerlicense.htm">http://www.sec.gov/spotlight/xbrl/xbrlviewerlicense.htm</a>
SEC 対話型データ Web キャスト	<a href="http://www.sec.gov/spotlight/xbrl/xbrl-webcasts.shtml">http://www.sec.gov/spotlight/xbrl/xbrl-webcasts.shtml</a>
国際財務報告基準	<a href="http://www.ifrs.com">http://www.ifrs.com</a>
IFRS タクソノミ	<a href="http://www.iasb.org/XBRL/XBRL.htm">http://www.iasb.org/XBRL/XBRL.htm</a>
XBRL を使用した財務レポート	<a href="http://xbrl.squarespace.com/home-page/">http://xbrl.squarespace.com/home-page/</a>

## この章の内容

レポート・レベルまたはデータ・ソースのマッピング.....	13
Smart View でのデータ・ソースのマッピング .....	14
Financial Reporting データ・ソースのマッピング .....	21

## レポート・レベルまたはデータ・ソースの マッピング

Oracle Hyperion データ・ソースからのデータを含むドキュメントを使用して作業している場合、レポート内のデータまたは基礎となるデータ・ソースに関連付けられた XBRL マップを作成できます。Smart View レポートまたはクエリーから導出された Office ドキュメントのデータをマップする場合は、次の 2 タイプのマップを作成できます:

- データ・ソース・マップ - データ・ソース・マップは、メタデータ・ラベルが XBRL タクソノミ概念にマップされる場合に確立します。XBRL タクソノミ・マッピングは、データ・ソースのメンバーと関連付けられて、マッピング・リポジトリに格納され、複数のレポートで再利用できます。同じメタデータを使用して新しいレポートを作成した場合や、同じドキュメントの別の場所にメタデータを使用する場合に、概念を再マップする必要がない点が便利です。

データ・ソース・レベルのマップは、次のもので実行できます:

- 既存の Financial Reporting レポートからインポートされた関数グリッドの次元、またはスマート・スライスからの関数グリッドが挿入されたデータを含む、Smart View を使用する Microsoft Office
- Financial Reporting HTML クライアント
  - Planning
  - Essbase
  - Financial Management - Classic および Oracle® Hyperion Enterprise Performance Management の両方をサポートします

**注:** Smart View により、ドキュメント・データがデータ・ソース・メンバーに属しているかどうか判別されます。

- レポート・レベルのマップ - Smart View レポート、手動データ入力、または Microsoft Office に統合されている別のシステムから実際のデータ(数値など)を

選択すると、ドキュメント・レベルのマップが作成されます。この場合、マップされたタクソノミ概念は、Office ドキュメントにのみ関連付けられます。

たとえば、Smart View レポートの関数グリッドから次の表が導出されたとします:

	A	B	C	D	E
1		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
2	Gross Profit	1000000	2000000	3000000	4000000

- データ・ソース・メンバー「Gross Profit」を含むセル A2 を選択し、それをタクソノミ概念 GrossProfit にマップした場合、これはデータ・ソース・マップになります。この場合、セル B2、C2、D2 および E2 内のすべてのデータ値がタクソノミ概念 GrossProfit に関連付けられます。さらに、Smart View レポートのその他すべてのグリッド、またはデータ・ソース・メンバー「Gross Profit」を使用する Financial Reporting グリッドは、自動的に XBRL タクソノミ概念 Gross Profit に関連付けられます。
- セル B2 (データ値 1000000) を選択してタクソノミ概念をマップした場合、これはドキュメント・レベルのマップになります。
- セル A2 のメンバーとセル B2 のデータにそれぞれ異なるタクソノミ概念が関連付けられている場合は、ドキュメント・レベルのマップがデータ・ソース・マップ(セル B2 に関連付けられているマップ)よりも優先されません。
- 同じデータ・ポイントにデータ・ソース・マップとドキュメント・レベルのマップが関連付けられている場合、ドキュメント・マップがデータ・ソース・マップよりも優先されます。
- ドキュメント・レベルのマップが除去され、対応するデータ・ソース・レベルのマップが存在する場合は、データ・ソース・マップが復元されます。

データ・ソース・マップから導出されるタクソノミ概念の自動関連付けがある場合、その関連付けは、そのマップにコンテキストと単位も関連付けられている場合のみインスタンス・ドキュメントで維持されます。表の例では、メンバー Gross Profit にデータ・ソース・マップがある場合、セル B2 および C2 のデータ値は、マップされたタクソノミ概念に自動的に関連付けられます。単位およびコンテキストの関連付けをセル B2 に対してのみ作成すると、セル C2 には不完全なマッピングがあります。この場合、インスタンス・ドキュメントが生成されるときに、セル B2 からのデータは維持されますが、セル C2 からのデータは維持されません。

コンテキストに関連付けられているかどうかにかかわらず、すべてのデータ・ソース・マッピングが結果インスタンスに含まれます。インスタンスの生成から特定のデータ・ソース・マッピングを除外するには、抑制機能を使用します。86 ページの「データ・ソース・アイテムの削除と抑制」を参照してください。

## Smart View でのデータ・ソースのマッピング

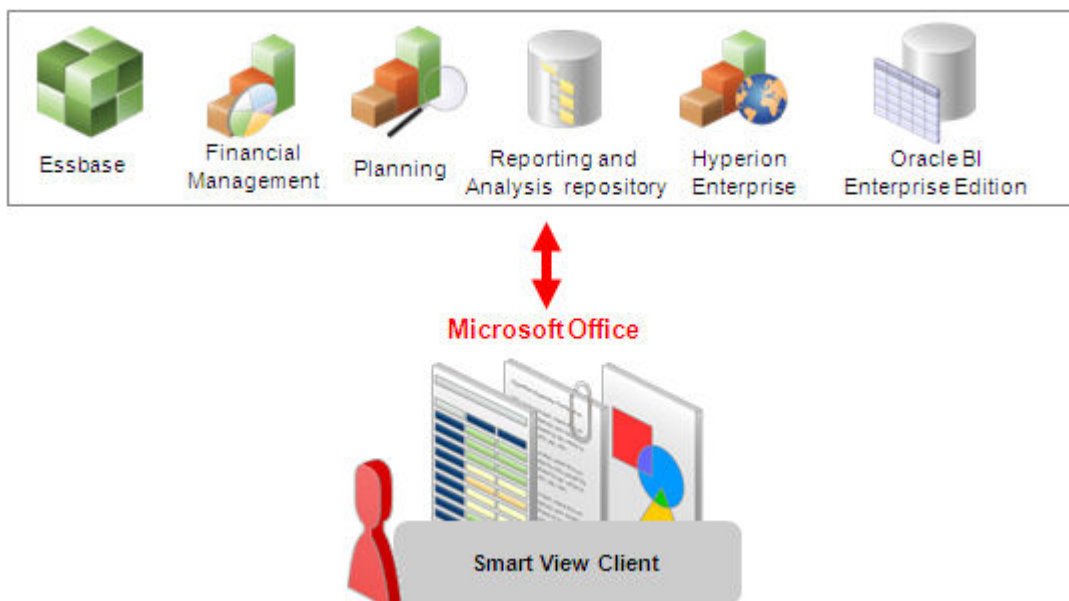
Financial Management、Planning、Essbase および Hyperion(R) Reporting and Analysis リポジトリなどの Oracle Hyperion データ・ソースは、Smart View に関数グリッド

としてインポートできます。データが Office ドキュメントにインポートされると、クエリーのメタデータ・ラベルまたはデータ・ソース・メンバーは Disclosure Management マッピング・ツールを介して XBRL 概念に関連付けることができます。この関連付けが行われると、データ・ソース・メンバーが Oracle Hyperion Financial Reporting グリッドまたは他の Office ドキュメントの一部である場合に、XBRL 概念がデータ・ソース・メンバーから認識されます。これにより、データ・ソース XBRL マップを 1 回関連付け、Financial Reporting グリッド内で使用できます。

Disclosure Management では、ドキュメントではなく、サーバー上にデータ・ソース・マッピングを格納することにより、データ・ソースの機能が拡張されています。この機能に関連付けられている主な機能は、次のとおりです：

- ドキュメントで参照される概念、コンテキスト、単位に関する最新情報が含まれる、一元化されたマッピングのストレージ。ドキュメントにはファクト値のみが格納されるため、概念固有のデータ損失が最小限になります。
- インスタンス生成用のデータがより短時間で準備されるようになりました。
- ファクトのコンテキストおよび単位を、元のドキュメントから独立して変更できるようになりました。
- ドキュメント・コンテンツ(nil 値など)に関連付けられていないファクトを作成できます。
- Disclosure Management により、マッピングの際(インスタンスの生成および検証の前)に、概念の期間タイプとコンテキストの期間タイプの互換性が検証されます。
- 次元とプライマリ・アイテム間の互換性に関する編成された検証が実行されます。
- 同じ値に対する複数のマッピングが可能になりました。
- アイテムのマッピングに対して、データ・ソースを 1 つまたは複数選択することを可能にするプロンプト。また、存在する場合には、両方のデータ・ソースへのマッピングを参照できます。
- 「選択内容を記憶」オプションを使用して、今後のデータ・ソース・マッピングのために、データ・ソースの選択内容をデフォルトとして保持できます。

XBRL コンテキスト、単位および脚注は、データが Office ドキュメントにインポートされた後にマップできますが、これらのマップは、レポートまたはドキュメント・レベルでのみ保持され、データ・ソース・マップとはみなされません。



Microsoft Office で次のインポート・フォーマットを使用してデータをインポートできます:

- クエリー準備(Excel のみ)
- 完全フォーマット(Excel のみ)
- 関数グリッド(Microsoft Word および Excel)

レポート・レベルのマッピングでは、任意のクエリーまたはインポート・フォーマットを使用できます。データ・ソース・レベルのマッピングには、関数グリッドを使用する必要があります。


**注：** データ・ソース・マッピングでは、Financial Management、Planning および Essbase のみがサポートされます。Smart View からのデータ・ソース・マッピングに非定型のクエリーを使用することもできます。

## Smart View と Disclosure Management 間の移動

Disclosure Management は Smart View の拡張機能です。Disclosure Management に接続されているときにパネルの切替えアイコンを使用して、Smart View で Disclosure Management コンポーネント(レポート・マネージャおよびマッピング・ツール)を使用できます。

- ▶ Smart View で Disclosure Management コンポーネントを使用するには、リボンにある「パネル」を選択します。「Smart View」パネルで「切替え」ドロップ



ダウン -  - を選択し、「Disclosure Management マッピング・ツール」または「Disclosure Management レポート・マネージャ」を選択します。



- ▶ Disclosure Management 製品全部を使用するには、「Disclosure Management」タブをクリックします。
- ▶ Smart View プログラム全部を使用するには、「Smart View」タブをクリックします。

## データ・ソースの選択

複数のデータ・ソースを含む Smart View クエリーに接続すると、Disclosure Management により、「データ・ソースの選択」ダイアログ・ボックスが自動的に表示されます。アイテムのマッピングに、1つまたは複数のデータ・ソースを選択できます。「選択内容を記憶」オプションを使用して、今後のデータ・ソース・マッピングのために、データ・ソースの選択内容をデフォルトとして保持できます。

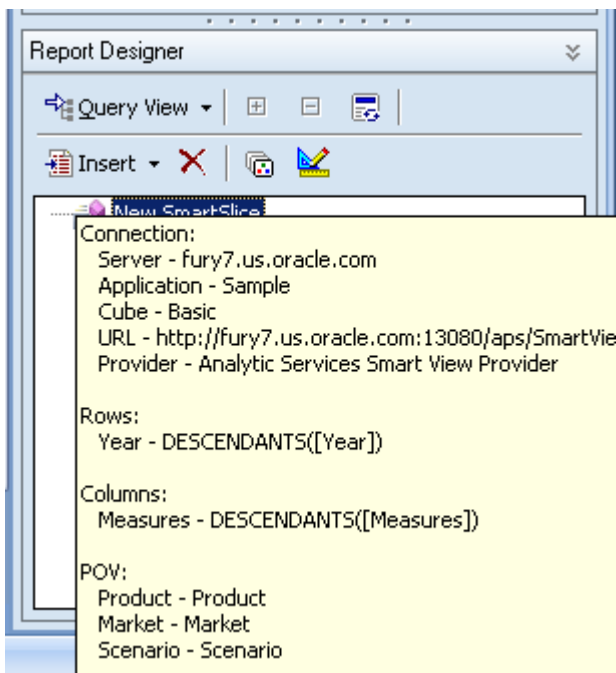
- ▶ 複数のデータ・ソースを選択するには:
  - 1 レポートを開き、「Smart View」サーバーに接続します。  
「データ・ソースの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
  - 2 「データ・ソースの選択」で、アイテムのマッピングに使用するデータ・ソースを選択します。  
複数のデータ・ソースを選択できます。  
「マッピングの除去」ダイアログ・ボックスで、マッピングされたアイテムに選択されているデータ・ソースを表示できます。
  - 3 「選択内容を記憶」を選択して、今後のデータ・ソース・マッピングのために、現在の選択内容をデフォルトとして保持します。
  - 4 「OK」をクリックします。

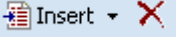
## スマート・スライス関数グリッドの挿入

Disclosure Management XBRL タクソノミ・マッピング・ツールを使用して、データ・ソース・メンバーをスマート・スライス関数グリッドで XBRL 概念にマッピングできます。この XBRL マッピングは Financial Management、Planning および Essbase 内で再使用可能です。スマート・スライスは、次元または次元メンバーの限定された部分集合から構成される、データ・ソースのパースペクティブです。スマート・スライスはサポート情報を指定するため規制機関への提出物として使用できます。

▶ データ・ソース・マップをスマート・スライス関数グリッドに作成するには:

- 1 「Smart View」パネルから「スマート・スライス」を選択します。
- 2 「アクション」ペインで、「スマート・スライスの挿入」を選択します。



- 3  で、「関数グリッド」を選択します。
- 4 「Smart View」リボンで、「リフレッシュ」を選択します。
- 5 「Disclosure Management」タブを選択します。
- 6 「接続」を選択して Disclosure Management サーバーに接続します。
- 7 ユーザー名とパスワードを「名前」と「パスワード」フィールドに入力し、「OK」をクリックします。
- 8 「Disclosure Management」リボンで、「マップ」を選択します。
- 9 Disclosure Management マッピング・ツールを使用してデータ・ソース・メンバーをマップします。

Disclosure Management マッピング・ツールの詳細は、[第4章「XBRL インスタンス・ドキュメントの生成」](#)を参照してください。

図は、Disclosure Management マッピング・ツールに統合されたスマート・スライス関数グリッドを示します。

The screenshot displays the Microsoft Excel interface with a financial reporting grid and the Smart View tool. The grid shows data for Profit and Inventory Ratios across four quarters (Qtr1 to Qtr4). The Smart View interface is open on the right, showing a tree view of financial concepts and a details pane for 'Net Income (Loss) Available to Common Stockholders, Basic'.

	A	B	C	D	E	F	G
1		Profit	Inventory Ratios				
2	Qtr1	7137	38751	53.11612			
3	Qtr2	7515	41574	52.57357			
4	Qtr3	7939	53184	52.34842			
5	Qtr4	7270	55355	52.71694			

## Financial Reporting 関数グリッドの挿入

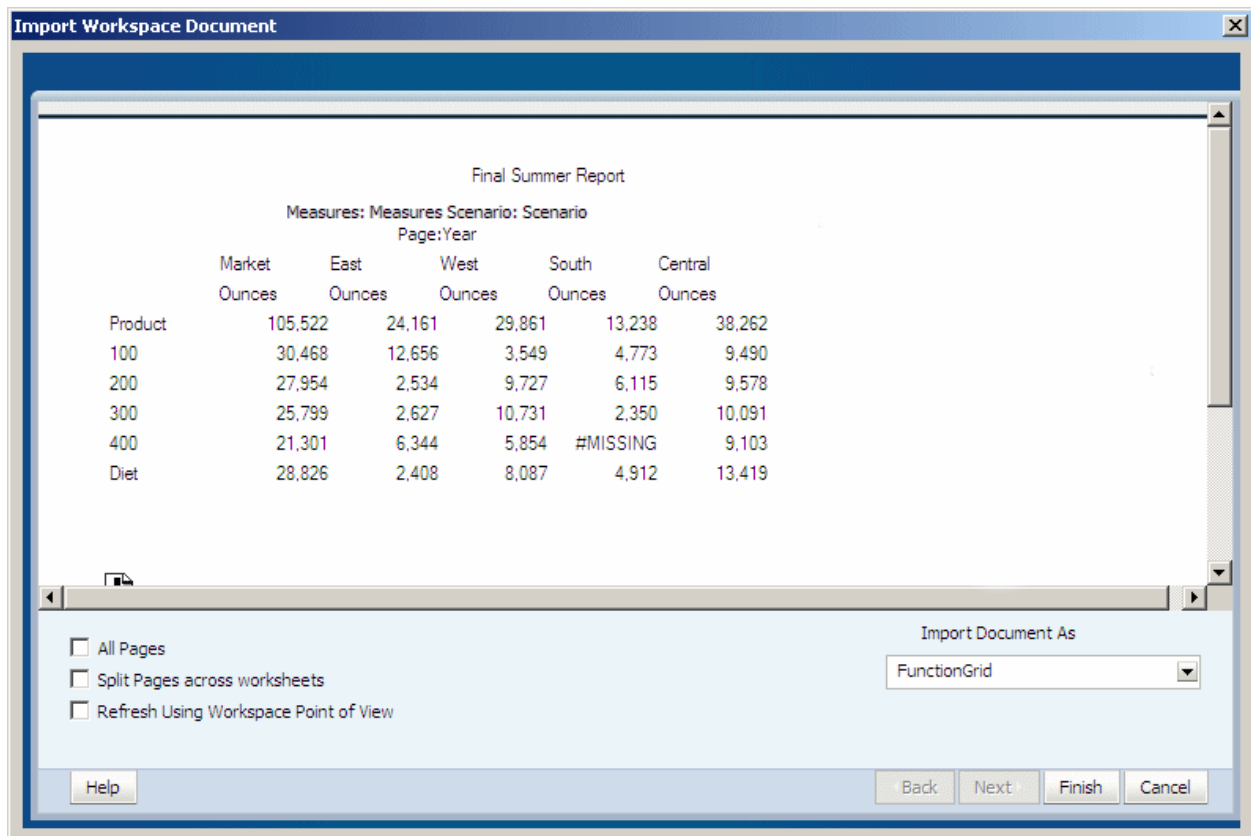
Microsoft Excel または Word (インポートされた Financial Reporting レポート) の Smart View クエリー(特に関数グリッド - セル関数が含まれる一連のセル) に接続すると、Disclosure Management で概念が自動的にインポートされます。データ・ソース・レベルで概念がマップされたクエリーのメタデータ(データ・ソース・メンバー)もインポートされます。このため、Smart View クエリーで必要とされるのは、レポート・レベル・マッピングと同様に実行されるコンテキスト、単位および脚注のマッピングのみです。

関数グリッドとしてインポートする利点は、関数グリッドではクエリーの結果が動的グリッド・フォーマットで表示され、各セルの上にカーソルを移動すると、各セルの特性が表示されます。関数グリッドで SUM 関数などの Excel 関数を使用できます。

**注：** 関数グリッド・データをリフレッシュする際に、式を関数グリッドの一部として保持する場合は、グリッドと式を含むセルの間に、1行の空白行を残す必要があります。式の定義に選択されたセル範囲に空白行を含めることを忘れないでください。

▶ Financial Reporting レポートを関数グリッドとして Smart View にインポートするには:

- 1 Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace のデータ・ソースに接続します。
- 2 「Smart View」 ペインで、「Financial Reporting」 レポートに移動します。
- 3 レポートを右クリックし、「開く」を選択します。



- 4 「すべてのページ」を選択して、レポートのすべてのページをインポートします。
- 5 「ワークシート全体でページを分割」を選択して、各ページを別々の Excel ワークシートに表示します。
- 6 「ワークスペース POV を使用してリフレッシュ」を選択して、EPM Workspace POV を使用してレポートをリフレッシュします。
- 7 「名前を付けてインポート」で、デフォルトの「関数グリッド」の選択を保持します。

Excel では、既存のフォーマット済およびクエリー準備済のインポート・フォーマットの他に、レポートを関数グリッドとしてインポートするオプションもあります。

- 8 「終了」をクリックします。

レポートの関数グリッドが Smart View にインポートされます。

9 「Smart View」リボンで、「リフレッシュ」を選択します。

▶ Disclosure Management マッピング・ツールを起動するには:

- 1 「Disclosure Management」タブを選択します。
- 2 「接続」を選択して Disclosure Management サーバーに接続します。
- 3 ユーザー名とパスワードを「名前」と「パスワード」フィールドに入力し、「OK」をクリックします。
- 4 「Disclosure Management」リボンで、「マップ」を選択します。
- 5 Disclosure Management マッピング・ツールを使用してデータ・ソース・メンバーまたはデータ・セルをマップします。

第4章「XBRL インスタンス・ドキュメントの生成」を参照してください

## Financial Reporting データ・ソースのマッピング

Disclosure Management マッピング・ツールは、EPM Workspace で Financial Reporting HTML レポート・ビューアに統合されています。Disclosure Management マッピング・ツールを使用して、レポートで XBRL 概念をメタデータ・ラベル(データ・ソース・メンバー)にマップできます。データ・ソース(Financial Management、Oracle Hyperion Planning および Essbase など)のデータ、式およびテキストのセルは、Financial Reporting で使用できます。

Financial Reporting グリッドからの XBRL マップを含むデータは、Smart View 経由で再利用して、Microsoft Word または Excel ドキュメントにインポートできます。Office ドキュメントにデータがインポートされると、Disclosure Management アドインは、Financial Reporting グリッドからのすべての関連のある XBRL マップを判別して使用します。

次のアイテムは Financial Reporting にはマップされませんが、Smart View 経由で Office ドキュメントにマップできます:

- XBRL コンテキスト
- XBRL 単位
- XBRL 脚注
- タプル

## Disclosure Management マッピング・ツールの表示

Disclosure Management マッピング・ツールは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace で表示または非表示にできます。

**ORACLE** Enterprise Performance Management System

Navigate File View Favorites Tools Help

- View Masthead Ctrl+Alt+0
- View Pane Ctrl+Alt+1
- Refresh F5
- Show Annotation
- Show XBRL Mapping Tool

HomePage

/hong/report

Product: Pro

**Header:**

Page: Jan

	Sales	COGS	Margin
East	6,780	3,007	3,773
West	10,436	4,899	5,537
South	3,976	1,718	2,258
Central	10,346	4,536	5,810
Market	31,538	14,160	17,378

Export In Query Ready Mode

- ▶ Disclosure Management XBRL タクソノミ・マッピング・ツールを表示するには、「表示」メニューから「XBRL マッピング・ツールの表示」を選択します。

## Financial Reporting での概念のマッピング

Financial Reporting が表示されている場合、Disclosure Management マッピング・ツールを使用してデータ・ソース・レベルのマッピングを実行し、Hyperion Financial Management、Planning および Essbase データ・ソースで再使用可能なタクソノミ概念をマッピングできます。レポート内の(次元およびメンバーとして表現されている)メタデータ・ラベル・セルのみ、Financial Reporting 内で概念にマップできます。タクソノミ概念が複数のメンバーを子として含む行にマップされる場合、その行の値は合計され、その概念に割り当てられます。データ・セルが Financial Reporting グリッドにマップされている場合、このデータ・セルは、その Financial Reporting レポートが Smart View (Microsoft Word または Excel)にインポートされてデータ・ポイントがタクソノミ概念にマップされる時のみ、使用されます。概念のマッピングの詳細は、[31 ページの「XBRL タクソノミ概念について」](#)を参照してください。

**注：** Financial Reporting HTML クライアントでは、Disclosure Management の「概念」タブおよび「確認」タブのみ使用できます。

**注：** 色のキューは Financial Reporting グリッドで実行したマッピングのタイプを示します。青いセルは、データ・ソース・マッピングを示します。レポート・レベル・マッピングは青緑で示されます。

# 4

## XBRLインスタンス・ドキュメントの生成

### この章の内容

XBRL インスタンス・ドキュメントの作成 .....	24
Disclosure Management サーバーへの接続 .....	24
ドキュメントの移行 .....	24
ドキュメントの登録 .....	25
財務諸表データの表示 .....	25
タクソノミへの財務レポートのマッピング .....	26
Disclosure Management のインタフェース .....	27
XBRL タクソノミ概念について .....	31
XBRL コンテキストについて .....	46
XBRL 単位について .....	50
脚注について .....	53
変数について .....	57
次元について .....	63
Disclosure Management を使用した EDGAR HTML の生成 .....	76
タプルについて .....	78
Disclosure Management ドキュメントのロールオーバー .....	81
ブロック・テキストのマッピング .....	83
ネストされたタグ .....	83
マップされたデータの除去と Disclosure Management オブジェクトの削除 .....	84
データ・ソース・アイテムの削除と抑制 .....	86
マッピングの確認 .....	87
インスタンス・ドキュメントの生成 .....	97
IXBRL フォーマットのインスタンス・ドキュメントの生成 .....	105
インスタンス・ビューアでのインスタンス・ドキュメントの表示(SEC またはその他) .....	106
SEC ビューアのオフラインでの使用 .....	108
ルール・サポートを使用した検証 .....	108
レポートの複製 .....	109
レポートのエクスポート .....	114
レポートのインポート .....	115
ドキュメントのフォーマット .....	116

## XBRL インスタンス・ドキュメントの作成

最初に、Disclosure Management サーバーに接続して登録済のタクソノミにアクセスし、XBRL インスタンス・ドキュメントを生成します。その後、次の処理を行います：

- レポート名の登録
- タクソノミの選択
- 選択したタクソノミから概念を含む財務諸表へのマッピングの実行
- マッピングの確認および修正
- インスタンス・ドキュメントの検証
- インスタンス・ドキュメントの生成およびエクスポート

## Disclosure Management サーバーへの接続

Microsoft Word または Microsoft Excel で、「オプション」メニューまたは「オプション」ボタンを使用して Disclosure Management サーバーのオプションを設定します。サーバーのオプションを定義した後、「接続」ボタンを使用して Disclosure Management サーバーにログインします。

**注：** 管理者は、Disclosure Management サーバーの詳細を提供する必要があります。

**注：** Disclosure Management マッピング・ツールが開くと、Disclosure Management クライアントはユーザー・インターフェースが完全にロードされるまで待機します。Disclosure Management マッピング・ツールが接続タイムアウト期間内にロードされない場合、Disclosure Management では試行が失敗したとみなされます。デフォルトでは、タイムアウト期間は2分(120秒)です。タイムアウト期間を変更するには、Windows レジストリで次の値を設定します(まだ作成されていない場合は、新規文字列値を作成します): HKCU\SOFTWARE\Oracle\Disclosure Management\MappingToolTimeout。この値は秒単位で指定します。

## ドキュメントの移行

新しいバージョンでドキュメントを開く際には、Disclosure Management の旧バージョンで作成またはマップされたドキュメントを移行するよう求められます。移行することにより、ドキュメントは、新しいバージョンに含まれる新しいフォーマットに従います。

▶ ドキュメントを移行するには:

- 1 Disclosure Management サーバーに接続し、Microsoft Word または Microsoft Excel でドキュメントを開きます。



ドキュメントの移行が必要です。というメッセージが表示されます移行が行われるまで、このドキュメントで Disclosure Management の機能は使用できません。リボンで「移行」ボタンをクリックして、移行を実行します。

- 2 「OK」を選択します。
- 3 「Disclosure Management」タブを選択して、「移行」をクリックします。
- 4 ユーザー名とパスワードを入力するように求められます。
- 5 移行の完了後、「ドキュメントは正常に移行されました。」という確認メッセージが表示されます。
- 6 「OK」をクリックします。

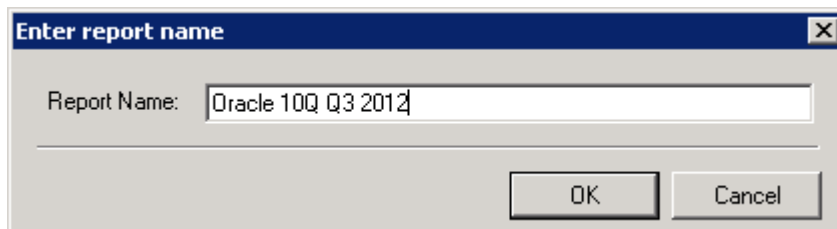
**注：** 移行の完了後、「移行」ボタンは Disclosure Management リボンから除去されます。

## ドキュメントの登録

データをマッピングする前に、Disclosure Management にドキュメントを登録する必要があります。ドキュメントを登録すると、タクソノミ・マッピングとともにマッピング・リポジトリにドキュメント(レポート)名が保存されます。

▶ ドキュメントを登録するには:

- 1 Microsoft Word または Microsoft Excel でドキュメントを開きます。
- 2 「Disclosure Management」タブをクリックします。
- 3 「接続」を選択して Disclosure Management サーバーに接続します。
- 4 Disclosure Management リボンで、「登録」を選択します。



- 5 「レポート名」に一意の名前を入力し、「OK」をクリックします。

## 財務諸表データの表示

財務諸表ファイルは、ローカル・ファイル・システム、共有ドライブまたは WebCenter Content Management など様々な場所で、Microsoft Word または Excel で開くことができます。

**ORACLE CORPORATION**  
**CONSOLIDATED STATEMENTS OF OPERATIONS**  
**For the Years Ended May 31, 2008, 2007 and 2006**

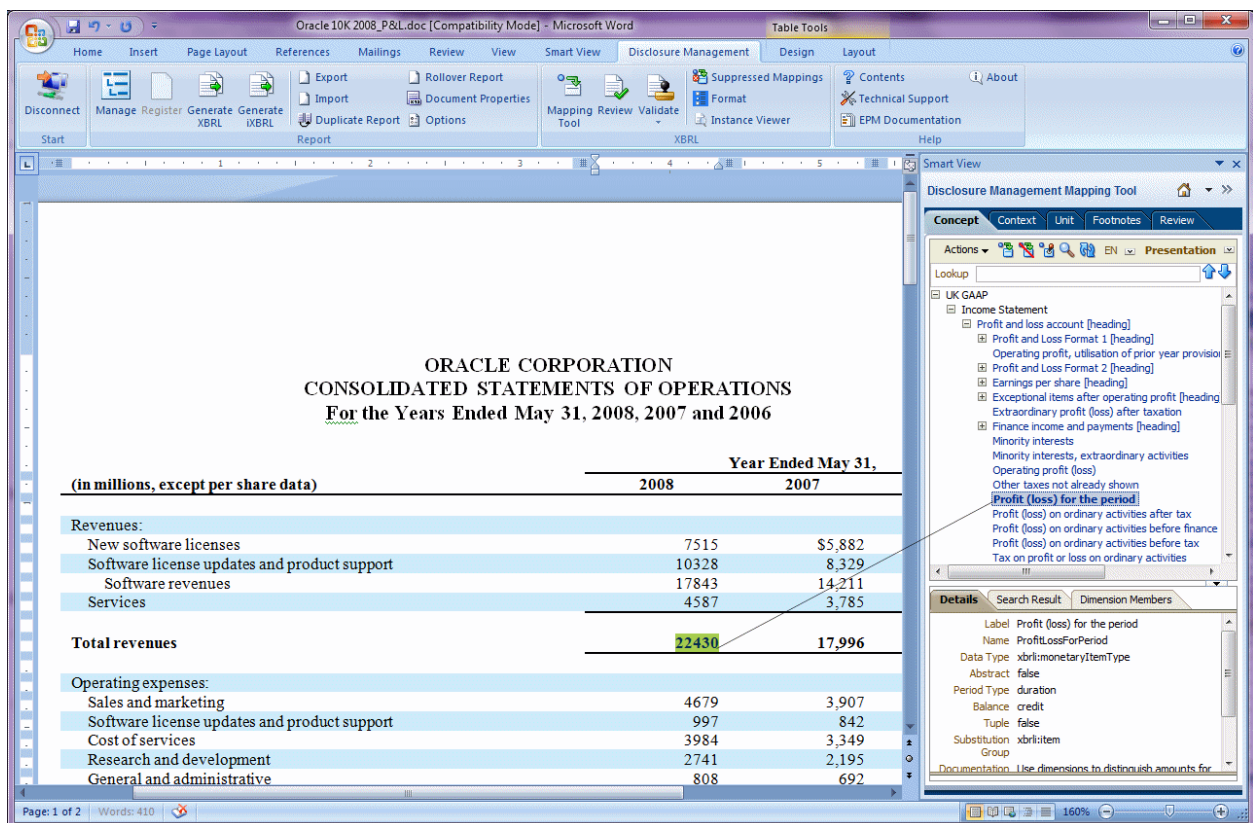
(in millions, except per share data)	Year Ended May 31,		
	2008	2007	2006
<b>Revenues:</b>			
New software licenses	7515	\$5,882	\$4,905
Software license updates and product support	10328	8,329	6,636
Software revenues	17843	14,211	11,541
Services	4587	3,785	2,839
<b>Total revenues</b>	<b>22430</b>	<b>17,996</b>	<b>14,380</b>
<b>Operating expenses:</b>			
Sales and marketing	4679	3,907	3,177
Software license updates and product support	997	842	719
Cost of services	3984	3,349	2,516
Research and development	2741	2,195	1,872
General and administrative	808	692	555
Amortization of intangible assets	1212	878	583
Acquisition related and other	124	140	137
Restructuring	41	19	85
<b>Total operating expenses</b>	<b>14586</b>	<b>12,022</b>	<b>9,644</b>
Operating income	7844	5,974	4,736
Interest expense	-394	-343	-169
Non-operating income, net	384	355	243
Income before provision for income taxes	7834	5,986	4,810
Provision for income taxes	2313	1,712	1,429
<b>Net income</b>	<b>5521</b>	<b>\$4,274</b>	<b>\$3,381</b>
<b>Earnings per share:</b>			
Basic	\$1.08	\$0.83	\$0.65
Diluted	\$1.06	\$0.81	\$0.64
Weighted average common shares outstanding:			
Basic	5,133	5,170	5,196
Diluted	5,229	5,269	5,287

## タクソノミへの財務レポートのマッピング

XBRL でエンコードされた財務レポートを作成する場合、財務レポート内の個々の情報とタクソノミの概念を相互に関連させます。この処理は、マッピングと呼ばれます。タクソノミで定義されていない概念を定義するためにタクソノミを調整するには、標準タクソノミを拡張します。拡張により、新しい概念の追加、計算の指定、値の再配置、またはラベルの名前変更が可能になります。この処理が完了した後、マップされたドキュメントを確認して検証し、インスタンス・ドキュメントを作成して、それを該当する規制機関に提出します。

**注：** タクソノミを拡張するプロセスについては、Disclosure Management XBRL タクソノミ設計者ガイドに説明されています。

Disclosure Management マッピング・ツールでは、XBRL 概念をドキュメント・データにマッピングするためのメカニズムとして、「マッピング」ボタンとドラッグ機能が提供されています。



## Disclosure Management のインターフェース

この項では、次に示す Disclosure Management のインターフェースについて説明します:

- 27 ページの「リボンおよびメニュー」
- 30 ページの「Disclosure Management マッピング・ツールの各タブへの移動」
- 31 ページの「Disclosure Management マッピング・ツールのメニューへの移動」

### リボンおよびメニュー

Office 2007 および 2010 では、機能は「Disclosure Management」リボンの下に表示されます。Office 2003 上の項目の編成は、Office 2007 のリボン構造に対応しています。

表 2 「Disclosure Management」のリボンのコマンド

リボンのコマンド	説明
「開始」グループ: 接続/切断	Disclosure Management サーバーに接続または切断します。このコマンドを使用するには、ユーザー名とパスワードが必要です。

リボンのコマンド	説明
「アクション」グループ: 登録	ドキュメント名のレポート名を入力するよう求められます。レポート名が設定されると、Disclosure Management でドキュメントが登録され、タクソノミ・マッピングとともにマッピング・リポジトリに名前が保存されます。
「アクション」グループ: ロールオーバー	元のタクソノミまたは新しいタクソノミを使用して、ある期間から別の期間にレポートをロールオーバーします。
「アクション」グループ: 複製	「複製したレポートのプロパティ」ダイアログ・ボックスを起動します。複製したレポートのオプションにより、ドキュメントとそのマッピングを別の物理ドキュメントにコピーし、Disclosure Management レポート名を指定し、マップされたアイテムに関連付けられた数値フォーマットを表示できます。
「アクション」グループ: エクスポート	ある Disclosure Management サーバー環境から別の環境にドキュメントやマッピングをエクスポートします。
「アクション」グループ: インポート	新しいサーバーにドキュメントをインポート(コピー)します。
「アクション」グループ: 公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インラインの XBRL (iXBRL ドキュメント)を生成し、オプションでそのドキュメントをビューアで開きます。iXBRL で生成されたドキュメントを使用すると、同じドキュメントに埋め込まれた XBRL メタデータを維持しながら、人間が理解できる HTML フォーマットでレポートを表示できます。英国の企業には、iXBRL フォーマットの納税申告書をオンラインで提出することが義務付けられています。</li> <li>● サーバーに XBRL インスタンス・ドキュメントを生成し、それをユーザーのコンピュータの指定されたファイルまたはパスにダウンロードして、オプションでそのドキュメントをビューアで開きます。</li> <li>● EDGAR 用にドキュメントを HTML 形式でレンダリングします。</li> <li>● ドキュメントを PDF 形式でレンダリングします。</li> <li>● Excel/Word オプションを指定すると、マスター・ドキュメントまたはドックレットから、マッピングを含む、Disclosure Management のメタデータを除く現在のドキュメントのコピーが生成されます。</li> </ul> <p>注：ドキュメントが Word ファイルの場合は「Word」が表示され、Microsoft Excel ドキュメントの場合は「Excel」が表示されます。</p>
「マップ」グループ: マッピング・ツール	「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルを表示します。

リボンのコマンド	説明
「マップ」グループ: 「確認」	<p>Disclosure Management マッピング・ツールの「確認」タブで、Office ドキュメントに関連する既存のマッピングを確認できます。ユーザーは、確認モードで Office ドキュメント内の既存のマッピングを削除、変更および編集できます。確認モード内には、次の2つのビューがあります:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ツリー - すべてのマップされたデータが、概念およびその概念に含まれているアイテムの階層ビューに表示されます。</li> <li>● リスト - マップされたすべてのデータを表形式で表示します。</li> </ul> <p>いずれのビューでも、ユーザーは確認リストからマップされたアイテムを選択することにより、Office ドキュメント内の該当データに移動できます。また、「確認」タブの「選択項目のフィルタ」ボタンをクリックして、現在のドキュメント内のテキストのセクションを選択し、そのセクション内で関連するマッピングのみを表示することもできます。</p> <p>また、Disclosure Management マッピング・ツールの確認タブをクリックして、マッピングを確認することもできます。</p>
「マップ」グループ: 抑制されたマッピング	<p>「抑制されたマッピング」ダイアログ・ボックスを起動します。この機能を使用することにより、対応するデータ・ソース・マッピングに属している、現在抑制されている個別のセルのマッピングを確認して、必要に応じて抑制されたマッピングを削除できます。</p>
「マップ」グループ: フォーマット	<p>「フォーマット」ダイアログ・ボックスを起動します。「フォーマット」のオプションを使用すると、正と負の符号、小数位と精度の値、スケーリング値、日付フォーマット、および文字列のフォーマット(リッチ、プレーンまたはデフォルト)を設定できます。</p>
「マップ」グループ: 検証	<p>検証ルールを使用して、マップされたドキュメントを検証できます。次があります:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● XBRL</li> <li>● iXBRL</li> <li>● US SEC (EDGAR XBRL および EDGAR HTML)</li> <li>● UK HRMC</li> <li>● グローバル IRFS</li> </ul>
「マップ」グループ: プレビュー	<p>インスタンス・ドキュメントおよびそのタクソノミへのローカル・パスを指定し、ビューアでインスタンス・ドキュメントをレンダリングできます。</p>
「レポート」グループ: 管理	<p>「Disclosure Management レポート・マネージャ」ペインが開きます。</p>
「レポート」グループ: プロパティ	<p>「ドキュメントのプロパティ」ダイアログ・ボックスを起動します。「ドキュメントのプロパティ」のオプションを使用すると、数値の接頭辞や接尾辞を追加および編集できます。また、マッピング実行時に Microsoft Word ドキュメントの数値データを解析するために、3桁ごとの区切り文字と小数点を指定できるだけでなく、マップされた数値アイテムにデフォルトのスケーリング値を指定することもできます。</p>
「レポート」グループ: オプション	<p>「オプション」ダイアログ・ボックスを起動します。オプションを使用して、Disclosure Management サーバー・オプションの選択、小数点以下の桁数/精度値の設定、SEC ビューアの構成、および詳細タグにフォーマットを含めるための選択を行います。</p>
「レポート」グループ: 変数の評価	<p>「評価」 / 「検証」 ボタンを切り替えて、変数設定または変数値を表示します。</p>
「ヘルプ」グループ: コンテンツ	<p>Oracle Disclosure Management ユーザー・ガイドが表示されます。</p>

リボンのコマンド	説明
「ヘルプ」グループ: テクニカル・サ ポート	Oracle カスタマ・サポート・ページが表示されます。
「ヘルプ」グループ: EPM ドキュメント	Enterprise Performance Management System のドキュメント・ライブラリが表示されます。
「ヘルプ」グループ: バージョン情報	Oracle Hyperion Disclosure Management のコピーライト・ページが表示されます。

## Disclosure Management マッピング・ツールの各タブ への移動

Office アドインで表示される Disclosure Management マッピング・ツールには、7 つのタブがあります:

- 概念 - 財務諸表データにマッピングするタクソノミ概念に移動、検索および選択します。
- コンテキスト - ビジネス・エンティティ、時間枠および XBRL ファクトに関するその他のオプションの詳細に関する情報を提供する XBRL コンテキスト定義を作成、編集および選択します。コンテキストは、XBRL ファクトにマップできます。
- 単位 - 数値データによって表されるメジャーを定義する XBRL 単位定義を作成、編集および選択します。単位は、XBRL 数値ファクトにマップできます。非数値データにはマップできません。
- 脚注 - レポート内の特定のデータに関する説明テキストの詳細を作成、編集および選択します。
- 変数 - 静的変数と参照変数を作成、編集および削除します
- 確認 - ドキュメントで定義されている XBRL マッピングを表示する確認ペインを開きます。
- 検証 - XBRL、iXBRL および EDGAR 検証を行うことができます。
  - 生成する前にドキュメントを検証できます。エラーが発生した場合、「検証」タブにメッセージが表示され、ドキュメントでエラーが発生した場所が強調表示されます。

**注:** Disclosure Management マッピング・ツールの幅によっては、5 つのタブの一部が表示されない場合があります。デフォルトでは、最初の 4 つのタブのみが表示されます。表示されていないタブに移動するには、Disclosure Management マッピング・ツールの左上隅か右上隅にある矢印をクリックして、目的のタブを選択します。すべてのタブが表示されるように Disclosure Management マッピング・ツールのサイズを変更することもできます。

## Disclosure Management マッピング・ツールのメニューへの移動

各タブには、「Disclosure Management マッピング・ツール」タブに固有のメニューおよび機能があります。たとえば、「概念」タブの「アクション」メニューには、タクソノミの選択、検索およびリフレッシュに固有のオプションがあります。

## XBRL タクソノミ概念について

「概念」タブでタクソノミを選択し、財務諸表データにマッピングするタクソノミ概念に移動、検索および選択します。タクソノミ概念または要素(同義で使用されます)は、タクソノミに定義されたメンバーを表します。たとえば、「総利益」はタクソノミに定義された概念です。Disclosure Management マッピング・ツールで、タクソノミ概念はツリービュー構造でレンダリングされます(親子関係がレンダリングされます)。Disclosure Management マッピング・ツールにより、Microsoft Office ドキュメントまたは Financial Reporting グリッドのデータにタクソノミ概念をマップできます。

## タクソノミの選択

管理者は、使用可能なタクソノミを Disclosure Management マッピング・ツールに登録します。

Disclosure Management は、各 Disclosure Management レポートにつき 1 つのタクソノミからのマッピングをサポートします。Disclosure Management レポートは、マスター・ドキュメントとドックレットの集まりです。

ユーザーがタクソノミを変更すると、変更の確認を求めるプロンプトが表示されます。変更が確認されると、元のタクソノミと一致するマッピングはそのまま保持され、一致しないものは適用できなくなり、表示されなくなります。詳細は、[44 ページの「タクソノミの変更」](#)を参照してください。

タクソノミがすでに Disclosure Management レポートに添付されている場合、ログイン時にドキュメントで自動的にタクソノミが開かれます。

▶ タクソノミを選択するには:

- 1 「概念」タブを選択します。
- 2 「アクション」メニューから「タクソノミの選択」を選択します。
- 3 タクソノミを選択し、「OK」をクリックします。

「タクソノミ」ペインに、最上位のタクソノミ・ノードが表示されます。

**注:** 特定のテーブルで複数のセルを選択され、概念タイプがグループ・タグ付けの対象となる場合(対応する概念タイプのサーバー側ルールに基づいて)、「テーブル全体をマップしますか」というメッセージが表示されます。「はい」を選択すると、選択したセルに 1 つのマッピングが作成され、「いいえ」を選択すると、セルごとに別個のマッピングが作成されます。

## タクソノミ言語の変更

タクソノミは、タクソノミの作成者によって作成された言語に基づいて、様々なローカライズ言語ラベルで表示できます。別の言語を選択すると、選択した言語は、概念ツリーとその様々なビュー、検索、および詳細に関連するすべてのラベルに反映されます。

タクソノミは、その名前が表示することもできます。「名前」オプションでは、概念に定義された一意の XBRL 名が表示されます。「名前」オプションは、ローカライズされたラベルではなく、特定の XBRL 名でタクソノミ概念を表示したい場合に役立ちます。

▶ タクソノミの言語を変更するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」を選択します。
- 2 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルで「概念」タブを選択します。
- 3 タクソノミが表示されている状態で、パネル・リボンにあるドロップダウンをクリックして言語コードを選択するか、「名前」を選択して XBRL タクソノミ名を表示します。

**注：** タクソノミを選択するには、「アクション」、「タクソノミを選択」の順にクリックします。

## タクソノミ・ビュー

タクソノミおよびツリー構造ビューはタクソノミで定義されます。Disclosure Management には4つのビュー(「表示」、「定義」、「次元」または「計算」)が用意され、「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルの「概念」タブに表示できます。アクティブなタクソノミのビューは、(「概念」タブ・リボンの右にある)ドロップダウン・リストに表示します。

次に、使用可能な次元ビューの注目すべき特徴を示します。

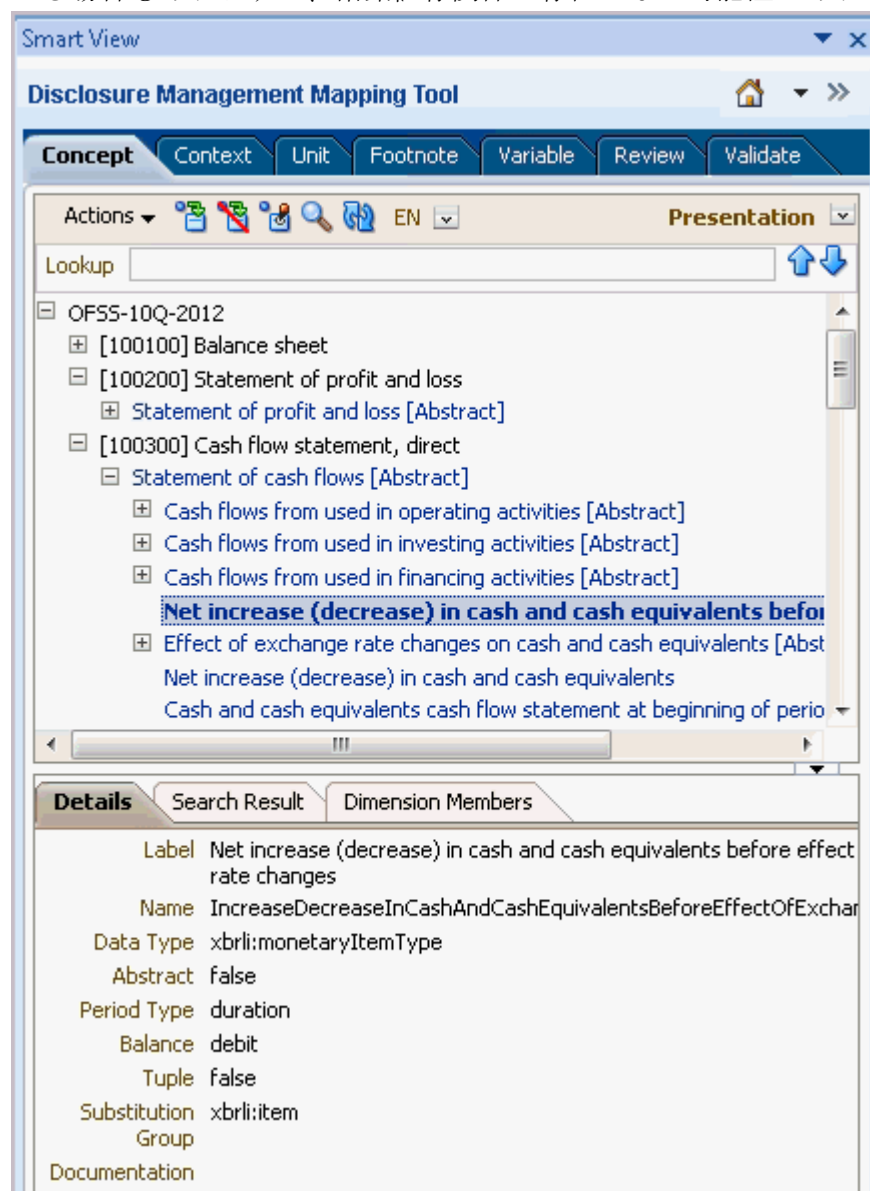
- 表示ビュー-「表示ビュー」は、親から子への要素の階層構造を提供する、表示リンクベース(タクソノミ内で概念が相互に表象的に関連する方法を定義する関係ファイル)である関係のタイプです。場合によっては、表示階層は財務レポートと同様に表されます。
- 定義ビュー-「定義ビュー」には、タクソノミ内の様々な多次元関係が含まれます。要素が相互に関連する方法について説明します。最も一般的な方法として、タクソノミからの定義リンクベースを表します。
- 「次元」ビュー-「次元」ビューにはフラット・リストで表示されます。ビューを選択すると、上部ペインに、アクティブなタクソノミで定義されたプライマリ・アイテムが表示されます。最初のアイテムにはデフォルト次元が表示されます。ビューで、「概念」タブの下部ペインに「次元メンバー」ペインが表示されます。

上部ペインからプライマリ・アイテムを選択すると、「次元メンバー」ペイン(下部ペイン)が更新され、選択したプライマリ・アイテムに関連する割当て可能なドメインおよびドメイン・メンバーを示す次元ツリーが表示されます。




デフォルト次元アイテムを選択すると、「次元メンバー」タブが更新され、すべてのタクソノミ・メンバーに割当て可能なデフォルト次元が表示されます。

- 計算ビュー - 計算の関係を示す概念の階層組織で、さまざまな概念がロールアップを介して相互に関連する方法を示します。合計が親ノードで、コントリビュータはリーフ・ノードとして表示されます。概念は借方および貸方インジケータ、ならびに各アイテムの横の加重インジケータで表示されます。この情報は、「詳細」タブにも表示されます。
- 「タプル」ビュー - XBRL タプルは、一連の関連概念です。タプルでは、同じ概念のいくつかの異なるグループを報告できるなど、これらの概念をグループとして報告することができます。タプルにはネストされたタプルが含まれている場合もありますが、循環依存関係が存在しない可能性があります。



▶ タクソノミ・ビューに変更するには:

- 1 Disclosure Management マッピング・ツールで「概念」タブを選択します。
- 2 「タクソノミ」ペインにタクソノミが表示されている状態で、「表示」ドロップダウン  をクリックします。

3 タクソノミの表示に使用するビューを選択します。


## タクソノミ・ビューの変更

タクソノミを操作する場合、複数のパースペクティブまたはビューからタクソノミの構造を確認できます。Disclosure Management には、タクソノミを表示するために複数のビューが用意されています。ビューに表示される概念の構造および数は、仕様デザイナーによって異なります。特定のビューに表示される概念が別のビューでは表示されない場合があります。また、1つの概念が同じビュー内に複数回表示されることもあります。

Disclosure Management は、次の5つのタクソノミ・ビューをサポートしています：

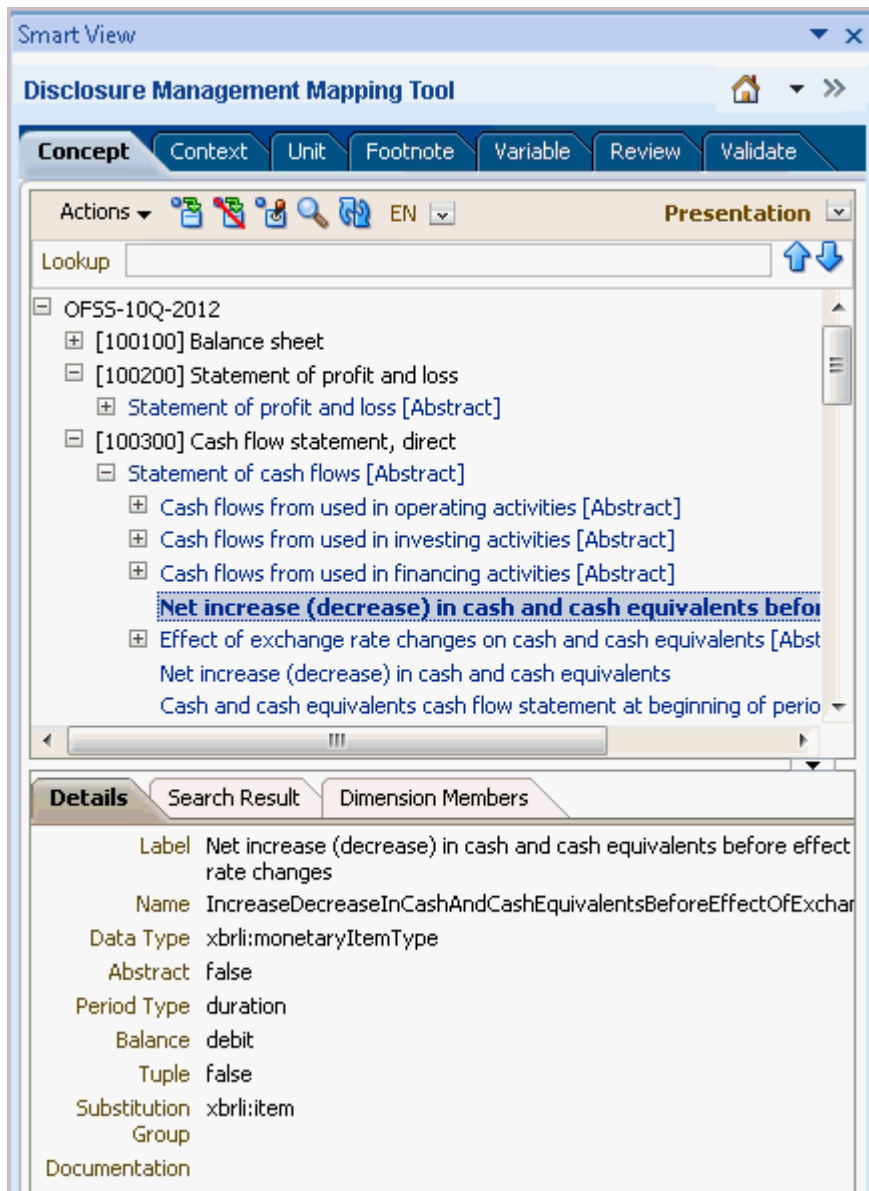
- 表示
- 計算
- 定義
- 次元
- タプル

▶ ビューを変更するには：

- 1 「概念」タブを選択します。
- 2 タクソノミが表示されている状態で  をクリックして、タクソノミ・ビューを選択します。

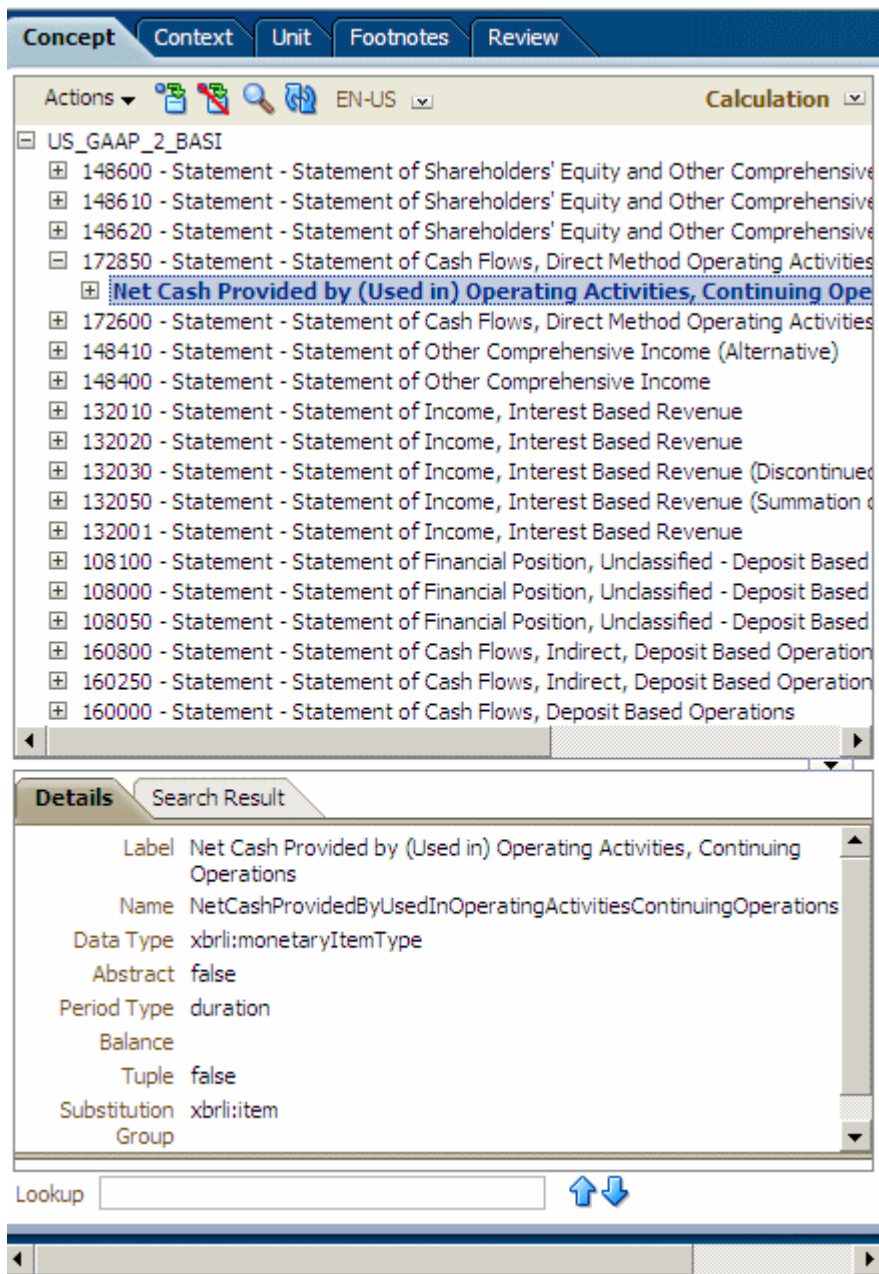
## 表示ビュー

表示ビューでは、親子階層内で概念がタクソノミ別に配置されます。



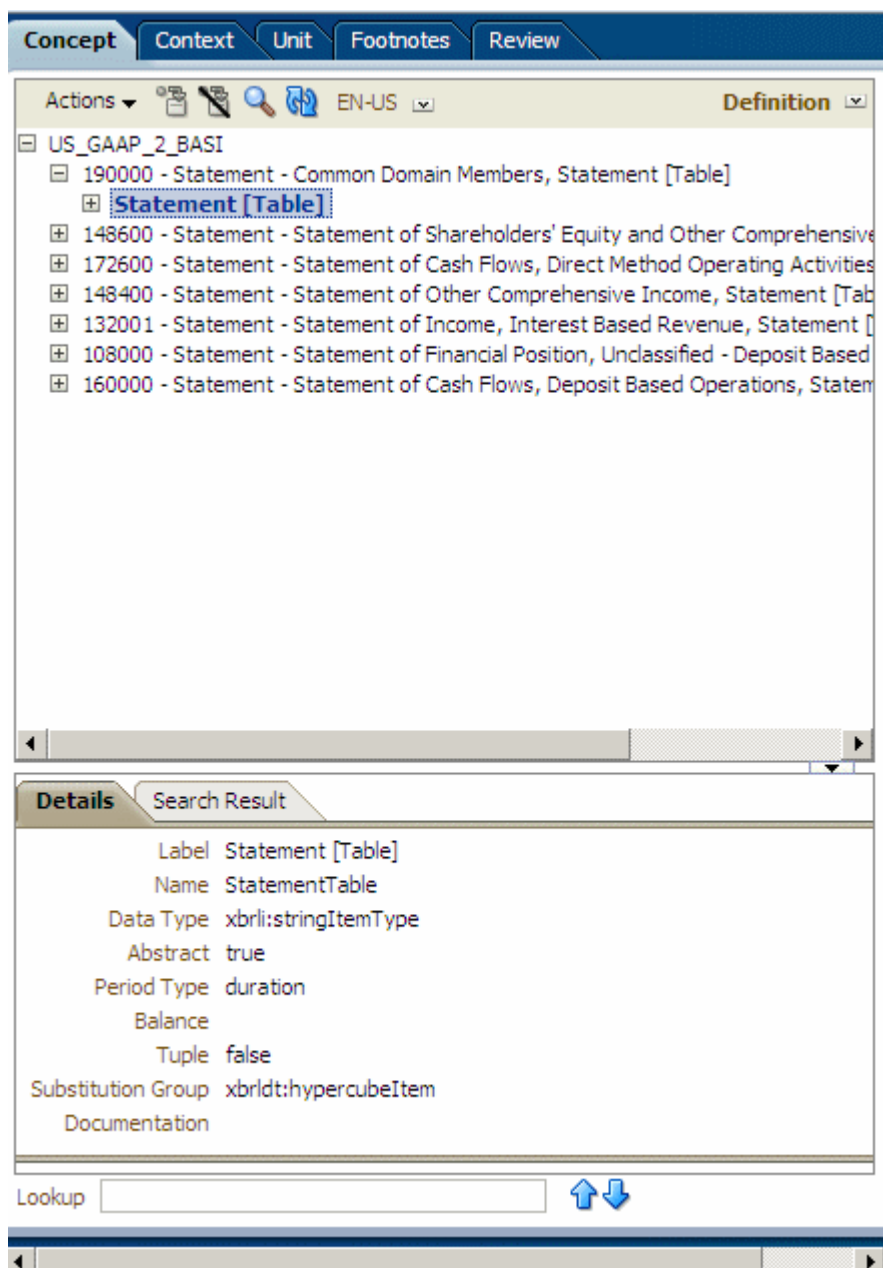
## 計算ビュー

計算ビューは、数値概念間の加算および減算関係別に概念を表示します。XBRL計算は、値が同じコンテキスト(ポイント・イン・タイム)参照と単位(メジャー)参照を共有する概念間の加算と減算を表します。



## 定義ビュー

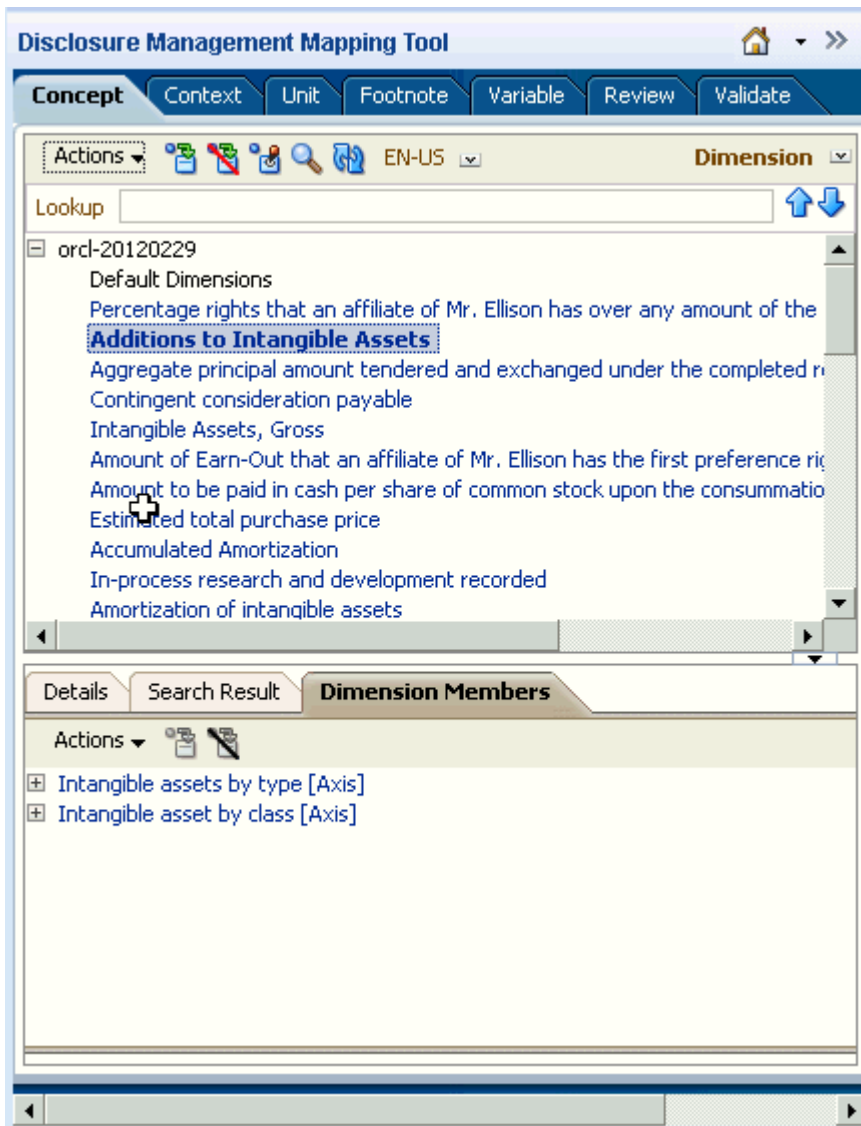
定義ビューには、タクソノミ内の様々なその他の関係が含まれます。これは一般に、次元関係を表すのに使用されます。



## 次元ビュー

次元ビューでは、プライマリ・アイテムであり XBRL 次元を持つ概念が配置されます。次元ビューは、タクソノミ内で使用可能なプライマリ・アイテム、ハイパーキューブ、次元、ドメインおよびドメイン・メンバーを評価します。

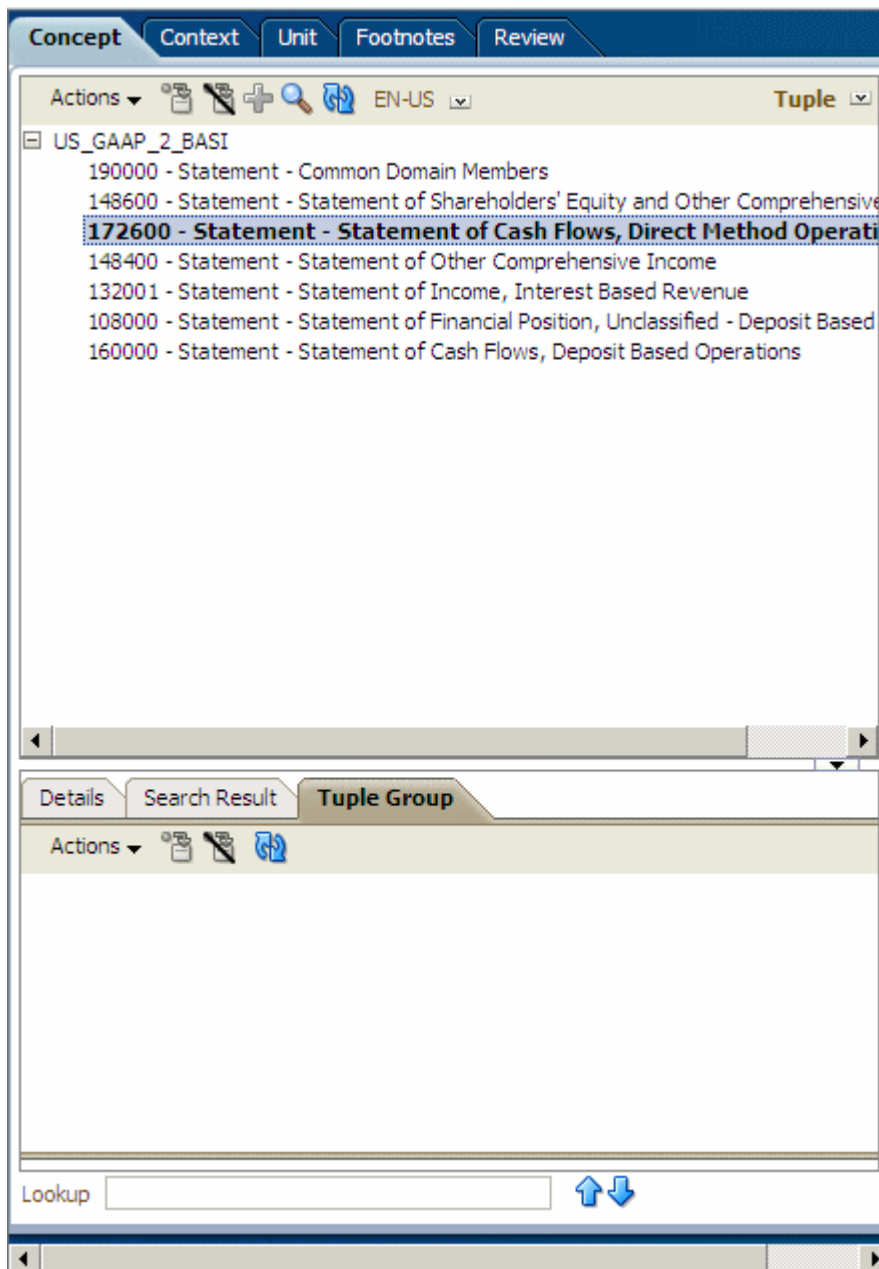
**注：** 次元ビューはタクソノミ内で定義されるのではなく、XBRL 次元を使用するすべてのタクソノミで使用可能な Disclosure Management で提供されたビューです。



## タプル・ビュー

タプル関係別に概念が配置されます。タプルは、複数の値が含まれる関連概念のグループです。個別タプル・メンバーのみでは十分な関連情報が提供されない場合がありますが、タプル・メンバーのグループによってより詳細な情報が提供されます。

**注：** タプル・ビューはタクソノミ内で定義されるのではなく、XBRL タプルを使用するすべてのタクソノミで使用可能な Disclosure Management で提供されたビューです。



## マッピングの概念

マッピングにより、タクソノミ概念を財務諸表データと関連付けることができます。同じアイテムを何度もマッピングして、複数のファクト値を作成できるようになりました。


▶ Microsoft Office ドキュメントのデータにタクソノミ概念をマップする手順は、次のとおりです(レポート/ドキュメント・レベルのマッピング):

### 1 マップするデータ・ポイントを強調表示します。

複数の Excel 表セルのデータ・ポイントを選択するには、[Ctrl]および[Shift]を押します。Microsoft Word のフリー・フォーム・テキストの単語、文または段落を選択できます。


Microsoft Word 表では、マッピングする前に、データ値または複数のセルを選択する必要があります。

Microsoft Word または Excel では、ドラッグしてタクソノミ概念をマップできます。

- 2 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルで、「概念」タブをクリックしてタクソノミ概念を選択します。「マッピングのアタッチ」ボタン -  をクリックします。

レポート/ドキュメント・レベルのマッピングが作成されると、黄色い影付きのセルになります。

- ▶ Smart View Office ドキュメントからデータ・ソースのタクソノミ概念をマップするには:

- 1 ドキュメントで、データ・ソース・メンバー(メタデータ・ラベル)を強調表示します。
- 2 Smart View リボンで「パネル」を選択し、パネルで「切替え先」ドロップダウンをクリックして、「概念」タブを選択します。
- 3 「タクソノミ」ペインのタクソノミ概念に移動し、「マッピングのアタッチ」ボタン -  をクリックします。



色のキューは、Financial Reporting グリッドで実行したマッピングのタイプを示します。セルに青い影が付いている場合は、データ・ソース・マッピングを示します。

第3章「財務サービスからのデータの取得」も参照してください。


## マップされた概念の除去

Office ドキュメントまたは Oracle Hyperion データ・ソース内のデータ・ポイントからタクソノミ概念マップを除去できます。マップされたデータ・ポイントが選択対象に複数含まれる場合、「マッピングの除去」ダイアログに、データ・ポイントに関連付けられたマッピングが表示されます。

- ▶ Office ドキュメント内のデータ・ポイントにマップされた概念を除去するには:

- 1 Disclosure Management マッピング・ツールで「概念」タブを選択します。
- 2 タクソノミ・リストで XBRL 概念を選択します。
- 3 「マッピングの除去」ボタン -  を選択します。
- 4 「マッピングの除去」ダイアログに、行ごとに、選択した XBRL 概念にマップされた値のリストが表示されます。
- 5 削除する行を選択して、「除去」ボタン -  をクリックします



注： 削除された行を元に戻すには、「リセット」ボタン -  をクリックします

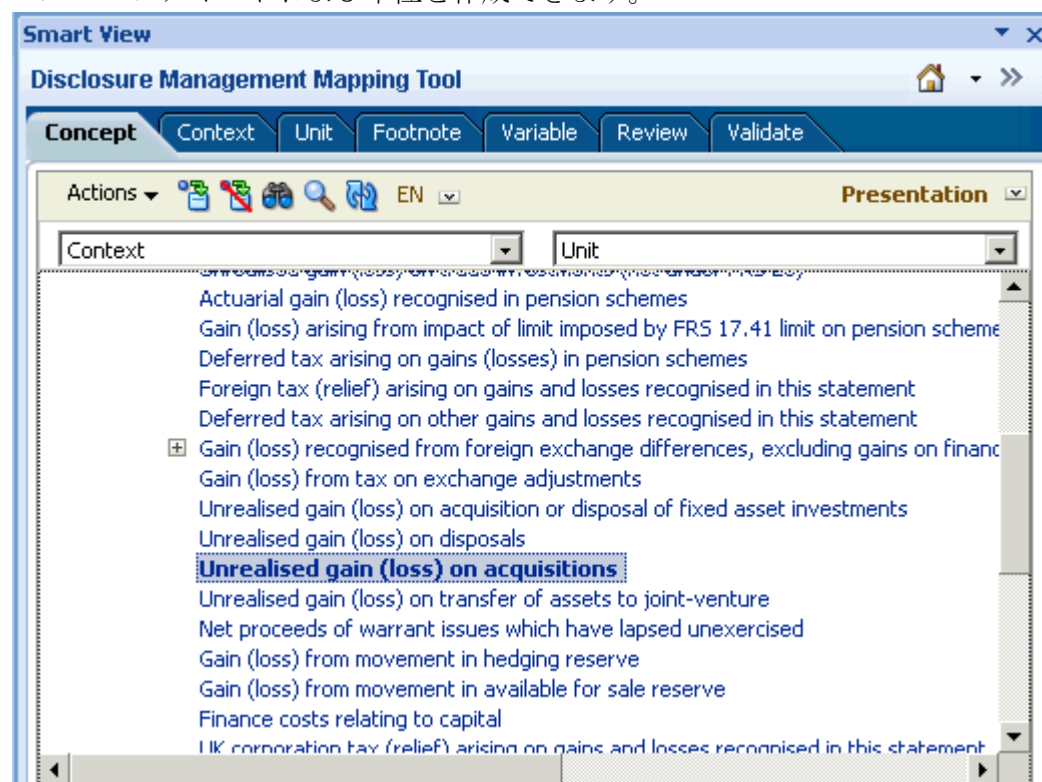
## 6 「OK」を選択します。

概念に XBRL 次元が関連付けられている場合、この次元情報もマップ・リポジトリから除去されます。


注： マップされた概念を「OK」をクリックして除去した場合は元に戻すことができないため、XBRL 概念を再マップしてタクソノミ概念の関連付けを再作成する必要があります。

## クイック・マッピング

クイック・マッピング機能を使用すると、マッピング時に個々の「概念」、「コンテキスト」および「単位」タブを切り替えずに、概念、コンテキスト、単位を同時にマップできます。また、Microsoft Excel と Word の両方で使用可能な、グローバル・コンテキストおよび単位を作成できます。




▶ クイック・マッピングを適用するには:

- 1 「タクソノミ」ペインのタクソノミ概念に移動し、 をクリックします。
- 2 「コンテキスト」ドロップダウンから、コンテキストを選択します。
- 3 「単位」ドロップダウンから、単位を選択します。
- 4 マップするデータ・ポイントを選択します。

複数の Excel 表セルのデータ・ポイントを選択するには、[Ctrl]および[Shift]を押します。Microsoft Word のフリー・フォーム・テキストの単語、文または段落を選択できます。

Microsoft Word 表では、マッピングする前に、データ値または複数のセルを選択する必要があります。

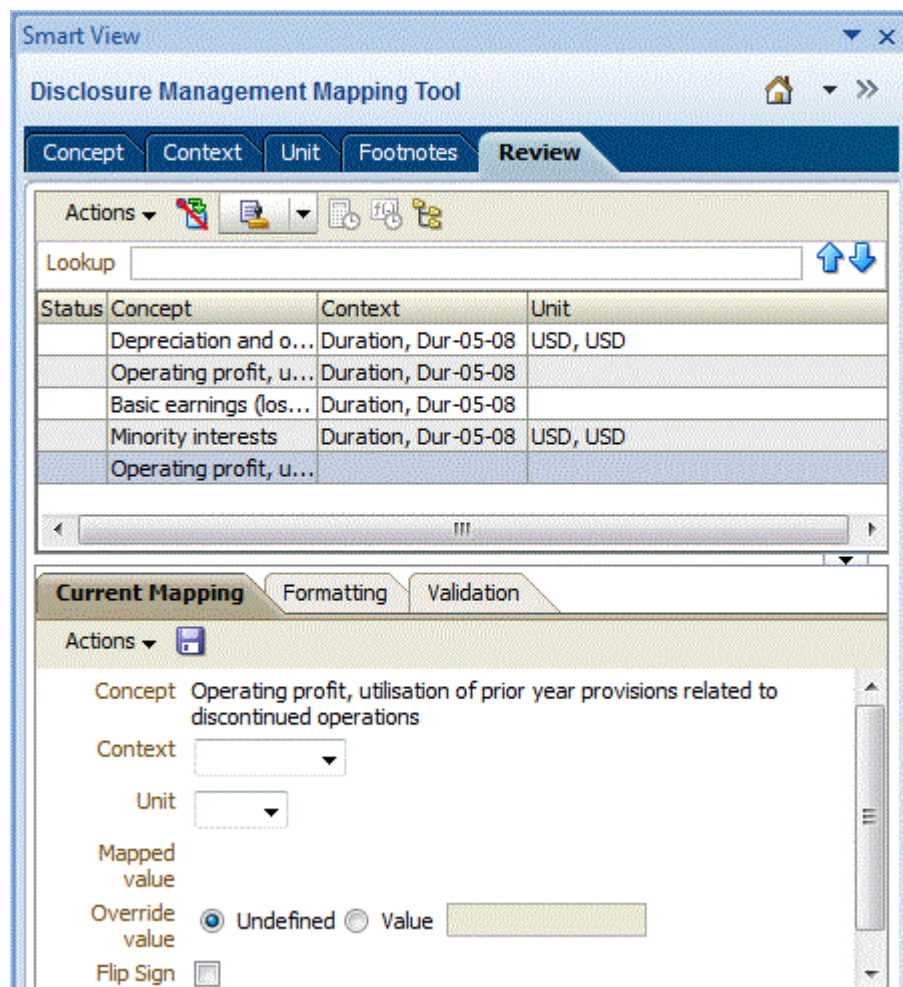
Microsoft Word または Excel では、ドラッグしてタクソノミ概念をマップできます。

- 5  をクリックして概念をマップします。

## NIL 値のマッピング

Microsoft Word や Excel の空白または空のセルをハイライトしてマッピングすることにより、Disclosure Management に nil 値を割り当てられます。nil 値が割り当てられると、確認モードで、「マップされた値」フィールドに空白値の新しいエントリが表示されます。nil 値のコンテンツを使用してレポートされるファクトは、値が不明であること、または要素に適用されないことを示します。XML スキーマでは、nil 値のコンテンツを使用してレポートされるファクトには、次の例で示すように、true 属性が割り当てられます:<us-

```
gaap:AccountsReivableNetCurrentcontextRef=" I-2010"  
precision=" INF" unitRef=" USD" xsi:nil=" true" />
```



Status	Concept	Context	Unit
	Depreciation and o...	Duration, Dur-05-08	USD, USD
	Operating profit, u...	Duration, Dur-05-08	
	Basic earnings (los...	Duration, Dur-05-08	
	Minority interests	Duration, Dur-05-08	USD, USD
	Operating profit, u...		

**Current Mapping**

Concept: Operating profit, utilisation of prior year provisions related to discontinued operations

Context: [Dropdown]

Unit: [Dropdown]


Mapped value: [Text]

Override value:  Undefined  Value [Text]

Flip Sign:

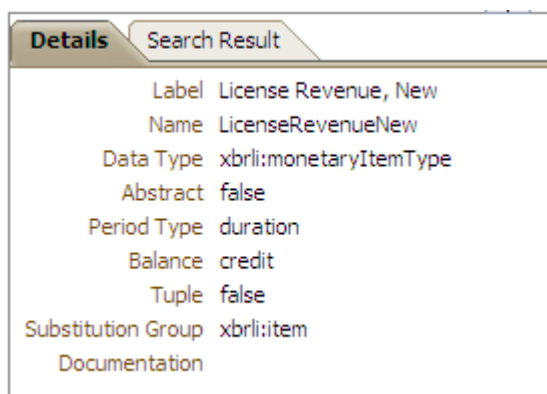
## タクソノミのリフレッシュ

タクソノミ・ツリーをリフレッシュすると、Disclosure Management サーバーから最新コンテンツが取得されます。

- ▶ タクソノミ・ツリーをリフレッシュするには、 を選択します。

## 概念詳細の表示

選択したタクソノミ概念の詳細が、Disclosure Management マッピング・ツールの「概念の詳細」ペインに表示されます。この情報は、選択した概念に関するプロパティ(ラベル、名前またはデータ型など)を反映しています。一部のプロパティはオプションです。



Details	
Label	License Revenue, New
Name	LicenseRevenueNew
Data Type	xbri:monetaryItemType
Abstract	false
Period Type	duration
Balance	credit
Tuple	false
Substitution Group	xbri:item
Documentation	


- ▶ 「概念の詳細」タブを表示するには、「概念」タブの水平スクロール・バーのすぐ下にある「ペインを元に戻す」アイコン -  をクリックします。

表3 概念詳細ペインのフィールドと説明

フィールド	説明
ラベル	理解しやすい概念名を示します。
名前	タクソノミ内の概念を示す一意の名前を示します。各概念には標準の名前があり、概念名と同一に扱われます。また各概念はタクソノミ内で一意です。
データ型	概念への関連付けが可能な所定のデータ・フォーマット(数値または文字列など)を示します。
抽象	抽象概念を使用してレポートまたはドキュメント内のデータをマップすることはできません。
期間タイプ	概念が一時点と期間のどちらとしてレポートされるかを示す、概念の属性。概念の期間タイプは、コンテキスト内の期間タイプ定義と一致する必要があります。たとえば、一時点として定義されているコンテキストは、期間タイプが期間であるタクソノミ概念に関連付けることはできません。
残高	数値に関連付けられている残高を識別するオプションの属性。使用可能な値: 貸方または借方。

フィールド	説明
タプル	複数の値が含まれるファクトで、ネストしたアイテムを保持した単一の XML 概念によって識別されます。1つのタプル・メンバーのみでは十分な関連情報が提供されない場合がありますが、タプル・メンバーのグループによって必要な情報が提供されます。たとえば、「会社の住所」というタプル概念は、「名前」、「番地」、「市町村区」、「都道府県」、「郵便番号」および「国」の各タプル・メンバーで構成できます。単一のタプル・メンバー(「市町村区」など)のみでは「会社の住所」という概念を記述するには十分ではありません。Disclosure Management マッピング・ツールの「概念」タブの下には、タクソノミ内に定義されている既存のすべてのタプルが表示されるタプル・ビューがあります。 <a href="#">78 ページの「タプルについて」</a> を参照してください。
代替グループ	複数の継承構造を実装できる XSD (XML スキーマ)エンティティ。XBRL では多くの代替グループを使用でき、必要に応じて規制タクソノミで定義できます。
ドキュメンテーション	概念に関する追加ドキュメントの提供に使用される特定の引用文を示します。

## タクソノミの変更

Disclosure Management では、1つの Office ドキュメントに1つのタクソノミのみを関連付けることができます。ただし、Office ドキュメントに関連付けられているタクソノミを変更できます。この操作を実行する場合は、その結果がどうなるかを事前によく検討してください。

ドキュメントのタクソノミを変更する場合、Disclosure Management では、その Office ドキュメントにタクソノミ・マップが存在するかどうかの確認が行われます。タクソノミ・マップが存在する場合は、「このドキュメントに関連付けられているタクソノミを変更すると、既存のマップが失われる可能性があります。タクソノミを変更しますか?」という警告が表示されます

タクソノミの変更を選択すると、次の処理が実行されます:


- すべての完全な概念マッピングが更新され、各要素のネームスペースがソース・タクソノミからターゲット・タクソノミのものに変更されます。いずれかのマッピングが無効な場合(概念の不一致と呼ばれる)、検証の際にエラーとして報告されます。
- ドキュメントに(前のタクソノミに関連する)データ・ソース・レベルのマップがある場合、これらのマップはマッピング・リポジトリから削除されません。
- コンテキスト、単位および脚注は保持されます(定義とマップはドキュメントに保存されているため、削除されません)。

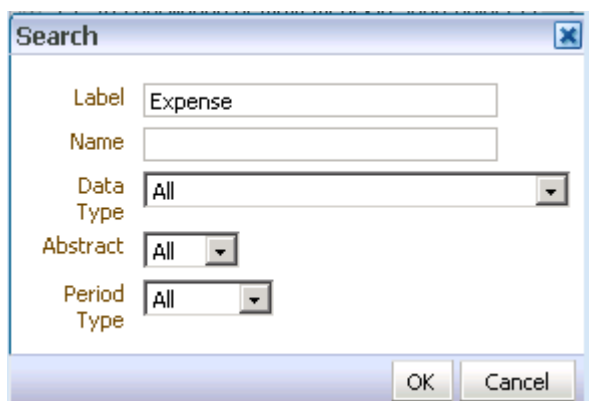
ドキュメントへのタクソノミ・マッピングが作成されていない場合、ユーザーによる確認の必要なしにタクソノミを変更できます。Disclosure Management マッピング・ツールでは、ユーザーが選択した新しいタクソノミは自動的にレンダリングされません。

## タクソノミ概念の検索

何千もの概念があるタクソノミを操作する場合、概念ラベルおよび追加フィルタ(概念名、日付タイプ、抽象および期間タイプ)別に概念を検索できます。

▶ タクソノミ概念を検索するには:

1 「概念」タブで、「検索」アイコン-を選択します。



2 「ラベル」に、理解しやすい概念名を入力します。たとえば、支出に関する概念を検索するには、「支出」と入力します。

3 オプション: 「名前」に、概念を示す一意の識別子を入力します。

4 オプション: 「データ型」で、概念に関連付けられたデータ型を選択します。値セットは、タクソノミの範囲に定義されたタイプに応じて異なります。

オプションは次のとおりです:

- すべて
- なし
- (タクソノミに基づいて、ドロップダウン・リストに様々なタイプが表示されます)

5 オプション: 「抽象」で、概念の抽象属性 True または False を選択します。

オプションは次のとおりです:

- すべて
- False
- True

6 オプション: 「期間タイプ」で、概念に関連付けられた期間タイプを選択します。


オプションは次のとおりです:

- すべて
- なし
- 期間
- 一時点

7 「OK」をクリックします。

検索結果は、「検索結果」タブに表示されます。

Label	Name	Data Type	Abstract	Period Type
Expense allowances, directors	ExpenseAllowance...	xbri:monetaryIte...	false	duration
Audit fees and expenses	AuditFeesExpenses	xbri:monetaryIte...	false	duration
Administrative expenses	AdministrativeExp...	xbri:monetaryIte...	false	duration
Taxation expense (credit)	TaxationExpenseC...	xbri:monetaryIte...	false	duration
Premium on ordinary shares issued for ...	PremiumOnOrdinar...	xbri:monetaryIte...	false	duration
Amortisation of intangible assets, expe...	AmortisationIntan...	xbri:monetaryIte...	false	duration
Depreciation of tangible fixed assets, e...	DepreciationTangi...	xbri:monetaryIte...	false	duration
Audit fees and expenses	AuditFeesExpenses	xbri:monetaryIte...	false	duration

「検索結果」タブは、水平スクロール・バーの直下にあるをクリックして、いつでも表示できます。


## XBRL コンテキストについて

インスタンス・ドキュメントでは、XBRL コンテキストは、レポートの個別ファクトまたは値に割り当てられたエンティティ、スキームおよびレポート期間の組合せに対する一意の識別子となります。XBRL コンテキストは、タクソノミ概念と組んでファクト値を定義し、XBRL がファクト値を他の値と関連させて解釈できるようにします。XBRL コンテキストは、数値情報と非数値情報に適用できます。コンテキストは、マップされるすべてのタクソノミ概念に必要です。

## XBRL コンテキストの追加

▶ XBRL コンテキストを追加するには:

1 「コンテキスト」タブを選択します。

2  をクリックします。

3 「名前」に、理解しやすいビジネス・エンティティ名、機関名または会社名を入力します。

この値は、インスタンス・ドキュメントには登録されません。

4 「エンティティ ID」に、ビジネスまたは機関エンティティを示す一意の識別子を入力します。

5 「スキーム」に、ファクトに関するコンテキスト情報を入力します。

通常、この値は URL です。


エンティティ ID の命名機関への参照を指定します。たとえば、コンテキストが US GAAP フレームワークを参照するよう指定できます。

6 「タイプ」で、ファクトが表す時間枠を選択します。


すべてのタクソノミ概念には、期間タイプ属性があります。タクソノミ概念にコンテキストを関連付ける場合、期間タイプが一致する必要があります。

オプション

- 一時点 - 貸借対照表勘定科目などのある時点での概念に使用されます。
- 期間 - 損益計算書やキャッシュ・フロー表などの時間の流れを示します。
- 永久

- 7 「開始」で「日付の選択」アイコン -  - をクリックして、レポート期間の開始期間を選択します。

日付を入力する場合、xx/xx/xxxx フォーマットを使用します。日付フォーマットは、ブラウザの現在のロケールにデフォルト設定されます。たとえば、ブラウザのロケールが欧州のロケールに設定されている場合、データは US GAAP タクソノミであっても dd/mm/yyyy として入力されます。

- 8 「終了」で「日付の選択」アイコン -  - をクリックして、レポート期間の終了期間を選択します。

このフィールドは、コンテキスト・タイプが「期間」である場合にのみ使用可能です。

日付を入力する場合、xx/xx/xxxx フォーマットを使用します。日付フォーマットは、ブラウザの現在のロケールにデフォルト設定されます。たとえば、ブラウザのロケールが欧州のロケールに設定されている場合、データは dd/mm/yyyy として入力されます。

- 9 「OK」をクリックします。

コンテキストがコンテキスト一覧ペインと対応する「詳細」タブに追加されます。

## コンテキストのマッピング


- ▶ Office ドキュメント内の XBRL コンテキストにデータ・ポイントをマップするには(レポート/ドキュメント・レベルまたは Smart View の関数グリッド):

- 1 マップするデータ・ポイントを選択します。

複数の Excel 表セルのデータ・ポイントを選択するには、[Ctrl]および[Shift]を押します。Microsoft Word のフリー・フォーム・テキストの単語、文または段落を選択できます。

Microsoft Word 表では、マッピングする前に、データ値または複数のセルを選択する必要があります。

Microsoft Word または Excel では、ドラッグしてコンテキストをマップできます。

- 2 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルの「概念」タブで XBRL 概念を選択し、「マッピングのアタッチ」アイコン -  - をクリックします。



マップされたデータ・ポイントが黄色で強調表示されます。

## マップされたコンテキストの除去

Office ドキュメントまたは Oracle Hyperion データ・ソース内のマップされたコンテキストを除去できます。コンテキストを削除すると、削除したコンテキストに関連付けられた既存のマッピングに影響します。

**注：** マップされたコンテキストの除去は元に戻すことはできず、XBRL コンテキストを再マップしてマッピングを再作成する必要があります。


▶ Office ドキュメント内の単一のデータ・ポイントまたは複数のデータ・ポイントにマップされたコンテキストを除去するには:

- 1 マップされたデータ・ポイントを選択します。
- 2 「マッピングの除去」ボタン -  を選択します。「マッピングの除去」ダイアログが表示されます。  
除去したコンテキスト・マップに XBRL 次元が関連付けられている場合、仮想コンテキストが適用されない場合に備えて、Disclosure Management マッピング・ツールで仮想コンテキストの内部リストもリフレッシュします(71 ページの「仮想コンテキスト」を参照)。
- 3 マップされたコンテキストの横にある「除去」アイコン()をクリックします。
- 4 「OK」をクリックします。

## コンテキストの更新

コンテキスト定義を変更すると、変更したコンテキストに関連付けられた既存のすべてのマッピングに影響します。


▶ コンテキストを更新するには:

- 1 「コンテキスト・リスト」ペインで、コンテキストを選択し、 をクリックします。
- 2 必要に応じてコンテキスト詳細を更新し、「OK」を選択します。

## コンテキストの削除

XBRL コンテキストまたは仮想コンテキストは、Office ドキュメント内のデータから除去できます。仮想コンテンツを削除すると、仮想コンテキストに関連付けられた次元および基本コンテキストと一致する既存のドキュメント・マップが除去されます(71 ページの「仮想コンテキスト」を参照)。

▶ コンテキストを除去するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」ペインの「コンテキスト」ペインで、除去するコンテキストを選択します。
- 2 「削除」アイコン -  をクリックします。



3 「OK」をクリックして確認します。

## コンテキストの検索



「Disclosure Management マッピング・ツール」ペインで検索機能を使用して、名前、タイプ、期間開始/期間終了で現在のドキュメントのコンテキストを検索します。

▶ 選択したコンテキストを検索するには:

1 Disclosure Management マッピング・ツールの「コンテキスト」タブの「検索」フィールドに、コンテキスト値を入力します。

使用可能な値タイプ:

- コンテキスト名
- コンテキスト・タイプ
- 期間開始
- 期間終了

2 「前」アイコン -  - をクリックしてリストを上方向に検索するか、「次」アイコン -  - をクリックしてコンテキストを前方検索します。



コンテキストが見つかったら、コンテキスト・リスト・ペインで強調表示されます。

## コンテキスト詳細の表示

コンテキスト詳細は、選択したタクソノミ・コンテキストのコンテキスト詳細ペインに表示されます。この情報は、選択したコンテキストに関連するプロパティ(名前、エンティティ ID、タイプおよび期間開始/終了など)を反映しています。

表 4 コンテキスト詳細ペインのフィールドと説明

フィールド	説明
*名前	コンテキストの名前またはラベルを指定します。この名前はインスタンス・ドキュメントには登録されません。たとえば、SEC CIK 番号を入力できます。必須。
*エンティティ ID	エンティティ、会社または機関を示す一意の ID を指定します。エンティティ ID には、他との識別になるコンテキストを記述します。会社の SEC CIK 番号を入力します。 注： インスタンス・ドキュメントに 1 つの会社のみが関連付けられている場合、「エンティティ ID」フィールドにこの会社名を入力しないでください。
*スキーム	エンティティ ID の命名機関への参照を指定します。通常、この値は URL です。たとえば、コンテキストが US GAAP フレームワークを参照するよう指定できます。


フィールド	説明
*タイプ	<p>ファクトが関連する期間を指定します。有効なオプションは、次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一時点 - 特定の日付(11/28/2009 など)</li> <li>● 期間 - 開始日および終了日が定義された期間(2009年11月28日から2010年5月28日までなど)</li> <li>● 永久 - 日付または期間の制限なし</li> </ul>
*開始	<p>レポート期間の開始日を指定します。日付は xx/xx/xxxx フォーマットで入力します。カレンダーから日付を選択するには、 をクリックします。</p> <p>日付フォーマットは、ブラウザの現在のロケールにデフォルト設定されます。たとえば、ブラウザのロケールが欧州のロケールに設定されている場合、データは US GAAP タクソノミであっても dd/mm/yyyy として入力されます。</p>
終了	<p>レポート期間の終了日を指定します。日付は xx/xx/xxxx フォーマットで入力します。カレンダーから日付を選択するには、 をクリックします。</p> <p>日付フォーマットは、ブラウザの現在のロケールにデフォルト設定されます。たとえば、ブラウザのロケールが欧州のロケールに設定されている場合、データは US GAAP タクソノミであっても dd/mm/yyyy として入力されます。</p>

## XBRL 単位について

インスタンス・ドキュメントでは、各数値に単位を指定する必要があります。単位には、単一メジャー値(通貨または通貨コード)として表示される単純単位か、単位の積の比率があります。この比率は、分子および分母が含まれる除算要素を使用して表されます。単純な単位の例には、USD (米国ドル)、CAD (カナダ・ドル)、キログラム、FTE (工数)、メートルまたは株式などがあります。積の比率には、1株当たりのユーロ(分子: EUR; 分母: 株数)などがあります。

## XBRL 単位の追加

▶ 単位を追加するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルで「単位」タブを選択します。
- 2 「新規」アイコン -  をクリックします。
- 3 「名前」に、単位の名前を入力します。
- 4 「メジャー」で、単位タイプを選択するか単位タイプを入力します。



に、mappingtool.properties ファイルから導出された編集可能な単位タイプのリストを示します。

- 5 「メジャー」フィールドで単位の単位タイプの積の比率を選択した場合、「次で除算」を選択し、「分母」に分母を指定します。
- 6 「OK」をクリックします。

下の表に、「単位」入力フィールドの詳細情報を示します。

表5 「単位」ペインのフィールドと説明

フィールド	説明
*名前	単位のラベルを入力します。たとえば、米国ドルの場合は「USD」、ユーロの場合は「EUR」と入力します。この値は、インスタンス・ドキュメントには登録されません。必須。
メジャー	オプション: 数値アイテムの測定に使用されている単位を選択します; たとえば、ドル、株式、ユーロまたは1株当たりのドルです。 <ul style="list-style-type: none"><li>通貨の値には、International Standards Organization の標準である ISO 4217 で認識される通貨単位タイプが必要です。詳細は、次を参照してください: <a href="http://www.iso.org">www.iso.org</a> (測定が行われた際に有効だったもの。)</li><li>株式の値には、単位「shares」を設定する必要があります。</li><li>1つの数値を乗算した値を使用せず、pure または percentage データ型を使用して示されるレート、パーセンテージおよび割合には、単位「pure」を設定する必要があります。</li></ul>
次で除算	オプション: 「分母」フィールドに表示されるメジャーを使用して測定された値の除算を使用可能にします。
分母	オプション: 「メジャー」フィールドに表示されるメジャーの除数として機能するメジャーを選択します。たとえば、「メジャー」フィールドに「iso4217:USD」とある場合、「shares」を選択できます。

## 単位のマッピング

▶ Office ドキュメント内のデータ・ポイントをマップする手順は、次のとおりです(レポート/ドキュメント・レベルまたは Smart View の関数グリッド):

### 1 マップするデータ・ポイントを選択します。

複数の Microsoft Excel テーブル・セルのデータ・ポイントを選択するには、「[Ctrl]」を押しながら「[Shift]」を押します。

Microsoft Word のフリー・フォーム・テキストの単語、文または段落も選択できます。

Microsoft Word 表では、マッピングする前に、データ値または複数のセルを選択する必要があります。

Microsoft Word または Excel では、ドラッグして単位をマップできます。

### 2 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルで、「単位」タブをクリックしてリストから単位を選択します。

### 3 「マッピングのアタッチ」ボタン - をクリックします。



マップされたデータ・ポイントが強調表示されます。

## マップされた単位の除去

Office ドキュメントまたは Oracle Hyperion データ・ソース内の単一のデータ・ポイントまたは複数のデータ・ポイントにマップされた単位を除去できます。


**注：** マップされた単位の除去は元に戻すことはできず、XBRL コンテキストを再マップしてマッピングを再作成する必要があります。

▶ Office ドキュメント内の単一または複数のデータ・ポイントにマップされた単位を除去するには:

- 1 Disclosure Management マッピング・ツールで「単位」タブを選択します。
- 2  を選択して「マッピングの除去」ダイアログを表示します。
- 3 マップされた単位を選択して、「除去」アイコン -  をクリックします。
- 4 「OK」 をクリックします。

## 単位詳細の更新


▶ 単位を更新するには:

- 1 Disclosure Management マッピング・ツールで「単位」タブを選択します。
- 2 「単位リスト」ペインで単位を選択し、 をクリックして「単位」ダイアログを表示します。
- 3 単位詳細を更新し、「OK」 をクリックします。

## 単位の削除

XBRL 単位は除去できます。単位を削除すると、削除した単位に関連付けられた既存のすべてのマッピングに影響します; マッピングは単位の関連付けを失います。

▶ 単位を除去するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」ペインで「単位」タブを選択します。
- 2 「単位リスト」・ペインで、単位を選択します。
- 3 「削除」アイコン -  をクリックします。
- 4 確認のメッセージで「はい」 をクリックします。



## 単位の検索

検索機能を使用して、選択した単位を単位名、メジャー、次で除算属性または分母値別に検索します。

▶ 選択した単位を検索するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」ペインで「単位」タブを選択します。
- 2 「検索」フィールドに、単位値別に検索内容を入力します。

使用可能な値は次のとおりです: 単位名、メジャー、次で除算属性または分母値。

- 3  を選択してリストを上方向に検索するか、 を選択してリストを下方向に検索します。


見つかった単位は、単位リスト・ペインで強調表示されます。

## 脚注について

多くの場合、ビジネス・レポートでは、ビジネス・データに関する詳細な説明テキストがレポート内に含まれます; これらを脚注と呼びます。脚注は、数値タクソノミ概念にマップされる財務諸表のデータ・ポイントに関連付けることができます。たとえば、データ型が `xbri:monetaryItemType` の数値タクソノミ概念「マーケティングおよび流通」にマップされる \$1000 に脚注を関連付けます。

## 脚注の追加

▶ 脚注を追加するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルで「脚注」タブを選択します。
- 2 「追加」アイコン -  を選択して「脚注」ダイアログを表示します。
- 3 「名前」に、脚注のわかりやすい名前を入力します。

たとえば、収益に関する脚注を追加する場合、「収益認識」のように入力します。

- 4 「フォーマット」を選択して、フォーマット・オプションを表示します。

詳細は、表 6 を参照してください。

- 5 テキスト・エントリ・フィールドに脚注テキストを入力します。

たとえば、「収益認識」の場合、次のように入力できます:

弊社は、次の事業から収益を得ます: (1) ソフトウェア(これには、新規ソフトウェア・ライセンス、ソフトウェア・ライセンスの更新、および製品サポートの収益が含まれます)、および(2) サービス(これには、コンサルティング、オンデマンドおよびエデュケーションの収益が含まれます)。新規ソフトウェア・ライセンスの収益とは、弊社のデータベース、ミドルウェアおよびアプリケーション・ソフトウェアを使用するライセンスを顧客に供与することによって得られる手数料を表しますが、ソフトウェア・ライセンスの更新から得られる収益を除きます。これは、ソフトウェア・ライセンスの更新および製品サポートの収益に含まれます。ソフトウェア・ライセンスの収益認識の基準は実質的に、米国公認会計士協会が発行する意見書の第 97-2 号「ソフトウェアの収益認識」(SOP 97-2)の規定に従いますが、弊社自身で判断を行い、会計期

間ごとに認識されるソフトウェアおよびサービスの収益額の算出に関連する概算を使用します。

- 6 「OK」をクリックします。

## 脚注のマッピング

▶ Office ドキュメント内の脚注に単一または複数のデータ・ポイントをマップする手順は、次のとおりです(レポート/ドキュメント・レベルまたは Smart View の関数グリッド):


- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」ペインを開いて「脚注」タブをクリックします。

- 2 ドキュメントで、マップするデータ・ポイントを選択します。

複数の Excel 表セルのデータ・ポイントを選択するには、「[Ctrl]」および「[Shift]」を押します。Microsoft Word のフリー・フォーム・テキストの単語、文または段落を選択できます。

Microsoft Word 表では、マッピングする前に、データ値または複数のセルを選択する必要があります。

Microsoft Word または Excel では、ドラッグして脚注をマップできます。

- 3 「脚注」タブでマップする脚注を選択して、「マッピングのアタッチ」アイコン -  をクリックします。マップされたデータ・ポイントが強調表示されます。

## マップされた脚注の除去


Office ドキュメントまたは Oracle Hyperion データ・ソース内の単一のデータ・ポイントまたは複数のデータ・ポイントにマップされた脚注を除去できます。


**注：** マップされた脚注の除去は元に戻すことはできず、マッピングを再作成するには XBRL コンテキストを再マップする必要があります。

▶ Office ドキュメント内の単一のデータ・ポイントまたは複数のデータ・ポイントにマップされた脚注を除去するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」ペインで「脚注」タブを選択します。

- 2 「マッピングの除去」アイコン -  を選択して「マッピングの除去」ダイアログを表示します。


- 3 マップされた脚注を選択して、「除去」アイコン -  をクリックします。

**注：** 「リセット」アイコン -  をクリックすると、操作を元に戻すことができます。ただし、「OK」をクリックした後に、除去された脚注を元に戻すことはできません。

- 4 「OK」をクリックします。

## 脚注の更新


▶ 脚注を更新するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルで「脚注」タブを選択します。
- 2 「脚注」リスト・ペインで脚注を選択し、 をクリックして「脚注」ダイアログを表示します。
- 3 脚注詳細を更新し、「OK」をクリックします。

## 脚注の削除

XBRL 脚注は除去できます。脚注を削除すると、削除した脚注に関連付けられた既存のすべてのマッピングに影響します; マッピングは脚注の関連付けを失います。

▶ 脚注を除去するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルで「脚注」タブを選択します。
- 2 「脚注」リスト・ペインで、除去する脚注を選択します。
- 3  をクリックします。
- 4 確認メッセージ・ボックスで「はい」を選択します。

## 脚注のフォーマット

標準的なワードプロセッサのフォーマットの適用、インデントおよびスペースの管理、および単語、数値または段落のフォーマットにより、脚注をフォーマットできます。

表 6 脚注のフォーマット・オプションと説明

フォーマット・アイコン	説明
	フォント・タイプ
	フォント・サイズ
	太字
	斜体
	下線
	下付き
	上付き

フォーマット・アイコン	説明
	左揃え
	元に戻す
	やり直し
	スタイルの消去
	リッチ・テキスト編集モード
	ソース・コード編集モード
	最前面色
	背景色
	中央揃え
	右揃え
	両端揃え
	箇条書き
	番号付きリスト
	インデント解除
	インデント
	リンクの追加(エクスプローラのユーザー・プロンプトを起動)
	リンクの除去



## 脚注の検索

検索機能を使用して、脚注を検索します。

▶ 脚注を検索する手順は、次のとおりです:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」 ペインで「脚注」 タブを選択します。
- 2 「検索」 フィールドに、脚注名を入力します。



- 3 「前」アイコン-  をクリックしてリストを後方検索するか、「次」アイコン-  をクリックしてリストを前方検索します。

一致した脚注は、「脚注」ペインで強調表示されます。

## 脚注詳細の表示

脚注詳細は、選択したタクソノミ脚注の脚注詳細ペインに表示されます。この情報は、脚注の名前と説明を反映しています。

表 7 脚注詳細ペインのフィールドと説明

フィールド	説明
名前	脚注の名前を表示します。この値は、インスタンス・ドキュメントには登録されません。
脚注	脚注のテキストを表示します

## 変数について


変数には、マスター・ドキュメントおよびドックレットで繰り返し使用できる特定の値が含まれます。既存の変数を編集して、変数がマップされるすべての場所に異なる値を表示できます。

変数マッピングを示すために、変数のプレースホルダがマスター・ドキュメントまたはドックレットに配置されます。ドキュメント/ドックレットが評価される際、変数に関連付けられた値がプレースホルダに置き換わります。変数には、次の2つのタイプがあります:

- **静的変数:** 静的変数は任意のユーザー定義値で作成され、ドキュメント/ドックレットにマップされます。変数には数値、日付、記号、文字列などを指定できます。静的変数は、「変数」タブを使用して単一の場所で定義できます。この変数は、ドキュメント内の任意の場所で、そのテキストのプレースホルダとして使用されます。評価される際、プレースホルダにはマップされたエリア内の変数の値が表示されます。静的変数の有効な例として、日付管理があります。申告では多く場所に同じ日付が出現し、ロールオーバーの処理中にこれらを個別に更新する必要がありますが、変数を使用することで、ロールオーバー時に変数値のみを変更すれば済みます。静的変数は、指定されたマスター・ドキュメントに関連付けられている任意のドックレットから編集できます。どこで編集された場合でも、静的変数の元のドックレット情報は保持されます。たとえば、doclet1 で作成された静的変数が別のドックレットまたはマスター・ドキュメントで編集された場合、静的変数値は更新され、元のドックレット情報は保持されます。
- **参照変数:** 参照変数は、ドキュメント/ドックレット内の任意のテキストまたはイメージを使用して参照を作成できます。参照変数が作成されたら、その変数をマップして相互参照またはページ参照ハイパーリンクを作成できます。ドキュメントに目次が含まれる場合、参照変数を使用して目次テキストおよびページ番号を追加できます。

## 静的変数の作成


▶ 静的変数を作成するには:

- 1 Disclosure Management マッピング・ツールで「変数」タブを選択します。  をクリックして「静的変数」を選択します。
- 2 静的変数ダイアログの「名前」フィールドに、一意の ID を入力します。例: CURR\_YEAR。特殊文字は使用できません。また、単語の間にスペースを入れないでください。
- 3 「値」フィールドに値を入力します。例: 2012 年 4 月 1 日。
- 4 「OK」をクリックして変数を保存します。
- 5 「変数」タブに変数が保存されます。

## 参照変数の作成

参照変数は、キーワード、語句およびドキュメント内の場所を識別するのに便利です。参照変数は、指定した場所またはテキスト選択を識別して、将来の参照のために特定します。

▶ 参照変数を作成するには:

- 1 ドキュメントまたはドックレットでテキスト、イメージまたはデータを選択します。
- 2 Disclosure Management マッピング・ツールで「変数」タブを選択します。  をクリックして「参照変数」を選択します。
- 3 選択したテキストが、参照変数ダイアログの「値」フィールドに入力されます。

**注:** データ・ソース・グリッドのデータが選択された場合、変数はデータ・ソース・レベルではなくドキュメント・レベルで作成されます。

- 4 「名前」フィールドに、一意の説明を入力します。特殊文字は使用できません。また、単語の間にスペースを入れないでください。
- 5 「リンク」をクリックして、選択したテキストへのリンクを作成します。
- 6 「OK」をクリックします。

## 参照変数の検索

マスター・ドキュメントとドックレット内の参照変数の場所を表示できます。


▶ 変数を検索するには:

- 1 ドックレットまたはマスター・ドキュメントを開きます。
- 2 「Disclosure Management マッピング・ツール」で「変数」タブを選択します。
- 3 参照タイプ変数を右クリックします。「参照変数」ダイアログが表示されます。

- 4 「検索」をクリックします。参照変数がドキュメントでハイライト表示されます。
- 5 「参照変数」ダイアログを終了するには、「OK」をクリックします。

## 静的変数のマッピング

静的変数の作成後、それらをドキュメント内の場所にマップできます。


- ▶ 静的変数をマップするには:
  - 1 変数を表示するドキュメント内の場所を選択します。
  - 2 Disclosure Management マッピング・ツールで、「変数」タブを選択して変数リストを表示します。リストの変数ごとに、「タイプ」列に、添付されている変数の種類(静的または参照)が示されます。
  - 3 静的タイプ・リスト項目を選択して、「マッピング」アイコン -  をクリックします。
  - 4 「詳細」タブにマッピング手順が追加されます。

## 参照変数のマッピング

参照変数は、様々な方法でマップできます(参照変数として、ページ参照として、またはハイパーリンクとして)。

### 参照変数を相互参照としてマップ


参照タイプの変数を作成後、それを相互参照としてマップできます。相互参照は、ドキュメントのある部分から別の部分にテキストやイメージを参照する際に使用されます。たとえば、「損益計算書」という参照変数を作成する場合、このテキストを別の場所に相互参照としてマップできます。評価時には、参照変数"損益計算書"の値がマップされた場所に表示されます。

- ▶ 参照変数を相互参照としてマップするには
  - 1 相互参照を追加するドキュメント内の場所を強調表示します。
  - 2 Disclosure Management マッピング・ツールで「変数」タブを選択して変数リストを表示し、参照タイプの変数を検索します。「タイプ」列見出しをクリックして、タイプ別に変数のリストをグループ化できます。
  - 3 参照変数を強調表示し、「マッピング」アイコン -  をクリックして変数のマップダイアログを表示します。
  - 4 「相互参照」をクリックして、参照変数の値を挿入します。これはデフォルト設定です。
  - 5 オプション。「ハイパーリンクとして挿入」をクリックして、参照変数の場所へのリンクを追加します。
  - 6 「OK」をクリックします。

## 参照変数をページ参照としてマップ

ページ参照では、マップされた場所に参照変数のページ番号を挿入します。参照変数を選択して、それを目的の場所にマップできます。たとえば、目次にマッピングを配置できます。結果としてページ番号が表示されます。参照変数へのハイパーリンクを設定することもできます。この場合、ページ番号をクリックすると、ドキュメント内の参照変数にリンクされます。


▶ 参照変数をページ参照としてマップするには

- 1 ページ参照を追加するドキュメント内の場所を強調表示します。
- 2 Disclosure Management マッピング・ツールで「変数」タブを選択して変数リストを表示し、参照タイプの変数を検索します。「タイプ」列見出しをクリックして、タイプ別に変数のリストをグループ化できます。
- 3 参照変数を強調表示し、「マッピング」アイコン -  をクリックして変数のマップダイアログを表示します。
- 4 「ページ参照」をクリックして、参照変数の場所のページ番号参照を挿入します。
- 5 オプション。「ハイパーリンクとして挿入」をクリックして、参照変数の場所へのリンクに追加します。
- 6 「OK」をクリックします。

## 参照変数をハイパーリンクとしてマップ

参照変数およびドキュメント内の任意の場所を選択し、ハイパーリンク・マッピングを使用して、ドキュメント内の選択した場所に表示するテキストを作成できます。たとえば、ハイパーリンク・マッピングでは、選択した参照変数の場所にリンクする"ここをクリック"というテキストを、ドキュメントに追加して表示することができます。

▶ ハイパーリンクを参照変数にマップするには:

- 1 ハイパーリンクを追加するドキュメント内の場所を強調表示します。
- 2 Disclosure Management マッピング・ツールで「変数」タブを選択して変数リストを表示し、参照タイプの変数を検索します。「タイプ」列見出しをクリックして、タイプ別に変数のリストをグループ化できます。
- 3 参照変数を強調表示し、「マッピング」アイコン -  をクリックして変数のマップダイアログを表示します。
- 4 「ハイパーリンク」をクリックします。
- 5 「表示するテキスト」フィールドに、ドキュメントに表示するハイパーリンク・テキストを入力します。
- 6 「OK」をクリックします。

## 変数リストの表示

変数は、Disclosure Management マッピング・ツールの「変数」ペインに表示されます。次の情報が含まれます:


- 名前 - ユーザーに割り当てられたユーザー定義の変数名。スペースを入れることはできません。
- 値 - 静的変数の場合、ユーザーが入力した値。参照変数の場合、ドキュメントから選択された値。
- タイプ - 変数のタイプ(静的または参照)。
- 場所 - 変数が作成されたドックレットの名前。

変数がマスター・ドキュメントで作成された場合は、レポート名が表示されます。


リストの変数をクリックすると、そのマッピングが下部ペインに反映されます。次の情報が含まれます:

- 値 - Word を使用している場合、ドキュメント内にマッピングが存在するページおよび行番号。Excel を使用している場合、ドキュメント内にマッピングが存在するページおよびセルの位置(行および列)。
- タイプ - 参照変数の場合、表示されるマッピング・タイプは相互参照、ページ参照またはハイパーリンクです。静的変数の場合、静的変数タイプが表示されます。
- 場所 - マッピングが行われたドックレットの名前。

## 変数の編集

変数を編集するには、変数を選択して「編集」ボタン -  をクリックします。

- 静的変数を選択すると、静的変数ダイアログが表示されます。「新規の値」フィールドを入力して、「OK」をクリックします。
- 参照変数を選択すると、参照変数ダイアログが表示されます。「検索」をクリックすると、ドキュメント内の参照変数の現在の場所が、黄色に強調表示されて表示されます。ドキュメントで新しい場所をクリックし、変数にリンクダイアログで「リンク」をクリックします。「OK」をクリックします。

「リフレッシュ」ボタン、 をクリックして、変数のマップ済の場所を更新します。

**注:** 参照変数は、変数が作成されたドックレットでしか編集できません。

## 変数の削除および変数マッピングの除去

変数を削除すると、マッピングもすべて削除されます。削除されたグローバル変数のマッピングがドキュメントに存在する場合、それらは自動的に除去されます。複数のドックレットにマップされた変数がマスター・ドキュメントから除去されると、その変数はすべてのドックレットから除去されます。

変数が作成された場所に関係なく、変数マッピングはマスター・ドキュメントまたはドックレットのどこからでも除去できます。マッピングを除去すると、ドキュメントのその場所から変数情報が除去されます。

▶ 変数を削除するには:

- 1 「Disclosure Management」リボンで「マッピング・ツール」を選択し、「変数」タブを選択します。
- 2 変数を強調表示し、「アクション」ドロップダウンをクリックして「削除」を選択します。



▶ 変数マッピングを削除するには:

- 1 「Disclosure Management」リボンで「マッピング・ツール」を選択し、「変数」タブを選択します。
- 2 「詳細」タブで変数マッピングを強調表示し、「アクション」ドロップダウンをクリックして「マッピングの除去」を選択します。

## ドキュメントでの変数マッピングの表示

「詳細」タブでマッピングを選択して、現在のドキュメントでのマッピングの位置を強調表示できます。

▶ マッピングを表示するには:

- 1 「Disclosure Management」リボンで「マッピング・ツール」を選択し、「変数」タブを選択します。
- 2 「変数」タブで変数をクリックすると、「詳細」タブにマッピングが表示されます。
- 3 ドキュメント内のマッピングを表示するには、次を行います:
  - 変数マッピングをダブルクリックします。
  - 変数マッピングを強調表示して、値検索アイコン -  をクリックします。
  - 複数の変数マッピングを強調表示して、値検索ボタン -  をクリックします。

## 変数の評価

「Disclosure Management」リボンで、「評価」および「変数」ボタンを切り替えて、変数の値または変数の定義をそれぞれ表示できます。いくつか制限事項があります:

- Microsoft Excel および Word のドックレットでは、ページ番号の値がその位置を表すのはマスター・ドキュメントの範囲内に限られるため、ページ参照変数は評価できません。ページ参照はマスター・ドキュメントから正しく評価します。
- Microsoft Excel および Word のドックレットで、評価モードでハイパーリンク変数をクリックすると、ハイパーリンクのターゲットが同じドックレット内

にある場合のみ、適切な場所へ移動します。ハイパーリンクのターゲットが別のドックレットにある場合は、リンクをクリックしても効果はありません。すべてのハイパーリンクはマスター・ドキュメントから正しくリンクします。

- マスター・ドキュメントでは、すべてのドックレットからのすべての変数が正しく評価されます。

## 次元について

次元は、ハイパーキューブのスライスまたは軸です。タクソノミによっては、次元は"軸"、ハイパーキューブは"表"と呼ばれることがあります。XBRL では、2つの次元タイプが定義されます。

- 明示的な次元-ドメインとメンバーが既知です。詳細構造およびコンテンツはタクソノミで明示的に定義されます。
- タイプ指定された次元-ドメイン・メンバーは不明で、詳細構造とコンテンツを含みます。これらのメンバーは無限である可能性があり、またはタクソノミに明示的に列挙することは非実用的です。

XBRL 次元を使用して、メジャー値にコンテンツを追加できます。XBRL 次元は、概念をカテゴリ化またはセグメント化したものとみなすことができます。XBRL 次元では、ファクト間のセマンティック関係を表すことによってどのようにメジャー値に到達したか、およびそれらがどのようにセグメント化されたかを説明する手段としてカテゴリが使用されます。たとえば、収益概念に地域次元と製品ライン次元が含まれている場合、他の概念に対しても同様に地域次元と製品ライン次元を再利用できます。収益概念は各次元から1つの値を選択する必要があります。そのため、どの地域や製品ラインが適用されるかを指定せずに収益をレポートすることはできません。これにより検証エラーが生成されます。一部のタクソノミでは"デフォルト"(通常は"ドメイン")を指定します。そして、地域次元のデフォルトは"全地域"および製品ラインは"すべての製品"である可能性があります。これらの2つのデフォルトが設定され、明示的にマップされた次元を含まないレポートされた"収益"は、"全地域"および"すべての製品"に対する"収益"をレポートしていることを示します。

このイメージは、「次元メンバー」タブの"デフォルトの"表記を示しています。



マッピング処理で、次元メンバーが XBRL コンテキストに関連付けられるようになります。したがって、次元マッピングは、コンテキストによってのみ概念マップ(ファクト値)に関連付けられます。

XBRL 次元は、Oracle Hyperion データ・ソース(Oracle Essbase または Oracle Hyperion Financial Management など)の次元とは異なります。XBRL 次元と Oracle Hyperion データ・ソースの次元の間には、概念の面でいくつかの類似点がありますが、体系的な関係はありません。これら 2 つを混同しないでください。

XBRL 次元の基本用語:

- ハイパーキューブ - 次元のコレクションを表します。ハイパーキューブはプライマリ・アイテムに関連付ける次元を定義します




- プライマリ・アイテム - 財務レポートのライン・アイテムを表す概念。ハイパーキューブがプライマリ・アイテムに関連付けられている場合、適用される次元が決まります。
- 次元 - 情報がレポートされるカテゴリ。
- ドメインおよびドメイン・メンバー - 次元を表すために使用されるすべてのドメイン・メンバーのセットです。

## プライマリ・アイテムのマッピング

「概念」タブで「次元」ビューを選択してプライマリ・アイテムを表示したら、通常のタクソノミ概念をマップするのと同じ方法で、プライマリ・アイテムをマップします。プライマリ・アイテムは、表示ビューと計算ビューにも一覧表示されます。

▶ プライマリ・アイテムをマップする手順は、次のとおりです:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルで、「概念」タブで「次元」ビューが選択されていることを確認します。
- 2 ドキュメントで、マップするプライマリ・アイテムを選択します。
- 3 「概念」タブで、「マッピングのアタッチ」アイコン -  を選択します。

## ドメインおよびドメイン・メンバーのマッピング


上部ペインからプライマリ・アイテムを選択した後、「次元メンバー」ペインの次元ツリーからドメインおよびドメイン・メンバーをマップできます。ドメインおよびドメイン・メンバーをマップする場合は、次の点に注意してください:

- 様々な次元からの複数のドメインまたはドメイン・メンバー(あるいはその両方)を同じファクト値にマップできます。たとえば、ドメイン・メンバー Soda および New York を同じファクト値にマップできます。
- 同じ次元の複数のドメイン・メンバーを同じファクト値にマッピングすることはできません。たとえば、Regions 次元からのドメイン East および West を同じファクト値にマップすることはできません。
- ハイパーキューブと次元は常に抽象であり、Disclosure Management では、Office ドキュメント・データにマップすることはできません。
- 「デフォルト」次元 - 一部のタクソノミでは次元に"デフォルト"(通常は"ドメイン")を指定します。デフォルトが意図した次元値の場合、次元マッピングは必要ありません。その代わりに推測されます。次のイメージは、「次元メン

バー」タブのデフォルトの表記を示しています。



▶ ドメインまたはドメイン・メンバーをマップするには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルで、「概念」タブの「表示」または「定義」ビューが選択されていることを確認します。
- 2 ドキュメントで、マップするドメイン・アイテムを選択します。
- 3 ドメインまたはドメイン・メンバーを選択します。
- 4 下部ペインにある「次元メンバー」タブで、「マッピングのアタッチ」アイコン  をクリックします。

## レポート・レベルのマッピング

レポート・レベル・マッピングに対し次元をマッピングする場合、Disclosure Management では次をマップできます。

1. プライマリ・アイテム。次の例では、「概念」タブ

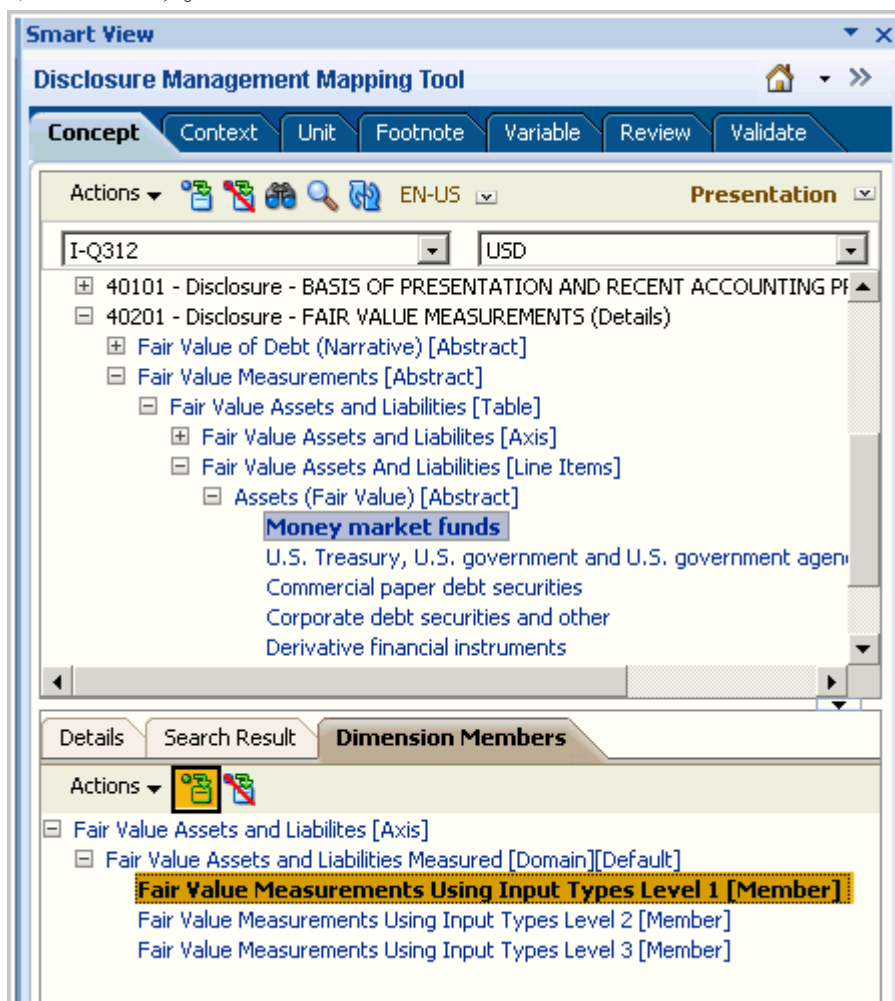
	September 30, 2012				December 31, 2011			
	Fair Value Measurements Using Input Types				Fair Value Measurements Using Input Types			
(in millions)	Level 1	Level 2	Level 3	Total	Level 1	Level 2	Level 3	Total
Assets:								
Money market funds	\$ 36	\$ -	\$ -	\$ 36	\$ 3,371	\$ -	\$ -	\$ 3,472
U.S. Treasury, U.S. government and U.S. government agency debt securities	415	-	-	526	1,140	-	-	1,040
Commercial paper debt securities	-	14,042	-	14,531	-	11,882	-	11,664
Corporate debt securities and other	244	1,837	-	1,492	107	1,887	-	1,991
Derivative financial instruments	-	51	-	63	-	36	-	289
<b>Total assets</b>	<b>\$ 695</b>	<b>\$ 15,930</b>	<b>\$ -</b>	<b>\$ 16,626</b>	<b>\$ 4,618</b>	<b>\$ 13,805</b>	<b>\$ -</b>	<b>\$ 18,456</b>

を使用して、プライマリ・アイテム・マッピングがドキュメント内のセルに作成されます。

2. 次元を個別のセルに。次のイメージは選択したセルを示しています。

	September 30, 2012				December 31, 2011			
	Fair Value Measurements Using Input Types				Fair Value Measurements Using Input Types			
(in millions)	Level 1	Level 2	Level 3	Total	Level 1	Level 2	Level 3	Total
Assets:								
Money market funds	\$ 36	\$ -	\$ -	\$ 36	\$ 3,371	\$ -	\$ -	\$ 3,472
U.S. Treasury, U.S. government and U.S. government agency debt securities	415	-	-	526	1,140	-	-	1,040
Commercial paper debt securities	-	14,042	-	14,531	-	11,882	-	11,664
Corporate debt securities and other	244	1,837	-	1,492	107	1,887	-	1,991
Derivative financial instruments	-	51	-	63	-	36	-	289
<b>Total assets</b>	<b>\$ 695</b>	<b>\$ 15,930</b>	<b>\$ -</b>	<b>\$ 16,626</b>	<b>\$ 4,618</b>	<b>\$ 13,805</b>	<b>\$ -</b>	<b>\$ 18,456</b>

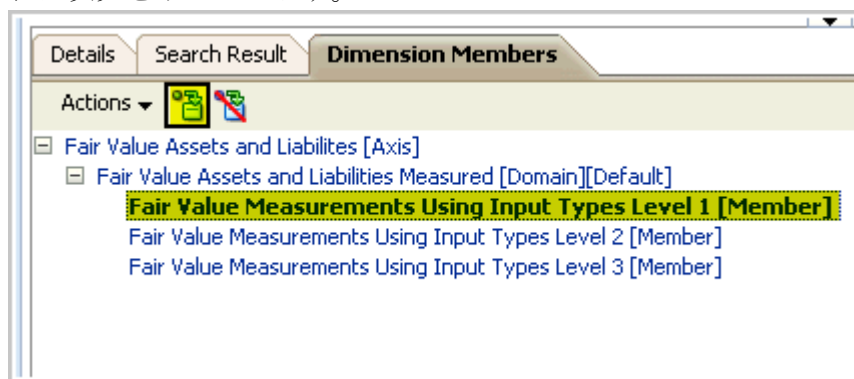
次のイメージは、「次元メンバー」タブを使用してセルにマップされた次元を示しています。



3. 次元をセルの選択に。次のイメージは、選択したセルのグループを示しています。

	A	BC	D	EFG	H	IJK	L	MO	P	RS	T	UV	X	YZA	AB
1		September 30, 2012					December 31, 2011								
2		Fair Value Measurements Using					Fair Value Measurements								
3		Input Types					Using Input Types								
4	(in millions)		Level 1	Level 2	Level 3	Total	Level 1	Level 2	Total						
5	Assets:														
6	Money market funds	\$	36	\$ -	\$ -	\$ 14	\$ 3,371	\$ -	\$ 3,472						
7	U.S. Treasury, U.S. government and U.S. government agency debt securities		415	-	-	526	1,140	-	1,040						
8	Commercial paper debt securities		-	14,042	-	14,531	-	11,882	11,664						
9	Corporate debt securities and other		244	1,837	-	1,492	107	1,887	1,991						
10	Derivative financial instruments		-	51	-	63	-	36	289						
11	Total assets	\$	695	\$ 15,930	\$ -	\$ 16,626	\$ 4,618	\$ 13,805	\$ 18,456						

次のイメージは、「次元メンバー」タブを使用してセルのグループにマップされた次元を示しています。

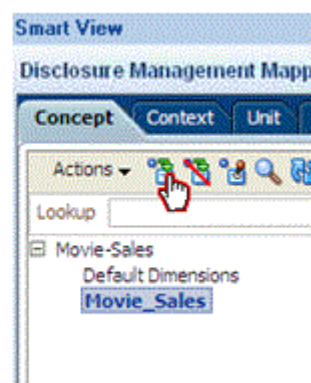


## データ・ソース・レベル・マッピング

データ・ソース次元をマッピングする場合は、データ・ソースのタグ付けの場合にのみ、Disclosure Management で次のマッピングが可能です。

### 1. プライマリ・アイテム

		Sales	Profit	Inventory
Westerns	G	24703	11354	141243
	PG	27107	1425	34242
	R	8644	125	2356
	Other	8929	436	54874



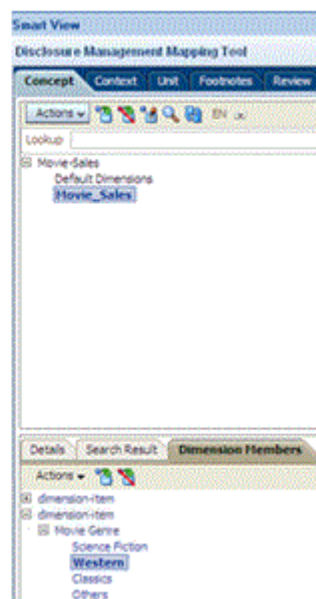
### 2. 次元をヘッダーへ

		Sales	Profit	Inventory
Westerns	G	24703	11354	141243
	PG	27107	1425	34242
	R	8644	125	2356
	Other	8929	436	54874



### 3. セルを次元へ

		Sales	Profit	Inventory
Westerns	G	24703	11354	141243
	PG	27107	1425	34242
	R	8644	125	2356
	Other	8929	436	54874



前述の2番目と3番目のマッピングでは、プライマリ・アイテムの概念マッピングには関係のないデータ・ソース次元のマッピングを作成します。この機能を使用すると、プライマリ・アイテム・マッピングおよび次元マッピングの視点(POV)の交差に基づいて、対応するファクトと次元を動的に関連付けられます。

## 次元マッピングの検証

Disclosure Management で次元マップを作成するには、ドメインまたはドメイン・メンバーが有効なタクソノミ概念に関連付け可能である必要があります。次元に関する XBRL の仕様では、タクソノミ概念とドメイン・メンバー間のバインディング関係が定義されています。

次元マップを作成するための前提条件は、次のとおりです:

- 既存の概念マップ - 次元マップを作成する前に、最初のタクソノミ概念をマップする必要があります。ドメインおよびドメイン・メンバーのマッピングは、既存のタクソノミ概念がマップされていない Office データに対しては許可されません。
- プライマリ・アイテムの互換性 - マップされたプライマリ・アイテムは、指定されたドメインまたはドメイン・メンバーとの間で互換性がある必要があります。各プライマリ・アイテムには、それに関連付けることのできる次元を定義します。たとえば、ドメイン East は、概念 GrossProfit にもマップされているデータにマップできます。しかし、概念 CompanyName にもマップされているデータにはマップできません。Disclosure Management では作成することはできませんが、検証エラーがスローされます。

## 次元マップの格納

Office ドキュメント(Microsoft Excel または Word)のデータに対して有効なドメインまたはドメイン・メンバーのマップを作成すると、Disclosure Management アドインにより、マップされた次元に関する情報が格納されます。この情報の他に、マップされたタクソノミ概念、そのコンテキストおよび単位(数値コンテキストの場合)に関する情報が存在します。

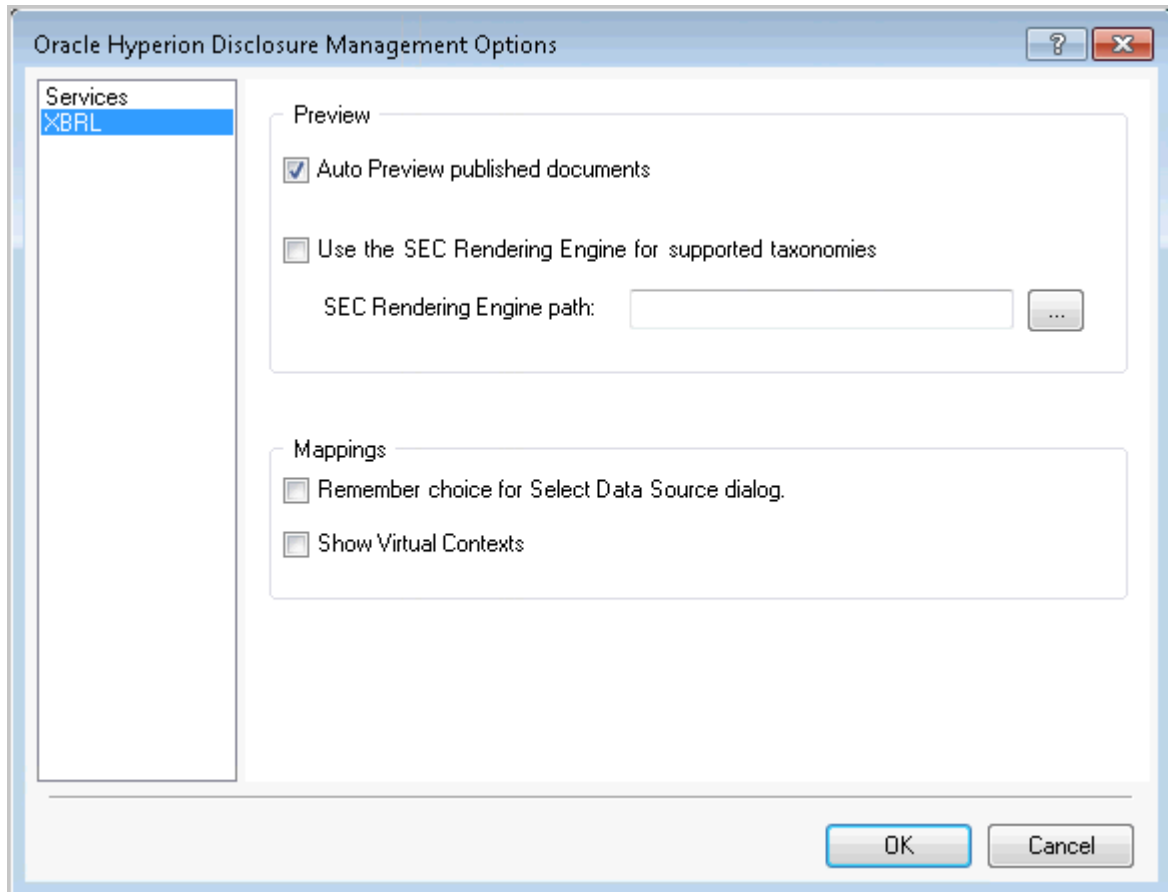
## 仮想コンテキスト

マップされた XBRL ドメインとドメイン・メンバーは、最終的にはインスタンス・ドキュメントのコンテキスト内のセグメントまたはシナリオ(あるいはその両方)として定義されます。Disclosure Management では、仮想コンテキストを使用することによって、マップされた次元が管理されます。ファクト値にコンテキストと次元がある場合、仮想コンテキストが生成されます。仮想コンテキストはベース・コンテキストを拡張して次元を追加したものです。仮想コンテキストは該当するドメインまたはドメイン・メンバーの次元名を含むことで、基本コンテキストを拡張します。次元を自動的に伝播するために仮想コンテキストをマップできます。仮想コンテキストを表示または非表示にするオプションを設定できます。

▶ 仮想コンテキストを表示または非表示にするには:

- 1 「Disclosure Management」リボンで「オプション」をクリックし、「XBRL」を選択します。Oracle Hyperion Disclosure Management の「オプション」ダイアログが表示され

ます。



## 2 Oracle Hyperion Disclosure Management の「オプション」ダイアログの「マッピング」領域で:

- 仮想コンテキストを表示するには: 「仮想コンテキストの表示」チェックボックスをオンにします。
- 仮想コンテキストを非表示にするには: 「仮想コンテキストの表示」チェックボックスをオフにします。

## コンテキストの管理

Disclosure Management での仮想コンテキストの管理は、同じコンテキストと次元の組合せを使用する仮想コンテキストの連結によって行われるのであり、マップされたアイテムごとに1つの仮想コンテキスト(つまり、ファクト値に関連付けられた次元)を作成するわけではありません。たとえば、ドキュメントが次のようにモデル化されているとします:

	A	B	C	D	E
1		East		West	
2		Qtr1	Qtr2	Qtr1	Qtr2
3	Revenue	500000	510000	400000	420000
4	Profit	600000	610000	550000	560000

- セル B3 には、概念(Revenue)、コンテキスト(Qtr1)およびドメイン(East)がマップされています。Qtr1 および East で構成される仮想コンテキストが生成されます。



- セル B4 には、概念(Profit)、コンテキスト(Qtr1)およびドメイン(East)がマップされています。このセルは、セル B3 によって使用される仮想コンテキストと同じ仮想コンテキストを使用します。Disclosure Management では、セル B4 に対する新しい仮想コンテキストは作成されません。
- 前述の例では、4 つの仮想コンテキスト(Qtr1-East、Qtr2-East、Qtr1-West、および Qtr2-West)が生成されます。ただし、明示的に定義されたコンテキストは 2 つのみ(Qtr1 および Qtr2)です。
- Disclosure Management アドインでは、マップされたタクソノミ概念と(Office ドキュメントの)対応するデータを格納する場合とほぼ同様の方法で、次元情報が格納されます。

## 「コンテキスト」 ペイン

仮想コンテキストが作成されると、「コンテキスト」 ペインが更新され、仮想コンテキストが表示されます。すべての仮想コンテキストは読取り専用です。ただし、仮想コンテキストは、通常のコンテキストをマップする場合と同じ方法でマップできます。バージョン 1 では、ユーザーは、「コンテキスト」 ペインに表示される自動生成された仮想コンテキスト名を変更することはできません。この名前は、次元ツリーに表示されているように、コンテキスト名と次元名で構成されます(Qtr1 - East など)。

## インスタンスの生成

仮想コンテキストが連結されると、それらは(インスタンス・ドキュメント専用の)実コンテキストになります。インスタンス生成ルーチンにより、(インスタンス XML 内の)コンテキスト定義の上に、ユーザーにわかりやすいコンテキスト名を記述する XML コメントが挿入されます。これにより、ユーザーは、XML を検証することを選択した場合、インスタンス XML 内のコンテキストを確認できます。

## 型付き次元の適用

タクソノミの分類が既知(有限)でリストされている明示的な次元とは異なり、型付き次元は、分類構造および内容が不明かつ無限、または明示的に列挙するのが非現実的な場合に使用されます。型付き次元値は策定者によって定義され、タクソノミには表示されません。策定者は、報告主体の要件に従って、任意の数のメンバーを作成できます。たとえば、"Sales Representation Name"の型付き次元は、各"Sales"個人に対して複数回レポートできます。

Disclosure Management では、ドキュメント・レベルおよび Disclosure Management がサポートされるすべてのデータ・ソースで、型付き次元メタ値をタグ付けする機能がサポートされています。

型付き次元を定義したら、明示的な次元と同じように、マップ、確認、検証、複製、ロールオーバー、エクスポートおよび公開を行うことができます。

マッピング - プライマリ・アイテム・マッピング、コンテキスト・マッピングおよび(オプションの)単位マッピングが必要です(プライマリ・アイテムのデータ型



に応じて)。財務アイテムは一般に通貨アイテムであるため、XBRL 検証エラーを防ぐために、常に単位をプライマリ・アイテムにマップする必要があります)。

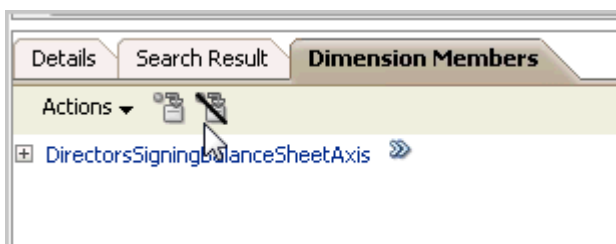
## 型付き次元インスタンスの作成


登録されたレポートを開き、型付き次元定義を含むタクソノミを選択してから、次元メンバーを選択します。次に、マスター・ドキュメントにあるプライマリ・アイテムを識別してインスタンスを作成し、プライマリ・アイテムに関連付けられている各値をマップし、プライマリ・アイテムに関連付けられているマスター・ドキュメント内の値領域全体をマップします。


▶ 型付き次元の値を定義するには





- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」(  )を選択して、「マッピング・ツール」パネルを表示します。
- 2 「概念」タブをクリックして、型付き次元定義を含むタクソノミのXBRL 概念に移動します。
- 3 適切なXBRL 概念を選択すると、「次元メンバー」タブの下部ペインに、関連する明示的次元と型付き次元の両方が表示されます。型付き次元は「次元の編集」ボタン  を使用して識別します。



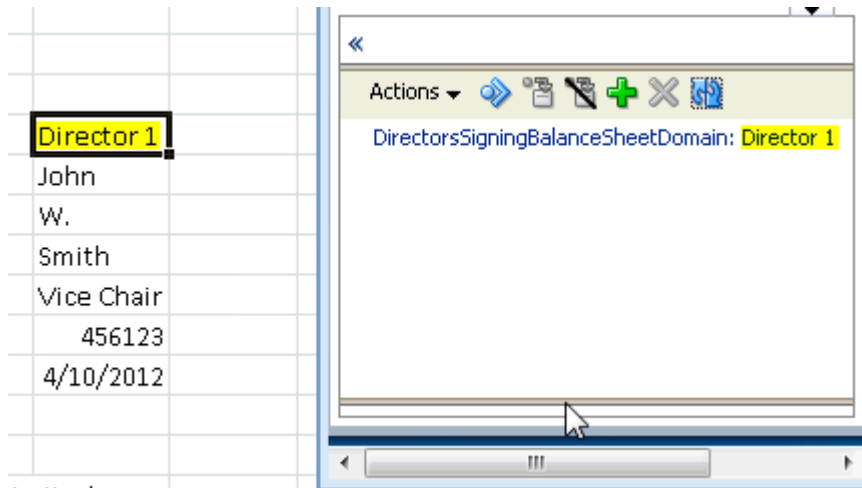
- 4 「次元メンバー」タブで、「次元の編集」ボタン  に関連付けられた次元をクリックします。


**注：**「次元の編集」ボタン  は型付き次元であることを示します。

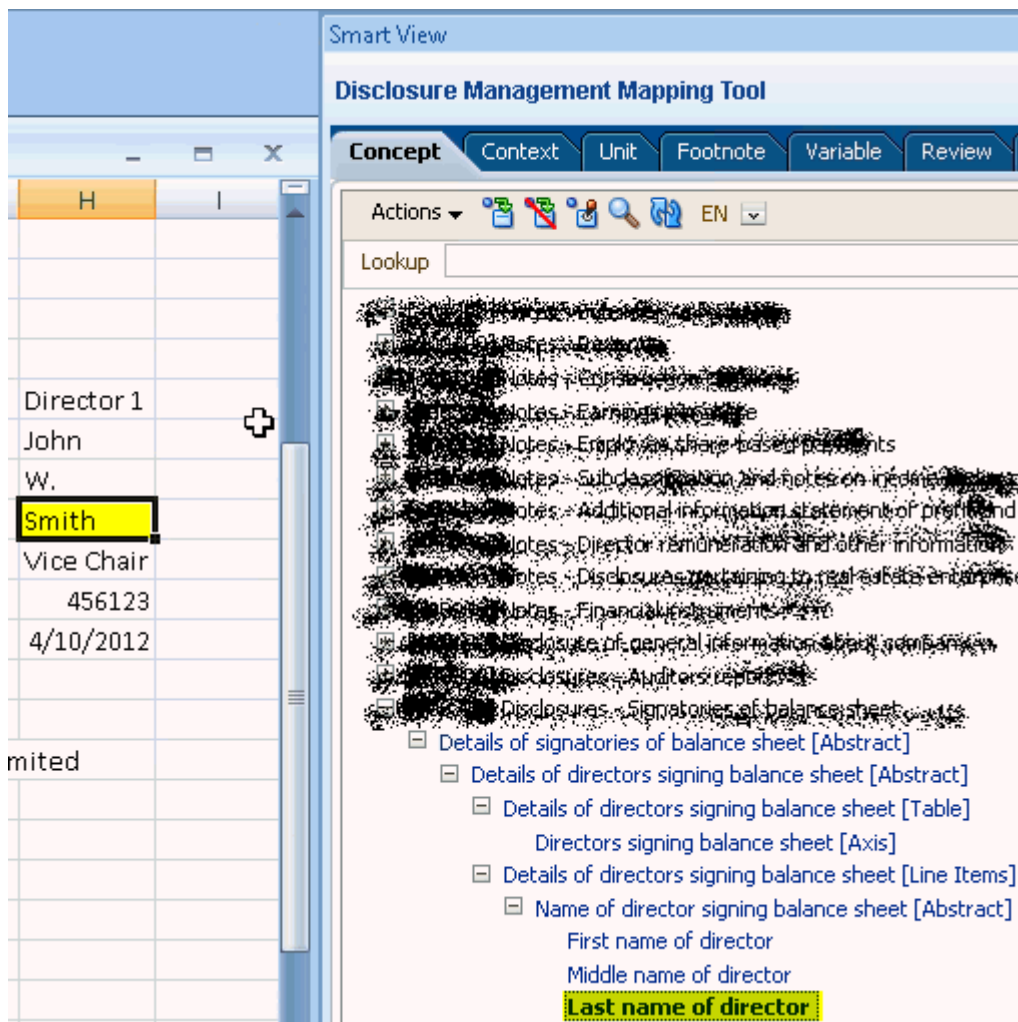
型付き次元定義のすべてのインスタンスが、使用可能な場合、「次元メンバー」タブの右に配置された「タイプ指定された次元」タブに表示されます。

- 5 「新規」ボタン -  をクリックします。
- 6 ドキュメントで次元値を値ヘッダーに関連付けるには、値ヘッダーを強調表示して「値の取得」ボタン  をクリックします。このイメージは選択したアイテム

を示しています。

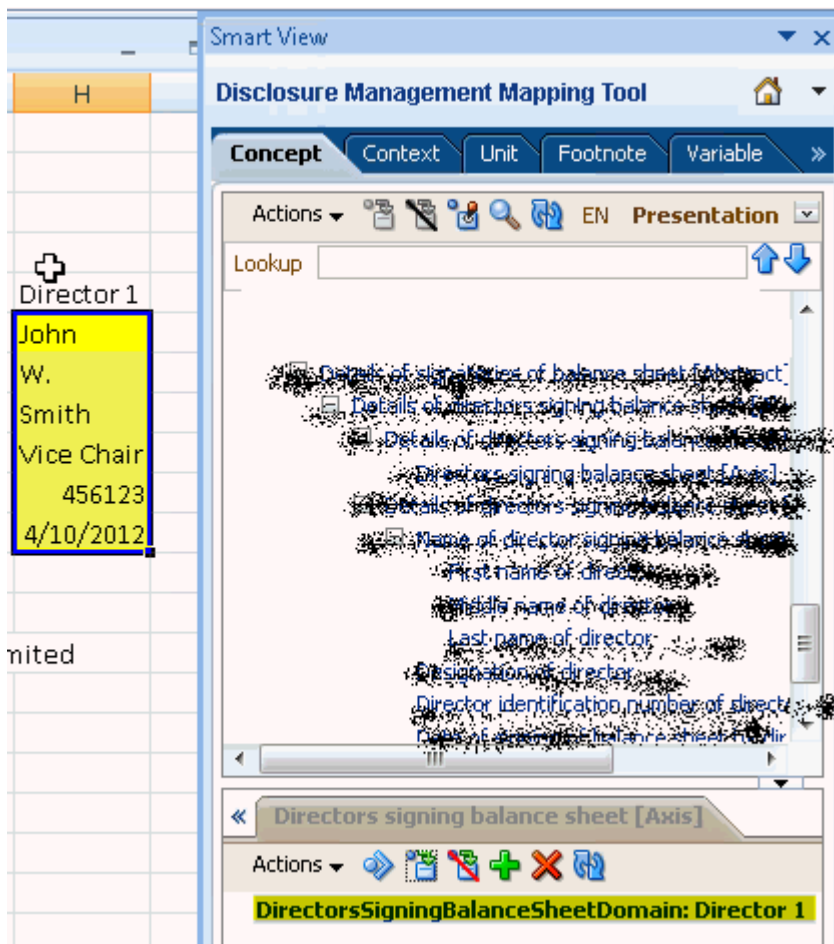


- 7 値ヘッダーに関連付けられている値をマップする準備ができました。「概念」タブで型付き次元を選択し、ドキュメントでマップする値を選択して、「マッピングのアタッチ」ボタン  をクリックします。マップされたアイテムが表示されます。



- 8 選択した値ヘッダーのすべての値のマッピングを完了したら、下部ペインで次元を選択し、ドキュメントで値を表す領域を選択して、「マッピングのアタッチ」ボ

タンをクリックします。



## Disclosure Management を使用した EDGAR HTML の生成

このセクションでは、SEC 申告のために EDGAR HTML ドキュメントを検証および公開するプロセスについて説明します。

## Disclosure Management での EDGAR ドキュメントの作成

Disclosure Management は SEC 申告者向けに、SEC の EDGAR HTML 申告および XBRL 申告を作成、検証、公開するための包括的なソリューションを提供しています。Disclosure Management を使用すれば、EDGAR Filer Manual の検証ルールに準拠しながら、DM マスター・ドキュメントから EDGAR HTML 申告ドキュメントと XBRL 申告ドキュメントの両方を作成できます。

次の手順では、EDGAR HTML の生成を中心に説明していますが、XBRL の作成手順と一緒に使用する必要があります。ユーザーは同じマスター・ドキュメントおよびドキュメントを利用して、HTML ドキュメントと XBRL ドキュメントの両方を作成できます。

▶ EDGAR ドキュメントを作成するには:

- 1 Financial Reporting のコンテンツを、Microsoft Word および Excel ドックレットに通常どおりに組み込みます。EDGAR HTML の生成では、表紙、目次、追加ノート、その他のコンテンツなど、XBRL 以外のコンテンツを含む追加のドックレットを作成する必要があります。
- 2 ドックレットをマスター・ドキュメントに組み込みます。
- 3 必要であれば、Disclosure Management の変数を利用して、目次を管理したり共通データを同期します。
- 4 マスター・ドキュメントのルック・アンド・フィールを完成させます。マスター・ドキュメントは、EDGAR HTML を生成するための最終レポートになります。このため、ドックレットが正しい順序に並べられ、フォーマットが適切で、不要な HTML コンテンツ(XBRL 申告の DEI タグ情報など)が非表示になっているように、注意を払う必要があります。
- 5 検証または生成手順の前に、Disclosure Management の変数が「評価」モードになっており、マスター・ドキュメントが最終状態になっていることを確認します。
- 6 「Disclosure Management」リボンで「検証」、「US SEC」、「EDGAR HTML」の順に選択して、ドキュメントを EDGAR Filers Manual の HTML 検証ルールと照合します。
- 7 必要に応じて、エラーを確認して解決します。
- 8 「Disclosure Management」リボンで「公開」、「EDGAR HTML」の順に選択して最終ドキュメントを生成します。EDGAR ファイルを保存するためのダイアログが表示されます。
- 9 zip ファイル名を指定して、「保存」をクリックします。zip ファイル名が HTML ドキュメントの名前になります。必要な場合、後からこのドキュメントの名前を変更できます。該当するドキュメントがすべて、名前の付いた zip ファイルに保存されます。zip ファイルには、EDGAR HTML ドキュメントとレポートで使用されるイメージ・ファイルが含まれます。

前述の最後の手順でドキュメントが生成されたら、ドキュメントの公開における Disclosure Management の役割は終了します。ドキュメントを SEC の Web サイトに提出するのは、申告者の責任です。SEC 提出システムを介してドキュメントを提出するには、適切な EDGAR アクセス・コードが適用されていることを確認してください。詳細は、<http://www.sec.gov/info/edgar/edmanuals.htm> にある EDGAR Filer Manual を参照してください。

## フォーマットに関するガイドライン

Disclosure Management ドキュメントの作成時に、生成される EDGAR HTML ドキュメントのルック・アンド・フィールを適切なものにするには、フォーマットに関する考慮事項が重要になります。Microsoft Office の標準機能を使用して、Disclosure Management のマスター・ドキュメントおよびドックレット内で適切なフォーマットを作成し、維持するのは申告者の責任です。

コンテンツを EDGAR HTML に公開する際、ドキュメント内の最終フォーマットに基づき、Disclosure Management によって最も正確な表現が提供されます。

すべての Microsoft Word フォーマットが HTML に正しく変換されるわけではありません。たとえば、Word ではタブの使用はサポートされますが、HTML ではサポートされません。このため、Word で Word テーブル・オブジェクトではなくタブを使用してテーブルが作成された場合、最終的な HTML 出力でテーブルの列や行のアライメントは保持されません。このような一般的なフォーマットのヒントについては、Disclosure Management 製品に付属するホワイトペーパー、DM 11.1.2.2.300 ドキュメント・フォーマットに関するガイドランを参照してください (<http://support.oracle.com> でも参照できます)。これらのガイドラインを参照して、ドキュメントに最も正確なフォーマットが適用されていることを確認してください。

## EDGAR のサンプル

Disclosure Management には、EDGAR ドキュメントのサンプルも付属しています (<http://support.oracle.com> にある DM 11.1.2.2.300 10Q Sample Report.zip)。この zip ファイルは Disclosure Management レポートを完全にエクスポートしたもので、次のものが含まれます。

- SEC レポート四半期報告書(10Q)を表すマスター・ドキュメント
- 製品に付属する Disclosure Management のベスト・プラクティスに関するガイドランを使用した、10Q のサブセットを表す Microsoft Word または Excel ドックレット。
- SEC 申告要件のサブセットを表す XBRL タグ。
- 次の事項の設定および使用を示す変数:
  - 目次管理
  - 一般的なテキストと数値
  - クロスフッティング・ルール
  - 指示語

DM 11.1.2.2.300 Implementation Best Practices.pdf および DM 11.1.2.2.300 Performance Benchmarks.pdf について詳しくは、Disclosure Management 製品フォルダへのリンク、<http://support.oracle.com> をクリックしてください。

## タプルについて

XBRL タプルは、関連のある一連の概念です。タクソノミとは違い、タプルには関連のある追加の概念が必要です。単一のタプル・メンバーのみでは十分な関連情報が提供されない場合がありますが、タプル・メンバーのグループでは提供されます。たとえば、「会社の住所」というタプル概念は、次のタプル・メンバーで構成されます: 「名前」、「番地」、「市区町村」、「都道府県」、「郵便番号」および「国」。単一のタプル・メンバー(「市区町村」など)のみでは「会社の住所」という概念を記述するには十分ではありません。すべてのタプル・メンバーが揃ったときのみ概念が有意義になります。Disclosure Management マッピング・ツールの「概念」タブの下には、タクソノミ内に定義されている既存のすべてのタプルが表示されるタプル・ビューがあります。

## タブルの操作

インスタンス・ドキュメントでは、タブル・グループは、タブル・ノード内でネストされているタブル・メンバーのコレクションを表します。XBRL のコンテキスト、単位および脚注と同様に、タブル・グループは Disclosure Management マッピング・ツールで作成および削除されます。ただし、主な相違点は、タブル・グループはマップ・リポジトリに格納されることです。タブルの親は通常は抽象(マップ不可)であり、その子メンバー(タブル・メンバー)は非抽象(マップ可能)であることに注意してください。

すべてのタクソノミでタブルが使用されるわけではありません。通常、タクソノミではタブルまたは XBRL 次元のいずれかが使用されますが、これら両方が使用されるわけではありません。

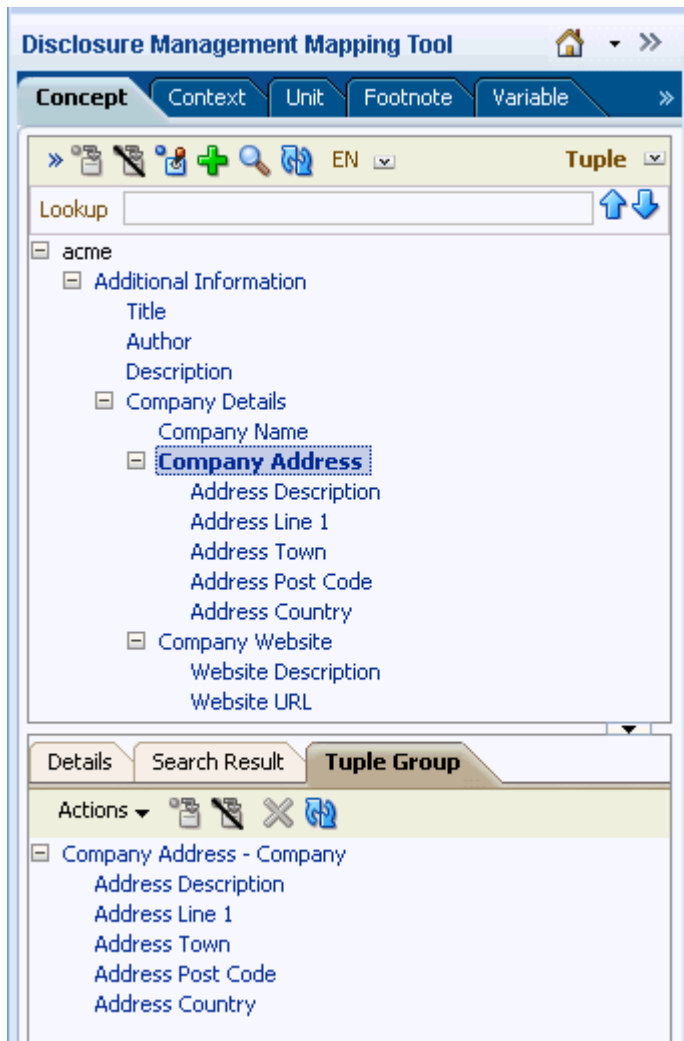
埋込みタブルは親タブルで、別のタブル内で定義されます。埋込みタブルは(上で定義されている)タブル・グループに類似していますが、対応するタブル・グループ内からのみ作成および削除できる点が異なります。埋込み親タブルからタブル・グループを作成することはできません。さらに、埋込みタブル・グループの親に関する情報は、Office ドキュメントには格納されません。

## タブル・ビューの使用


XBRL タブルは、「概念」タブで表示できます。アクティブなタクソノミの次元ビューは、「概念」タブ・リボンの右にある)関係ビュー・リストを使用して表示します。タブル・ビューを選択すると、上部パネルにすべてのタブル・ノード(存在する場合)が表示されます。

上部ペインからタブルを選択すると、タブル詳細ペイン(下部パネル)が更新され、タブル・グループ・メンバーの詳細が表示されます。


下部ペインには「タブル・グループ」ペインが表示されます。このペインで、タブル・メンバーをタブル・グループにマップできます。




▶ タプル・ビューを変更するには:

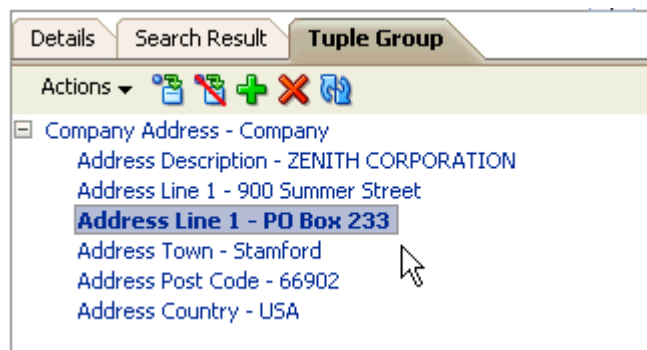
- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルで「概念」タブを選択します。
- 2 タプルを使用するタクソノミが表示されている状態で、 をクリックします。
- 3 ドロップダウン・メニューから「タプル」を選択します。

▶ タプル・メンバーをタプル・グループにマップするには:

- 1 タプル・ビューに切り替えます。
- 2 上部パネルで、親タプル要素を見つけます。  
たとえば、「会社住所」を検索できます。
- 3 「追加」アイコン -  をクリックして、タプル・インスタンスを作成します。
- 4 タプル・インスタンスの名前の指定を求められます。  
下部ペインにある「タプル・グループ」タブで、タプル・ツリーが再作成されます。
- 5 下部ペインにある「タプル・グループ」タブで、(表示ビューで)通常の概念のマップに使用すると同じマッピング・パラダイムで、個々のタプル・メンバーをマップします。



特定のタプル・メンバーを2つ以上のアイテム("住所行 1"など)にマップする必要がある場合は、"住所行 1"メンバーを選択し、下部のパネルで「新規」アイコン -  - をクリックすることで、タプル・グループ内にタプル・メンバーの2番目のインスタンスを作成できます。下の画像では、"住所行 1"の2番目のインスタンスがタプル・グループに追加されています。




## Disclosure Management ドキュメントのロールオーバー

ロールオーバー機能を使用すると、元のタクソノミまたは新しいタクソノミを使用して、ある期間から別の期間にレポートをロールオーバーできます。ロールオーバー中に実行される主な操作:

- すべてのレポート・ドキュメントの複製: Microsoft Excel または Word のレポート・ドキュメント、Microsoft Excel および Word のドックレット・ドキュメント。
- レポート・プロパティの更新: Disclosure Management レポートの名前、および XBRL インスタンス・ドキュメントの名前。
- レポートのタクソノミ関連付けの変更、および対応する XBRL マッピング・プロパティの更新。
- ネームスペースによるマッピングの識別およびロールオーバー(必要に応じて、新規ターゲットのネームスペースの指定が可能)。参照されているタクソノミ内の変更が、ロールオーバー処理で反映されます。

▶ ドキュメントをロールオーバーするには:

- 1 Disclosure Management サーバーに接続します。
- 2 「Disclosure Management」リボンで「ロールオーバー」アイコン -  を選択します  
ロールオーバー・レポート・ウィザードが起動されます。
- 3 「次」をクリックします。  
「レポートの場所」画面が表示されます。
- 4 「ファイル名」フィールドで、ロールオーバーしたレポートを保存するパスを指定し、「次」をクリックします。

パスに移動するには、「参照」をクリックしてフォルダに移動し、レポート名を入力します。

タクソノミ・リストの取得画面が表示されます。登録済タクソノミのリストが作成されると、「タクソノミの選択」画面が自動的に表示されます。

- 5 登録済タクソノミのリストから新しいタクソノミを選択して、「次」をクリックします。

「レポートのプロパティ」画面が表示されます。

- 6 「レポート名」フィールドに、新しいレポートの名前を入力します。
- 7 「XBRL インスタンス名」フィールドに、新しいXBRL インスタンスの名前を入力し、「次」をクリックします。サーバーからソースおよびターゲットのタクソノミの収集、タクソノミ・データの取得画面が表示されます。完了したら、「次」をクリックして、ロールオーバー・ルール(ネームスペース)画面を表示します。

レポートにデータ・ソース・マッピングがあり、概念の不一致が存在する場合は、「データ・ソース・マッピング」画面が表示されます。

- 8 ソース・ネームスペース列には、オリジナル・レポート(マスター・ドキュメントとドックレットを組み合わせたもの)内のすべての既存のマッピングがリストされます。リスト内の各ソース・ネームスペースに対応して、ターゲット・ネームスペース列に、ネームスペースを選択、確認または上書きできるネームスペースが表示されます(1つのソース・ネームスペースについて1つのターゲット・ネームスペース)。
- 9 各ソース・ネームスペースについて選択を確定する必要があります。ターゲット・ネームスペース・リスト内で使用可能なデフォルトのネームスペースがない場合、またはネームスペースを変更する場合、対応する「参照」ボタンをクリックし、ターゲット・タクソノミ・ネームスペースの選択ウィンドウからネームスペースを選択し、「OK」をクリックします。
- 10 ターゲット・ネームスペースの選択が完了したら、「次」をクリックし、「データ・ソース・マッピング」画面を表示します。
- 11 「データ・ソース・マッピング」画面で、重複するデータ・ソース・マッピングがないか、考えられる競合を確認して解決します。ステータス記号の詳細は、[95 ページの「検証エラー・メッセージの表示」](#)を参照してください。

**注：** 概念の不一致(データソース・レベルで異なったタグが付けられている概念、つまり、元のデータソースで「純収益」勘定科目が概念「収益合計」にタグ付けされていたが、新規データソースで、すでに他の概念にタグ付けされているなど)が、インスタンスの検証機能でレポートされます。概念の不一致の横の「オーバーライド」フィールドを選択し、不一致を解決します

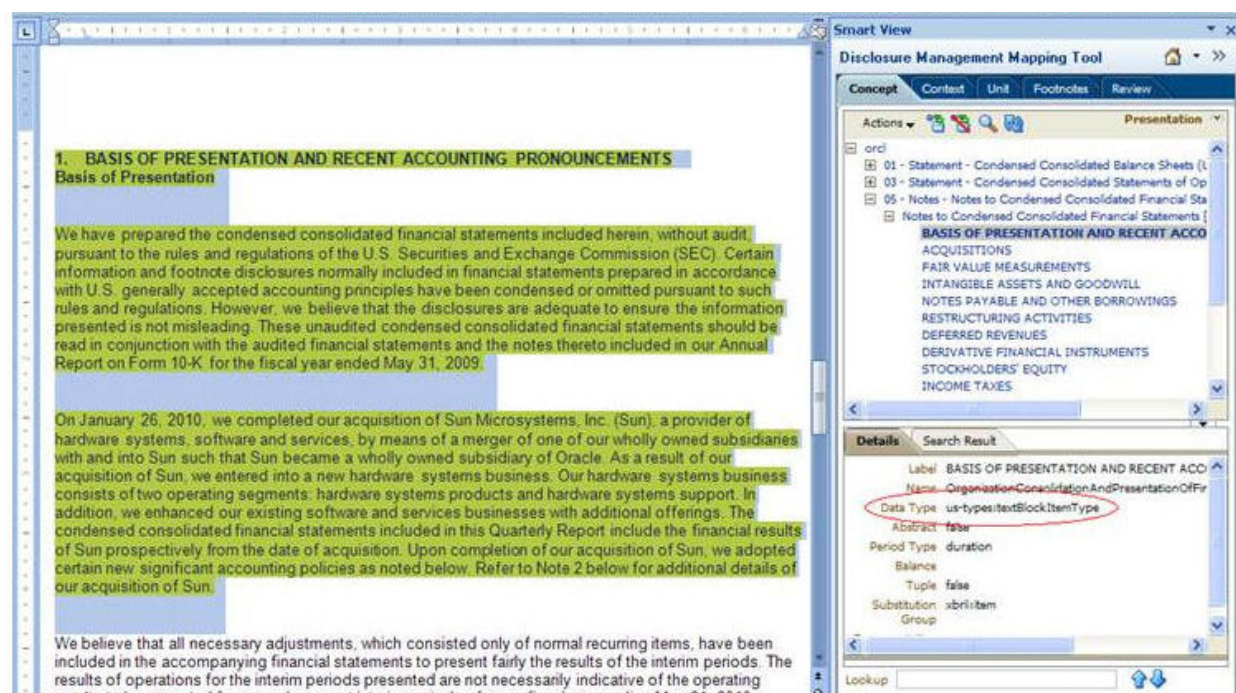
- 12 レポートをロールオーバーするには、「次」をクリックします。レポートのロールオーバー処理画面が表示されます。処理が完了すると、「Disclosure Management レポートのロールオーバーが完了しました」画面が表示されます。
- 13 新しいレポートを表示するには、「新規レポートを開きます。」を選択して、「終了」をクリックします。

**注：** Disclosure Management ドキュメントのタクソノミを変更した場合、既存の XBRL 概念のマッピングがマッピング・リポジトリに保持されます。マッピングに属する概念が新しいタクソノミに存在しないにもかかわらず、ドキュメントのデータを引き続き参照する場合、不一致とみなされます。

## ブロック・テキストのマッピング

ブロック・テキストは、品質または非通貨タクソノミ概念にマップされるテキスト情報のセットです;一方、脚注は、任意のマッピングに割り当てることができます。

次の例では、ブロック・テキストを"Basic of Presentation and Recent Account"タクソノミ概念にマップします。



▶ ブロック・テキストをタクソノミ概念にマップするには:

- 1 マップするブロック・テキストが含まれるドキュメントを開きます。
- 2 Disclosure Management マッピング・ツールで、「概念」を選択します。
- 3 適切なデータ型を含む概念に移動し、ブロック・テキストをマップします。

## ネストされたタグ

Disclosure Management Disclosure Management では、データ値を別のタグ内でタグ付けできる、すべてのレベルのネストされたタグがサポートされています。ネストされたタグは、インスタンス・ドキュメント内に複数回表示する必要があるアイテムにタグ付けする必要がある場合に便利です。たとえば、小数点以下の値がブロック・テキスト内でタグ付けされ、さらにテキスト・タグ内で個別にタグ付けする必要があるとします。この場合、小数点以下の値は、ドキュメント内で2

回表示されます。インスタンス内で、小数点以下の値が、ブロック・テキスト内に含まれ、また、数値としても含まれます。

Disclosure Management では、マップされているアイテム、およびマッピングが発生している場所に基づいて、ネストされたタグが処理されます。

- タグが作成されたとき(概念がドキュメントの項にマップされたとき)、新しいタグには、デフォルトのコンテキストおよび単位はありません。
- クイック・マッピング機能を使用して新しいタグを作成した場合(41 ページの「クイック・マッピング」を参照)、タグは、クイック・マッピングのユーザー・インタフェースから、指定されたコンテキストまたは単位で作成されます。
- ドキュメントの項が強調表示され、マッピングのためのコンテキストまたは単位に関連付けられている場合、Disclosure Management では、すべての最上位レベルのタグが識別されます。最上位レベルのタグは、別のタグ内にネストされていないタグを参照します。
- 最上位レベルのタグが、強調表示された範囲内にある場合、Disclosure Management では、そのタグをコンテキストまたは単位にマップします。マッピングは、コンテキストまたは単位がすでにマップされているかどうかにかかわらず発生します。既存のコンテキストまたは単位のマッピングはすべて上書きされます。
- 強調表示されている範囲外の開始または終了の最上位レベルのタグは無視され、マッピングは発生しません。

## マップされたデータの除去と Disclosure Management オブジェクトの削除

XBRL マップの関連付けの除去と Disclosure Management オブジェクトの削除は、次のように厳密に区別されます。

- XBRL マップの関連付けの除去 - Office ドキュメント、Financial Reporting グリッドまたはデータ・ソース・メンバーから、マップされた XBRL 要素を除去すること、またはその関連付けを解除することを表します。たとえば、数値表セルから単位マップを除去した場合でも、単位の定義は残ります。
- Disclosure Management オブジェクトの削除 - コンテキスト、単位、変数、脚注などの定義済オブジェクトの削除を表します。たとえば、ユーザーは単位のリストから定義済単位を削除できます。Disclosure Management オブジェクトを削除すると、Disclosure Management オブジェクトおよび関連付けられたマッピングが除去されます。

**注：** タクソノミ概念は、タクソノミに定義されているため削除できません。

## XBRL マップの除去

タクソノミ概念、コンテキスト、単位および脚注の XBRL マップの除去は、次のものに適用できます：

- 単一データ・ポイント
- 複数データ・ポイント(複数のマップされたデータ・ポイントにまたがる Office ドキュメント)
- データ・ソース(タクソノミ概念のみ。86 ページの「データ・ソース・アイテムの削除と抑制」を参照)
- 次元(ドキュメントまたはデータ・ソース・レベル(あるいはその両方)のマッピングの関連付け)
- タプル

マップされたアイテムを除去すると、除去可能なマップされたアイテムが表示された「マッピングの除去」ダイアログ・ボックスが表示されます。表示されるアイテムの数は、Disclosure Management マッピング・ツールで選択された Disclosure Management オブジェクトによって決まります。たとえば、単位オブジェクトが選択された場合、このダイアログには、その単位オブジェクトにマップされているドキュメント・データ・ポイントが列挙されます。マッピングが除去された後、元に戻すことはできません。データを Disclosure Management オブジェクトに再マップして、マップを再作成する必要があります。タクソノミ概念については、マッピング情報がマッピング・リポジトリから除去され、確認モードで表示されなくなります。マップされた概念に XBRL 次元が関連付けられている場合は(ドキュメントまたはデータ・ソース・レベル(あるいはその両方)の関連付けが行われている場合)、それらの次元もマッピング・リポジトリから除去されます。

データ・ソース・マッピングの除去は、Office ドキュメント・マッピングの除去とは異なります。Smart View Office ドキュメントまたは Financial Reporting レポートを使用して作業している場合は、タクソノミ概念を使用してデータ・ソース XBRL マップを作成できます。マッピング・リポジトリで、これらのマップは Office ドキュメントではなくデータ・ソースに関連付けられます。データ・ソース・マップは、Office ドキュメント内の対応するデータに自動的に関連付けられます。

データ・ソース・マッピングの除去には、次のオプションがあります:

- Office ドキュメント内の選択されたデータ・ポイントからタクソノミ概念マップを抑制します(概念マップは、Office ドキュメント内での関連付けは解除されますが、マッピング・リポジトリからは削除されません)。これは、Office ドキュメント内のデータ・ポイントからのデフォルト・データ・ソース・マップのオーバーライドとは異なります。マップされたアイテムの抑制の詳細は、86 ページの「データ・ソース・アイテムの削除と抑制」を参照してください。
- タクソノミ概念マップをデータ・ソース・メンバーから永続的に除去します(概念マップは、データ・ソース・メンバーを参照するすべての Office ドキュメントからのみでなく、マッピング・リポジトリからも除去されます)。この場合、マッピングが除去された後で除去を取り消すことはできず、マップを再作成するには、データ・ソース・メンバーを XBRL タクソノミ概念に再マップする必要があります。タクソノミ概念はマッピング・リポジトリから除去され、確認モードで表示されなくなります。さらに、データ・ソース XBRL マップは、同じデータ・ソース・メンバーから導出された Oracle Hyperion Smart View for Office データを使用する、XBRL マッピングのあるすべての既存の Office ドキュメントに影響を与えます。

表 8 「マッピングの除去」ダイアログのフィールドと説明

フィールド	説明
タイプ	Disclosure Management オブジェクトのタイプ(概念、コンテキスト、単位、脚注)を示します
マッピング	値がマップされている XBRL タクソノミ・オブジェクトを表示します
値	マップに関連付けられているレポートまたはデータ・ソース値を表示します
データ・ソース	値がレポート/ドキュメント・レベルのマッピングであるか、データ・ソース・マッピングであるかを示します

## Disclosure Management オブジェクト削除の削除

Disclosure Management オブジェクトの削除とは、コンテキスト、単位、変数、脚注などの定義済 Disclosure Management オブジェクトを削除することを表します。たとえば、ユーザーは、単位のリストから定義済の単位オブジェクトを削除できます。この場合、Disclosure Management オブジェクトが除去されるだけでなく、削除されたオブジェクトに関連付けられている Office ドキュメント内のすべてのマッピングも除去されます。タクソノミ概念はタクソノミで定義されるため(Office ユーザーではなく Disclosure Management XBRL タクソノミ・デザイナーによって定義されるため)、Disclosure Management マッピング・ツールでは削除できません。Disclosure Management オブジェクトが完全に削除される前に、手順をリセットできます。ただし、「OK」をクリックして Disclosure Management オブジェクトを完全に削除した後は、操作を元に戻すことができないため、オブジェクトを再定義してマップを再作成する必要があります。


## データ・ソース・アイテムの削除と抑制


Smart View Office ドキュメントを使用して作業する場合、タクソノミ概念とともにデータ・ソースの XBRL マップを作成できます。マッピング・リポジトリで、これらのマッピングは、Office ドキュメントではなくデータ・ソースに関連付けられます。データ・ソース・マップは、Office ドキュメント内の対応するデータに自動的に関連付けられます。データ・ソース・マップは、次の 2 つの方法で除去できます:

- データ・ソースとのタクソノミ概念マップの関連付けを除去します。概念マップは、マッピング・リポジトリからだけでなく、同じデータ・ソース・メンバーを使用するすべての Office ドキュメントからも削除されます。削除対象としてマークされたアイテムは、「マッピングの除去」ダイアログ・ボックスで元に戻すことができます。ただし、アイテムを削除すると、完全に削除されます。
- Office ドキュメント内の選択したデータ・ポイントでタクソノミ概念マップを抑制します(概念マップは、Office ドキュメントとの関連付けは解除されますが、マッピング・リポジトリからは除去されません)。このアクションは、Office ドキュメントのデータ・ポイントにあるデフォルトのデータ・ソース・マップのオーバーライドとは異なります。また、「Disclosure Management」リ


ボンの「抑制されたマッピング」オプションを選択することにより、抑制されたデータ・ソース・マップを再び使用可能にすることもできます。

▶ データ・ソース・アイテムを除去(削除)するには:

- 1 削除するデータ・ソース概念を選択し、「」 Disclosure Management マッピング・ツールのツールバーの  をクリックします。

 を選択して、「マッピングの除去」画面上のアイテムの表示を縮小できます。

「表示」リストを使用して、すべてのアイテム、抑制されたアイテムのみ、または抑制解除アイテムのみを「マッピングの除去」ダイアログ・ボックスに表示します。


- 2 除去する次元またはメンバーを選択し、  をクリックします。

アイテムに関する詳細が取り消されます。

- 3 「OK」 をクリックします。


▶ 除去された概念をリセットするには:


- 1 「マッピングの除去」ダイアログ・ボックスで、除去された概念を選択します。

- 2  をクリックして除去ステータスをリセットします。


▶ 概念マップを抑制するには:

- 1 XBRL タクソノミ概念が関連付けられている Smart View Office ドキュメントから、単一のデータ・ソース次元またはメンバーを選択します。

- 2  を選択します。

- 3 概念を選択し、「抑制」列で、  をクリックします

- 4 「OK」 を選択します。

抑制されたアイテムが  ステータスとともに表示されます。

▶ 抑制されたアイテムを再び使用可能にするには:

- 1 「Disclosure Management」リボンで、「抑制されたマッピング」を選択します。

- 2 抑制を除去する次元またはメンバーを選択し、  をクリックします。

- 3 「OK」 をクリックします。

## マッピングの確認

確認タブでは、Office ドキュメントまたは Financial Reporting レポートに関する既存のすべてのマッピングを確認できます。確認モードで、マッピングを除去したり、Office ドキュメント内の既存のマッピングを変更または編集できます。また、

「選択項目のフィルタ」ボタンをクリックして、現在のドキュメント内のテキストのセクションを選択し、そのセクション内で関連するマッピングのみを表示できます。「表示」オプションを使用すると、ツリー・ビュー(連結マップ)とリスト・ビュー(個別マップ)の2つのフォーマットで、マップされたアイテムを表示できます。



いずれのビューでも、確認リストでマップされたアイテムを選択することにより、Office ドキュメント内の適切なデータに移動できます。確認タブでアイテムを選択すると、Office ドキュメントまたは Financial Reporting レポートでそのアイテムが強調表示されます。

## ツリー・ビューまたはリスト・ビューの変更

表示オプションを使用すると、マップされたアイテムを確認モードにおいて2つのフォーマットで表示できます:


- リスト - 個別にマップされたファクト値がすべて含まれた表が表示されます。列はソート可能で、テーブルの列ヘッダーはカスタマイズできます。
- ツリー - マッピングが階層表示で表示されます。個別マップは、概念、コンテキスト、単位および脚注別にまとめられます。

どちらのビューでも、ユーザーは、Office ドキュメントまたは Financial Reporting レポート内のデータに移動できます。

- ▶ ビューを切り替えるには、「確認」ペインでツリー・ビューの  をクリックするか、リスト・ビューの  をクリックします。このアイコンで、ツリー・ビューとリスト・ビューを切り替えることができます。

## レポートの次元マッピングの確認

以前に作成した次元マッピングを"Review Export"レポートで確認できます。

- ▶ プライマリ・レポートの型付き次元マッピングを確認するには:
- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」で「確認」タブをクリックします。
  - 2 「エクスポート」ボタン  をクリックします。「エクスポート」ダイアログが表示されます。
  - 3 "Detailed Mapping Review"を選択し、「エクスポート」をクリックします。プライマリ・アイテム・マッピングに対し"Detailed Mapping Review"レポートが生成されます。

## マップされたアイテムのプレビュー

「現在のマッピング」タブで、アイテムのマップされた値をプレーン・テキスト形式で確認できます。さらに数値の場合、フォーマットを適用する前に値を表示することもできます(対応する「フォーマット」タブに確認用に表示できます)。文




字列値の場合は、プレーン・テキスト・フォーマットのみが表示されます。「現在のマッピング」タブには、次元を削除する機能があります。「次元メンバーの編集」ダイアログに移動して、次元を追加または削除することもできます(89 ページの「次元の編集」を参照してください)。

「確認」タブにはドキュメント内のマップされたアイテムがすべて表示されます。リスト項目をドキュメントの選択したセクションに制限できます。Disclosure Management では、「選択項目のフィルタ」トグルボタンで、現在のドキュメントのテキストのセクションを選択し、そのセクション内のマッピングのみを表示できます。フィルタ選択がオンの場合、ドキュメントの別のセクションを選択し、「リフレッシュ」をクリックすると、マッピングのフィルタされたリストにより、新しいセクションにマッピングが表示されます。「選択項目のフィルタ」ボタンをもう一度クリックすると、デフォルトでドキュメントのすべてのマッピングに設定されます。

▶ マップされたアイテムをプレビューするには:


- 1 「確認」タブを選択します。
- 2 まだ表示されない場合は、「リスト・ビュー」に変更します。「アクション」ドロップダウンをクリックし、「リスト・ビュー」を選択することで、この操作を実行します。ドキュメント内のすべてのマッピングがリストに表示されます。

**注：** ドキュメントのセクション内にあるアイテムのみを表示するには、セク

ションをハイライトし、「選択項目のフィルタ」ボタン  をクリックします。「選択項目のフィルタ」ボタンを再度クリックすると、フィルタが削除され、デフォルトでドキュメント内のすべてのマッピングが表示されます。

- 3 リスト・ビュー・テーブルで、マップされた値を選択します。
- 4 「確認」タブの下部にある「現在のマッピング」タブで、「マップされた値」フィールドの値をプレビューします。

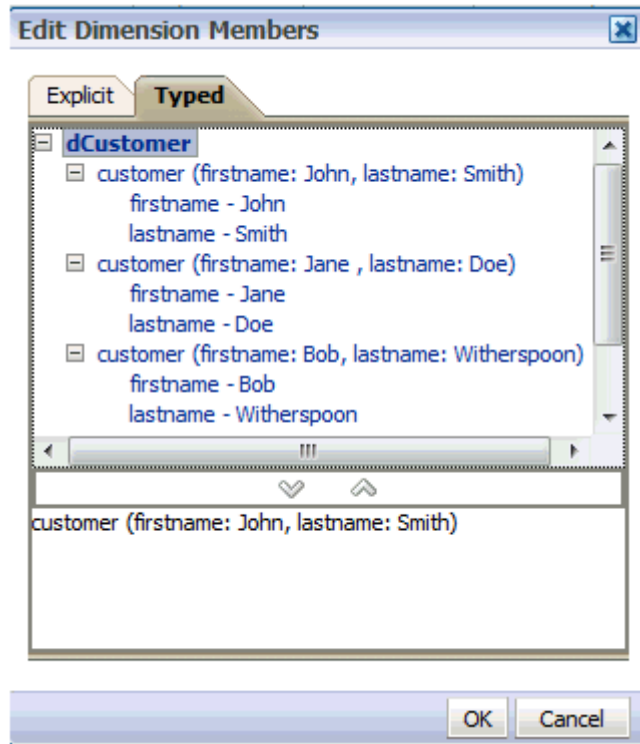
## 次元の編集

「次元メンバーの編集」ダイアログで、選択したセルの次元の削除や追加ができます。このダイアログには、「明示」と「型付き」次元用の別個のタブが表示されます。上部の領域には関連する次元メンバーのリスト・ボックスが表示され、選択したセルのマッピングに追加できます。下部の領域には次元のリスト・ボックスが表示され、選択したセルにマップできます。シャッフル・パネルの「追加」および「除去」ボタンを使用して、リスト・ボックスの内および外に次元を移動できます 。

▶ 次元メンバーを変更するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」ペインで「確認」タブをクリックします。
- 2 「概念」列で、次元を選択します。「確認」ペインの下部にある「現在のマッピング」タブには、選択された次元値が表示されます。

- 3 「現在のマッピング」タブで「削除」ボタン(✖)をクリックして次元を削除できます。または「編集」ボタン(✎)をクリックして、「次元メンバーの編集」ダイアログを表示できます。
- 4 「編集」ボタン(✎)をクリックします。「次元メンバーの編集」ダイアログが表示されます。「明示」タブまたは「タイプ指定」タブが選択した次元のタイプに基づ



づいて表示されます。

- 5 上部の領域にドキュメントに追加できる次元のリストが表示されます。下部の領域にドキュメントに対して選択した現在の次元が表示されます。
- 6 シャッフル・ボタン(⇅)をクリックして、リスト間で次元を追加または削除します。
- 7 「現在のマッピング」タブに戻るには、「OK」をクリックします。
- 8 「重要:」 「保存」ボタン(💾)をクリックします

## コンテキストおよび単位の変更

コンテキストまたは単位のマッピングは、「確認」ペインの「現在のマッピング」タブから直接変更できます。

- ▶ コンテキストまたは単位を変更するには
  - 1 「確認」タブを選択します。
  - 2 「確認」ペインで、「アクション」ドロップダウンをクリックして「リスト・ビュー」を選択します。
  - 3 マップされたアイテムを選択します。

- 4 「確認」ペインの下部にある「現在のマッピング」タブを選択します。
- 5 「コンテキスト」ドロップダウンで、コンテキストを選択します。
- 6 「単位」ドロップダウンで、単位を選択します。

## 符号の反転の設定

レポートをレンダリングするときに、マッピングの符号を逆にし、ラベルをネゲートするには、「符号の反転」オプションを使用します。この機能は、借方と貸方を逆にしてレポートする必要がある場合に便利です。

**注：** ファクトの符号を負の値に反転する前に、ドキュメントをレンダリングする際に他のラベルに与える影響を考慮します。たとえば、US GAAP タクソノミで、株式配当の収益が減少したとします。ファクト値を負の値に変更した場合、2つの負数が作成され、値は正数とみなされ、配当所得が増加します。

▶ マップされたアイテムの符号の反転を設定するには:


- 1 「確認」タブを選択します。
- 2 「確認」ペインで、「アクション」ドロップダウンをクリックして「リスト・ビュー」を選択します。
- 3 マップされたアイテムを選択します。
- 4 「現在のマッピング」・タブを選択します。
- 5 「符号の反転」で、チェック・ボックスを選択します。

## 値のオーバーライド

オーバーライド・オプションを使用すると、マップされた値フィールドに示されているように、数値、文字列、日付およびブール演算子のマップされた値を変更またはオーバーライドできます。また、未定義のラジオ・ボタンを使用して、オーバーライドを除去し、元のマップされた値に戻すことができます。マップされた値のデータ型に応じ、次に示すように、特定のオーバーライド値のフィールドが使用可能になります。


表9 オーバーライド値のタイプ

マップされた値のタイプ	オーバーライド値
ブール	未定義-オーバーライドを除去し、元のマップされた値に戻します。 true-マップされた値を、true の条件を記録するためのフラグとして設定します。 false-マップされた値を、false の条件を記録するためのフラグとして設定します。

マップされた値のタイプ	オーバーライド値
数値	<p>未定義-オーバーライドを除去し、元のマップされた値に戻します。</p> <p>値- オーバーライド数値を使用するために選択します。「値」入力フィールドにオーバーライド値を指定します。</p>
日付	<p>未定義-オーバーライドを除去し、元のマップされた値に戻します。</p> <p>値- オーバーライド日付値を使用するために選択します。「値」入力フィールドにオーバーライド日付値を指定します</p> <p>日付フォーマット- 「日付フォーマット」ドロップダウンからオーバーライド日付フォーマットを選択します。有効なオプションは、次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> <li>● DD.MM.YY(YY)</li> <li>● MM.DD.YY(YY)</li> <li>● DD Month, YY(YY)</li> <li>● Month DD, YY(YY)</li> <li>● DD Mon YY(YY)</li> <li>● Mon DD, YY(YY)</li> <li>● DD/MM/YY(YY)</li> <li>● MM/DD/YY(YY)</li> <li>● カスタム(日付フォーマットは、「カスタム・フォーマット」フィールドに指定する必要があります)</li> </ul> <p>カスタム・フォーマット- カスタムの日付フォーマットを指定します。</p>
文字列	<p>未定義-オーバーライドを除去し、元のマップされた値に戻します。</p> <p>フォーマット- 文字列のフォーマットを指定します。文字列が <code>xbrl.us:TextBlockItemType</code> タイプとその派生タイプ<sup>g</sup>の概念に基づく、数値以外の XBRL マッピングで使用可能なフォーマット・オプションがあります。次のフォーマット・オプションを使用できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リッチ・テキスト - Disclosure Management が Office ドキュメントから HTML フォーマットのコンテンツを抽出し、このフォーマットを数値以外のアイテムに適用します。</li> <li>● プレーン・テキスト - Disclosure Management は対応するファクトのフォーマット値を使用し、フォーマットを数値以外のアイテムに適用します。</li> <li>● デフォルト - プレーン・テキスト・フォーマットが数値以外のアイテムにデフォルトで適用されます。ただし、特定の文字列タイプとその派生タイプにはリッチ・テキスト・フォーマットを使用するようにデフォルト構成を設定できます。</li> </ul> <p>未定義-オーバーライドを除去し、元のマップされた値に戻します。</p> <p>空-空の文字列値を使用して、マップされたファクト値を作成するために選択します。</p> <p>値-オーバーライド文字列値を指定します。デフォルトで、このフィールドには数値を入力する必要があります。英数字を入力するには、 をクリックして、「値の上書き」ダイアログ・ボックスに新しい値を入力します。</p>


▶ ファクト値をオーバーライドするには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」ペインで「確認」タブを選択します。

- 2 「アクション」ドロップダウンで「リスト・ビュー」を選択します。
- 3 「確認」ペインで、ファクト値を選択します。
- 4 「確認」ペインの下部にある「現在のマッピング」タブを選択します。
- 5 「オーバーライド済」チェックボックスをクリックして、選択したファクト値を最新情報でオーバーライドする必要があることを確認します。
- 6 「マッピング値」に、新しい値を入力します。  
たとえば、借方勘定の符号を負から正に切り替えるには、ファクト値の前に「-」と入力します。
- 7  をクリックします。

## 「現在のマッピング」タブでの変更の保存

「現在のマッピング」タブで値を追加または変更する際は、「保存」を使用します。

- ▶ 変更を保存するには、 をクリックします

「アクション」ドロップダウン・メニューから「保存」を選択することもできます。

## マッピングの確認のエクスポート


申告プロセスの任意の時点で、マスター・ドキュメントまたはドックレットに関する特定の情報を提供するように設計された3つの確認タイプのうち、どれを生成するかを選択できます。これらの確認により、レポート内の既存のマッピングを分析して、既存の問題または潜在的な問題を特定できます。次のような確認があります。

- **マッピングの詳細の確認** - ドキュメント内のマッピングの詳細を示します。マスター・ドキュメントでは、すべてのドックレット間のすべてのマッピングが表示されます。ドックレットでは、ドックレット内のマッピングのみが表示されます。
- **マッピングの重複の確認** - すべてのマッピングが表示され、同じ値および異なる値を持つマッピングが区別されます。値の異なるマッピングが重複する場合、検証エラーが発生し、修正が必要になります。値が同じマッピングが重複する場合、エラーは発生しませんが、正しいかどうかを確認する必要があります。
- **負の値の確認** - 負の値に関連付けられたマッピング、すなわち負の数値のXBRLファクト値が生成されるマッピングが表示されます。

- ▶ レポートをエクスポートして表示するには:

- 1 マスター・ドキュメントまたはドックレットを開きます。



- 2 「Disclosure Management」リボンで「マッピング・ツール」アイコン(  )を選択し、「確認」タブを選択します。
- 3 「アクション」ドロップダウンを選択して、「エクスポート」を選択します。「エクスポート」ダイアログが表示されます。
- 4 「タイプ」ドロップダウンで確認するレポート(マッピングの詳細の確認、マッピングの重複の確認または負の値の確認)を選択して、「エクスポート」をクリックします。ドキュメントの確認情報が生成されるまで待ちます。完了すると、「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。
- 5 次のいずれかを選択します:
  - 「開く」 - レポートが Microsoft Excel スプレッドシートに開かれます。
  - 「保存」 - レポートがローカル・マシンに保存されます。
  - 「取消し」 - 生成されたレポートが保存されずに取り消されます。

## 数値フォーマットのプレビューおよび変更

マップされたアイテムのフォーマット設定を「フォーマット」タブでプレビューし、数値フォーマットのデフォルト設定の追加または変更を選択できます。「フォーマット」タブでは、マップされた各数値に次の内容が表示されます:

- 小数位または精度の桁数
- スケール(係数)
- 数値フォーマット
- 正数の接頭辞
- 負数の接頭辞
- 正数の接尾辞
- 負数の接尾辞

▶ フォーマットを更新するには:

- 1 「Disclosure Management マッピング・ツール」ペインで「確認」タブを選択します。
- 2 「アクション」ドロップダウンで「リスト・ビュー」を選択します。
- 3 数値を選択します。
- 4 「確認」ペインの下部にある「フォーマット」タブを選択します。
- 5 「アクション」ドロップダウンをクリックして、「編集」を選択します。  
「フォーマット」ダイアログが表示されます。詳細は、[116 ページの「ドキュメントのフォーマット」](#)を参照してください。
- 6 フォーマットに変更を加えて、「OK」をクリックします。

## ドキュメントの検証

インスタンス・ドキュメントの検証を検証モードで起動できます。検証では次の操作が実行されます:

- マッピング・ツール・クライアント・ツールから XBRL マッピングが取得されます。
- タクソノミのメタデータに対して XBRL マッピングが確認および検証されます。
- XBRL タクソノミ・スキーマ・ルールおよび計算を使用して、データの精度と準拠が検証されます。
- マッピング・ツールからエラー・メッセージが表示されます。

▶ インスタンス・ドキュメントを検証するには:

1 「Disclosure Management マッピング・ツール」パネルの「検証」タブで、「アクション」ドロップダウンをクリックして検証タイプを選択します。







- XBRL インスタンス
- IXBRL インスタンス
- US SEC-US SEC EDGAR XBRL: (SEC 申告者は必須)
- US SEC-US SEC EDGAR HTML: (SEC 申告者は必須)
- HMRC: Joint Filing Checks (HMRC 申告者は必須)
- IFRS: Global Filing Manual (オプション)


2 検証要約を確認します。

## 検証エラー・メッセージの表示


リスト・ビューでインスタンス・ドキュメントを検証するときには、「ステータス」フィールドに次のような検証ステータスが表示されます:

表 10 確認ステータス記号とその説明

確認ステータス記号	説明
	致命的なエラー
	エラー・ステータス・マップされたアイテムが正しくないことを示します。
	警告
	不整合
	情報
	成功

検証プロセス中に、インスタンス・ドキュメントで適用された不正なマッピングは、マップされたアイテムの横にある「ステータス」フィールドに  ステータスで表示されます。「検証」ペインを使用して、エラーの詳細および推奨される解決方法を表示してください。マッピングごとに検証メッセージのリストを表示できます。検証の際に、どこにも属さない検証メッセージをまとめた行がマッピングのリストに追加されます。

Current Mapping		Validation
Status	Message	
Error	Error in "http://xbrl.oracle.com/20080531#CashCashEquivalentsCarryingValue (8262)[ID: dm-mapb6b25745-8cf3-4c52-bba3-f351b5a54927-848b71d4-1dd5-454d-958e-48116a7c9222].": A numeric item MUST have either a precision attribute or a decimals attribute unless it is of the fractionItemType or of a type that is derived by restriction from fractionItemType or has a nil value, in which case, it MUST NOT have either a precision attribute or a decimals attribute. A numeric item MUST NOT have both a precision attribute and a decimals attribute. A non-numeric item MUST NOT have either a precision or a decimals attribute.	

- ▶ 不正なマップされたアイテムに関するエラー・メッセージを表示するには、マップされたアイテムの横にある  をダブルクリックします。

## エラーメッセージの解決

検証で戻されたエラー・メッセージを使用して、その修正方法を判断します。エラーの一般的な解決方法は次のとおりです：

- タクソノミの概念の対応する期間タイプに一致するよう、コンテキストを変更します。
- 財務諸表のマップされた値をオーバーライドします。
- スケーリングまたは負のオプションを設定します。
- 精度や小数点の設定を変更します
- マッピングを抑制または除去します。
- 単位を変更します。





また、Disclosure Management XBRL タクソノミ・デザイナーを使用して次を解決できます：

- 欠落した概念
- 順序が不適切または不正な概念ラベル
- 無効な計算ロールアップ
- 無効なテーブル・モデル



# 確認モードのナビゲーション・オプション

表 11 確認モードのナビゲーション・オプション

ナビゲーション・オプション	説明
 (リスト・ビュー)	<p>リスト・ビューには、個別にマップされたアイテムが表形式で表示されます。この表には、カスタマイズおよびソートが可能な列ヘッダーが表示されます。リスト・ビューでアイテムを選択すると、Office ドキュメント内の対応するデータが選択されます。</p> <p>タプル・グループの一部であるマップされたタプル・メンバーは、次のフォーマットで示されます: TupleParentName (TupleGroupName) . TupleMemberName</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● TupleParentName - マップされたタプル・メンバーの親の名前(ラベル)</li> <li>● TupleGroupName - ユーザーによって指定されたタプル・グループ名</li> <li>● TupleMemberName - タプル(ラベル)メンバーの名前</li> </ul>
 (次のマッピング)	<p>ツリー・ビューで、「確認」ペインのツールバーにある「次」ボタンを選択できます。これにより、ツリーの次のマップ・アイテムが選択されます。ツリーの最後のマップ・アイテムが選択されているときに「次」ボタンをクリックすると、ツリーの最初のアイテムが選択されます。</p>
 (前のマッピング)	<p>ツリー・ビューで、「確認」ペインのツールバーにある「前」ボタンを選択できます。これにより、ツリーの前のマップ・アイテムが選択されます。ツリーの最初のマップ・アイテムが選択されているときに「前」ボタンをクリックすると、ツリーの最後のアイテムが選択されます。</p>
 (ツリー・ビュー)	<p>ツリー・ビューには、マッピング情報が階層順に表示されます。個別マップは、概念、コンテキスト、単位および脚注別にまとめられます。</p> <p><b>注:</b> ツリー・ビューには、タプル・ツリーは表示されません。</p>

## インスタンス・ドキュメントの生成

タクソノミが XBRL 概念および他の概念との関係を定義するのに対し、インスタンス・ドキュメントは実際のデータを含むレポートです。タクソノミとインスタンス・ドキュメントの間には緊密な関係があります。タクソノミが作成された後、その定義と関係を使用して、XBRL レポートを作成できます。タクソノミの参照に加え、インスタンス・ドキュメントには次の情報も含まれています:

- XBRL コンテキスト - レポート(ビジネス)エンティティ、時間枠、およびシナリオや次元などのその他のオプションの詳細に関する情報を提供します。
- XBRL 単位 - 数値データが表す単位を示します。単位の例: 米国ドル、ユーロ、株数。
- データ - インスタンス・ドキュメントには、Microsoft Office ドキュメント、Financial Reporting グリッドおよび Oracle Hyperion データ・ソース内に存在する数値データまたはテキスト・データ(あるいはその両方)が含まれています。ドキュメント・データという汎用的な用語は、Excel 内の単一セル、Microsoft Word 内の単一語句または段落全体、または Financial Reporting グリッド内のセルを表しています。この用語は、Disclosure Management マッピング・ツールによってマップ可能なデータを表すために全体で使用されます。さらに、

数値データを増減したり、数値データに脚注への参照を含めることができます。

インスタンス・ドキュメントは HTML Web ページに似ていますが、レポート言語は、ブラウザでの読取りが可能な HTML ではなく、インスタンス・ドキュメントを利用および分析する様々な XBRL アプリケーションでの読取りが可能な XML です。

XBRL の申告は、XBRL タクソノミとインスタンス・ドキュメントで構成されています。XBRL タクソノミは、会社の開示の背景にあるメタデータを説明し、インスタンス・ドキュメントは、タクソノミへのファクトのマップ方法を示します。検証により、概念間のセマンティック関係が確認され、正しいファクトがベース・タクソノミの正しいファクト・フィールドにマップされていることが確認されます。たとえば、検証で、「資産」にファイルされたファクトが「負債」および「株主資本」にファイルされたファクトと一致しているかどうかを確認されます。XBRL インスタンス・ドキュメントの生成は、XBRL に準拠した開示を生成するための最後のステップです。申告で提出される XBRL データが正確であることを確認するために、Disclosure Management では、インスタンス・ドキュメントの作成前に、XBRL タクソノミ仕様と照らして会社のタクソノミが検証されます。

検証は、3つの手順を伴うプロセスです。最初に、タクソノミを検証します。次の手順では、インスタンス・ドキュメントを生成します。これにより、インスタンス・ドキュメントに関連付けられた XML ファイルが作成されます。XBRL は XML ベースのフレームワークで、XML の構文に依存して XLink スキーマや XML スキーマのセマンティックな意味を宣言します。最後のステップでは、インスタンス・ドキュメントを作成します。作成したインスタンス・ドキュメントは、他のビジネス・エンティティと交換したり、監督官庁に提出できます。

## マップされたデータの検証

Disclosure Management では、次の 3 タイプのインスタンス検証がサポートされません:

- 表示 - インスタンス・ドキュメントが XBRL 仕様に準拠しているかどうかを検証します。たとえば、マップされた概念が「期間」期間タイプで、そのインスタンス・ドキュメントには対応するコンテキストに単一日付が含まれているとします。この場合、「期間」期間タイプでは開始日と終了日が定義されている必要があるため、表示検証は失敗します。
- 計算 - インスタンス・ドキュメント内のすべての計算値が、タクソノミ内で定義されている計算関係ごとに検証されます。この検証では、数値ファクトの加重属性を考慮しながら、計算スキーマで定義されている計算関係が使用されます。
- 式 - インスタンス・ドキュメント内のすべての計算値が、タクソノミ内で定義されている式ごとに検証されます。タクソノミ内の式では通貨アイテム・タイプに加えてブール(true または false)および文字列データ型がサポートされるため、式の使用によってビジネス分析と予測が容易になります。

▶ タクソノミを検証するには:

- 1 検証するタクソノミを含む Office ドキュメントを開きます。



## 2 「Disclosure Management」リボンで、「検証」を選択します。

検証の実行中には、進捗状況を示すゲージが表示されます。

## 検証メッセージのエクスポート

検証した XBRL インスタンスについての検証メッセージを開いたり、マシンにエクスポートしたりできます。

▶ 検証メッセージをエクスポートするには:


- 1 Disclosure Management で Office ドキュメントを開きます。
- 2 「Disclosure Management マッピング・ツール」ペインの「検証」タブで、「検証」アイコン -  をクリックします。
- 3 検証が完了したら、「エクスポート」アイコン  をクリックします。「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。
- 4 「保存」をクリックします。
- 5 「名前を付けて保存」ダイアログで保存する場所に移動し、オプションでファイル名を変更して、「保存」をクリックします。「ダウンロード」ダイアログが表示されます。「開く」、「フォルダを開く」または「保存」をクリックできます。メッセージが Microsoft Excel ファイルにコピーされます。

## ルール・サポートを使用した検証

また、次に示す、規制固有の検証を行うこともできます:

- XBRL 2.1 仕様(デフォルト)に基づく、次元、リンクベースおよび単位タイプ・レジストリに関する検証
- US SEC EDGAR Filing Manual、HMRC 合同申告チェックおよび IFRS Global Filing Manual に関する規制の検証
- タプルの生成、カスタム関数などに使用可能な拡張モジュール。

▶ ルール・サポートを使用した検証を実行するには:

- 1 「Disclosure Management」リボンで  をクリックし、ドロップダウンから検証タイプを選択します。
- 2 検証要約を確認します。


## 計算トレースの表示

計算トレースは、ドキュメントの演算がタクソノミの計算に対応していることを確認します。計算トレースには、検証時に加算が合計を表すインスタンス値とは異なる場合の差異が記載されます。このアクションは、検証を実行した後に実行されます。

**注：** このオプションを使用できるのは、タクソノミに CalculationLinkBase が存在する場合のみです。

▶ 計算トレースを表示するには:

- 1 「検証」タブを選択します。
- 2 「アクション」メニューで、「計算トレースの表示」を選択します。

または、 をクリックします。

## 式トレースの表示

式トレースは、XBRL ドキュメントの式がタクソノミの式に対応していることを確認します。式には、セマンティック表現のビジネス・ルールが含まれます。たとえば、式には、「資産 = 負債 + 資本」という定義が含まれる場合があります。式トレースには、検証時の式の失敗が記録されます。

**注：** このオプションを使用できるのは、タクソノミに CalculationLinkBase が存在する場合のみです。

▶ 式トレースを表示するには:

- 1 「検証」タブを選択します。
- 2 「アクション」メニューで、「計算トレースの表示」を選択します。

## インスタンス・ドキュメントのレンダリング

Disclosure Management は、自動タクソノミ、複数のタクソノミ、および IFRS ベース・レポートの検出を行い、結果に基づいて個別にレンダリングを処理します。

### 自動タクソノミ

Disclosure Management は、インスタンス・ドキュメント内のスキーマ参照 (SchemaRef) 属性を読み取ることで、インスタンス・ドキュメントに関連付けられているタクソノミの検出を試行します。検出されると、属性は、SEC ビューアでのインスタンス・ドキュメントのレンダリングに使用されます(使用可能な場合)。タクソノミを検出できない場合は、ユーザーにタクソノミのパスまたは URL の指定が求められます。

### 複数のタクソノミ

インスタンス・ドキュメントに 2 つ以上のタクソノミへの参照が含まれている場合、Disclosure Management は、複数の schemaRef 属性によって宣言されたタクソノミのロードを試行し、SEC ビューアでインスタンスをレンダリングします(使用可能な場合)。

## IFRS ベース・レポート

「XBRL の生成」オプションがトリガーされた後、IFRS ベース・レポートが検出されると、SEC ビューアに自動的に表示されます(使用可能な場合)。

IFRS ベース・レポートには、次に示す使用上の注意事項が適用されます:

- 様々な国際タクソノミにより、IFRS タクソノミ(UK-IFRS やチリのタクソノミなど)が拡張されます。
- 現在認識されるのは、次のバージョンの IFRS タクソノミのみです: 2011、2010、2009、2008、2006 および 2005。2005 より前のバージョンの IFRS タクソノミはサポートされていません。
- SEC ビューアでは、IFRS ベースのインスタンス・ドキュメントが正常にレンダリングされない場合があります。SEC ビューアの失敗の原因になることがわかっている IFRS ベース・タクソノミのスキーマ参照があります。たとえば、インスタンス・ドキュメントに次のスキーマ参照が使用されていると、SEC ビューアが失敗します: [http://www.svs.cl/cl/fr/ci/2011-04-26/clci\\_shell\\_2011-04-26.xsd](http://www.svs.cl/cl/fr/ci/2011-04-26/clci_shell_2011-04-26.xsd)
  - SEC ビューアでは、IFRS ベースのインスタンス・ドキュメントが正常にレンダリングされない場合があります。SEC ビューアの失敗の原因になることがわかっている IFRS ベース・タクソノミのスキーマ参照があります。たとえば、インスタンス・ドキュメントに次のスキーマ参照が使用されていると、SEC ビューアが失敗します。 [http://www.svs.cl/cl/fr/ci/2011-04-26/clci\\_shell\\_2011-04-26.xsd](http://www.svs.cl/cl/fr/ci/2011-04-26/clci_shell_2011-04-26.xsd)
  - 無効なスキーマ参照により、SEC ビューアが失敗することがあります。XBRL レポートに適切なスキーマ参照が指定されていることを確認する必要があります。たとえば、前の例のスキーマ参照は、インスタンス・ドキュメントでは一般的ではありません。
- SEC ビューアのファイル・ダウンロード・サイトで、更新やバグ修正を定期的を確認してください。サイトの URL は次のとおりです: <http://www.sec.gov/spotlight/xbrl/renderingenginelicense.htm>
- Disclosure Management では、インスタンス・ドキュメントの最終的なレンダリングを制御できません(これには、US GAAP ベースのインスタンス・ドキュメントも含まれます)。

## インスタンス・ドキュメントへのエクスポート

ドキュメント内のマップされた XBRL データが検証された後、そのインスタンス・ドキュメントを .DMR 出力ファイル・タイプにエクスポートします。インスタンス・ドキュメントをローカル・ファイル・システムに保存して、そこからドキュメントを内部監査などの社内用、または SEC などの監督官庁用に送信できます。

.DMR 出力ファイル・タイプは、すべての XBRL レポート・ファイルを含む圧縮ファイルです:

- [taxonomy]\_entrypoint.xml
- genericviewerreport.html

- [taxonomy].xsd
- [taxonomy]-label.xml
- [taxonomy]-presentation.xml
- xbrlreport.xml

レポート・ファイルを表示するには、WinZip(R)などの圧縮ユーティリティを使用して.DMR ファイルを開きます。

▶ インスタンス・ドキュメントの出力タイプを選択するには:

- 1 エクスポートする検証済インスタンス・ドキュメントが含まれている Office ドキュメントを開きます:
- 2 「Disclosure Management」リボンで、「エクスポート」を選択します。エクスポートが成功すると、「レポートは正常にエクスポートされました。」という確認メッセージが表示されます。
- 3 「ファイル名」に、保存するレポートの名前を入力し、「保存」をクリックします。レポートがエクスポートされ、ビューアで表示されて、次のファイルが生成されます:

マップされたタクソノミが US GAAP タクソノミに基づいている場合、デフォルトでは、インスタンス・ドキュメントは SEC ビューア・フォーマットで開きます(SEC ビューア・ファイルが使用可能な場合)。汎用またはその他のビューアも使用できます。US GAAP 以外のすべてのタクソノミは、デフォルトでは、汎用ビューアで表示されます。

表 12 ビューアのタイプ

ビューア・フォーマットのタイプ	説明
SEC	インスタンス・ドキュメントが US GAAP タクソノミの拡張から導出されている場合、Disclosure Management では、そのドキュメントは SEC の対話型ビューアを使用して表示されます。
汎用	インスタンス・ドキュメントが US GAAP タクソノミから導出されたものでない場合は、SEC ビューアは使用できません。かわりに、XML スタイル・シートを使用してインスタンス・ドキュメントをプレビューします。汎用ビューアでは、インスタンス・ドキュメント(XML)内に存在する順序でファクト値が表示されます。通常、これは概念がマップされた順序です。

## XBRL 出力のプレビュー

XML ファイル・タイプのインスタンス・ドキュメントを生成すると、そのインスタンス XML ファイルが指定されたフォルダの場所に保存されます。インスタンス・ドキュメントが US GAAP タクソノミの拡張であるタクソノミを使用している場合は、そのインスタンス・ドキュメントは SEC インスタンス・ビューアに表示されます(SEC ビューア・ファイルが使用可能な場合)。その他すべてのインスタンス・ドキュメントは、汎用インスタンス・ビューアと呼ばれる表形式で表示されます。汎用ビューアでインスタンス・ドキュメントを開くと、Web ブラウザで

XML ドキュメントを開く場合に類似したフォーマットで XBRL コンテンツを表示できます。申告会社のデータが XBRL フォーマットの場合は、インスタンス・ドキュメントを監督官庁に申告したり、別の会社に送信できます。

▶ XBRL 出力をプレビューするには:

- 1 「Disclosure Management」リボンの「エクスポート」オプションを選択して、インスタンス・ドキュメントを生成します。

詳細は、[101 ページの「インスタンス・ドキュメントへのエクスポート」](#)を参照してください。

- 2 「Disclosure Management」リボンで、「プレビュー」を選択します。
- 3 「プレビュー」ペインで、「ファイル」、「レポートを開く」の順に選択します。
- 4 インスタンス・ドキュメントが格納されているフォルダに移動して、「開く」をクリックします。

タクソノミは自動的に検出されるため、「プレビュー」で「ファイル」、「US-GAAP レポートを開く」の順に選択すると、標準のファイルを開くダイアログが表示されます。Disclosure Management でタクソノミを自動的に検出できない場合は、ユーザーにタクソノミのパスまたは URL の指定が求められます。

- 5 「ツール」を選択し、「表示」、「XBRL」の順に選択します。

次の例では、インスタンス・ドキュメントの出力にコンテキスト、単位および脚注が含まれており(最初の例)、次にファクトが含まれています(2 番目の例):

```
Consolidated Balance Sheet - XBRL Viewer
Open Reports Tools
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<!-- Created with Oracle Hyperion Disclosure Management (tm) version 1.0 Copyright (c) 2010 Oracle Corporation (http://www.oracle.com), all rights reserved. 2010/02/28 11:54:05 -->
- <xbrl xmlns="http://www.xbrl.org/2003/instance" xmlns:iso4217="http://www.xbrl.org/2003/iso4217"
  xmlns:link="http://www.xbrl.org/2003/linkbase" xmlns:orcl="http://xbrl.oracle.com/20080531"
  xmlns:xbrli="http://www.xbrl.org/2003/instance" xmlns:xhtml="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://xbrl.org/2006/xbrldi http://www.xbrl.org/2006/xbrldi-2006.xsd">
  <link:schemaRef xlink:href="../DisclosureManagement/discman1/XbrlFiles/Oracle/orcl-20080531/orcl-
    20080531.xsd" xlink:type="simple" />
  <!-- Context name: C2 -->
  - <context id="C2">
    - <entity>
      <identifier scheme="http://www.sec.gov/CIK">0001341439</identifier>
    </entity>
    - <period>
      <instant>2008-05-31</instant>
    </period>
  </context>
  <!-- Unit name: U1 -->
  - <unit id="U1">
    <measure>iso4217:USD</measure>
  </unit>
  <orcl:CashCashEquivalentsCarryingValue contextRef="C2" unitRef="U1">8262</orcl:CashCashEquivalentsCarryingValue>
  <orcl:MarketableSecuritiesCurrent contextRef="C2" id="f0" unitRef="U1">2781</orcl:MarketableSecuritiesCurrent>
  - <link:footnoteLink xlink:role="http://www.xbrl.org/2003/role/link" xlink:type="extended">
    <link:loc xlink:href="#f2" xlink:label="f2" xlink:type="locator" />
    <link:loc xlink:href="#f1" xlink:label="f1" xlink:type="locator" />
    <link:loc xlink:href="#f0" xlink:label="f0" xlink:type="locator" />
    <link:footnoteArc xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote" xlink:from="f2" xlink:to="r2"
      xlink:type="arc" />
    <link:footnoteArc xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote" xlink:from="f1" xlink:to="r1"
      xlink:type="arc" />
    <link:footnoteArc xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote" xlink:from="f0" xlink:to="r0"
      xlink:type="arc" />
    <!-- Footnote name: footnote_F3 -->
    <link:footnote id="footnote_F3" xlink:label="r2" xlink:role="http://www.xbrl.org/2003/role/footnote"
      xlink:type="resource" xml:lang="en">Other receivables represent value-added tax and sales tax receivables
      associated with the sale of software and services to third parties.</link:footnote>
    <!-- Footnote name: footnote_F2 -->
    <link:footnote id="footnote_F2" xlink:label="r1" xlink:role="http://www.xbrl.org/2003/role/footnote"
      xlink:type="resource" xml:lang="en">We record allowances for doubtful accounts based upon a specific
      review of all significant outstanding invoices. For those invoices not specifically reviewed, provisions are
      provided at differing rates, based upon the age of the receivable, the collection history associated with the
      geographic region that the receivable was recorded in and current economic trends.</link:footnote>
    <!-- Footnote name: footnote_F1 -->
  </link:footnoteLink>

```





## IXBRL フォーマットのインスタンス・ドキュメントの生成

IXBRL フォーマットで生成されたインスタンス・ドキュメントでは、同一ドキュメント内に、ユーザーが理解しやすいフォーマットとマシンで読取り可能なフォーマットで申告を表示できます。XBRL は、コンピュータによる読取り専用です；IXBRL で生成されたバージョンは、人が理解できる HTML コンテンツとマシンで読取り可能な XBRL フォーマットを兼備し、これらをブラウザで表示できます。

ドキュメント内のマップされた XBRL データがすべて検証された後、.DMR ファイルが生成されます。マップされた財務諸表をエクスポートするときに、ドキュメントの保存を求めるプロンプトが表示されます。インスタンス・ドキュメントをローカル・ファイル・システムに保存して、そこからドキュメントを内部監査などの社内用、または SEC などの監督官庁用に送信できます。

.DMR 出力ファイル・タイプは、次のようなすべての iXBRL レポート・ファイルを含む圧縮ファイルです：

- document.xhtml
- genericviewerreport.html
- themedata.thmx
- colorschememapping.xml
- [taxonomy]\_entrypoint.xml
- filelist.xml
- xbrlreport.xml
- [taxonomy].xsd

レポート・ファイルを表示するには、WinZip(R)などの圧縮ユーティリティを使用して.DMR ファイルを開きます。

▶ IXBRL 出力タイプのインスタンス・ドキュメントを選択するには:

- 1 エクスポートする検証済インスタンス・ドキュメントが含まれている Office ドキュメントを開きます。
- 2 「**Disclosure Management**」リボンで、「IXBRL の生成」を選択します。
- 3 「ファイル名」に、保存するレポートの名前を入力し、「保存」をクリックします。

## インスタンス・ビューアでのインスタンス・ドキュメントの表示(SEC またはその他)

Disclosure Management には、インスタンス・ドキュメント XBRL のためのいくつかの表示オプションがあります:

- 汎用ビューアまたは SEC ビューアに、人間が理解できるフォーマットで XBRL を表示できます。この場合、Disclosure Management により XBRL 出力にスタイル・シートが適用されます。
- 汎用ビューアまたは SEC ビューアに RAW XBRL を表示できます
- ユーザーのデフォルト・ブラウザに、人間が理解できるフォーマットで XBRL を表示できます

▶ 汎用ビューアにインスタンス・ドキュメントを表示するには:

- 1 「**Disclosure Management**」リボンで、「プレビュー」を選択します。
- 2 US GAAP 以外のインスタンス・ドキュメントについては、「開く」、「レポートを開く」の順に選択します。
- 3 インスタンス・ドキュメントが格納されているフォルダに移動して、「OK」をクリックします。

**オプション:** 別のフォルダにある Disclosure Management レポートを選択するには、「開く」、「レポート・フォルダを開く」の順に選択し、レポートが格納されたフォルダに移動し、レポートを選択して「OK」をクリックします。タク

ソノミは自動的に検出されるため、「ファイル」、「US-GAAP レポートを開く」の順に選択すると、標準のファイルを開くダイアログが表示されます。Disclosure Management でタクソミを自動的に検出できない場合は、ユーザーにタクソミのパスまたは URL の指定が求められます。

- 4 オプション: レポートの RAW XBRL コンテンツを表示するには、「表示」、「XBRL」の順に選択します。

Concept Name	May 31 2008	
Cash and Cash Equivalents at Carrying Value	\$8,262.00	
Marketable Securities, Current	\$2,781.00	[1]
Trade Receivables, Net	\$5,127.00	[2]
Other Receivables, Current	\$672.00	[3]
Deferred Tax Assets, Net, Current	\$853.00	
Prepaid and Other Current Assets	\$408.00	
Assets, Current	\$18,103.00	
Intangible Assets, Software Support Agreements	\$3,797.00	
Intangible Assets, Net	\$4,598.00	
Goodwill	\$17,991.00	
Other Assets, Noncurrent	\$1,091.00	
Assets, Noncurrent, Total	\$29,165.00	
Assets	\$47,268.00	
Notes and Loans Payable, Current	\$1,001.00	
Accounts Payable	\$383.00	
Income Taxes Payable, Current	\$390.00	
Accrued Compensation	\$1,770.00	
Other Liabilities, Current	\$1,685.00	
Liabilities, Current, Total	\$10,029.00	
Long-term Notes Payable	\$10,235.00	
Income Taxes Payable	\$1,566.00	
Deferred Tax Liabilities, Noncurrent	\$1,218.00	
Accrued Restructuring	\$260.00	
Deferred Revenue, Noncurrent	\$262.00	
Other Liabilities, Noncurrent	\$673.00	
Liabilities, Noncurrent, Total	\$14,214.00	
Liabilities and Stockholders' Equity	\$9,961.00	

<sup>1</sup> In accordance with FASB Statement No. 115, Accounting for Certain Investments in Debt and Equity Securities, and based on our intentions regarding these instruments, we classify our marketable debt and equity securities as available-for-sale. Marketable debt and equity securities are reported at fair value, with all unrealized gains (losses) reflected net of tax in stockholders' equity. If we determine that an investment has an other than temporary decline in fair value, we recognize the investment loss in non-operating income, net in the accompanying consolidated statements of operations. We periodically evaluate our investments to determine if impairment charges are required. We hold investments in certain non-marketable equity securities which we do not have a controlling interest or significant influence, which are recorded at cost and included in other assets in the accompanying consolidated balance sheets. Our non-marketable securities are subject to periodic impairment reviews and we had nominal impairment losses related to non-marketable equity securities and other investments in fiscal 2008, 2007 and 2006.

➤ インスタンス・ドキュメントをブラウザで表示するには:

- 1 「Disclosure Management」リボンで、「プレビュー」を選択します。
- 2 US GAAP 以外のインスタンス・ドキュメントについては、「開く」、「レポートを開く」の順に選択します。
- 3 インスタンス・ドキュメントが格納されているフォルダに移動して、「OK」をクリックします。

オプション: 別のフォルダにある Disclosure Management レポートを選択するには、「開く」、「レポート・フォルダを開く」の順に選択し、レポートが格納されたフォルダに移動し、レポートを選択して「OK」をクリックします。

4 「ツール」で、「デフォルト・ブラウザで開く」を選択します。

## SEC ビューアのオフラインでの使用

Disclosure Management では、オフラインで SEC ビューアに XBRL レポートをレンダリングして表示できます。この機能を使用できるのは、SEC ビューア・プログラムがキャッシュを使用して最初にインターネットからフェッチした XBRL リソースを保存するからです。XBRL リソースがキャッシュに保存されると、SEC ビューアはキャッシュにあるファイルを参照してインスタンス・ドキュメントをレンダリングします。

SEC ビューアをオフラインで使用するには、次のいずれかのアクションを実行します:

- 依存 XBRL リソース・ファイルを含むキャッシュ・ディレクトリを手動で作成します。それには、次の(アタッチされた)依存 XBRL リソース・ファイルを次のフォルダにコピーします:`%USERPROFILE%\Application Data\Rivet\Dragon Tag:`
  - `us-types-2009-01-31.xsd`
  - `dei-2009-01-31.xsd`
  - `negated-2008-03-31.xsd`
  - `us-gaap-2009-01-31.xsd`
  - `us-roles-2009-01-31.xsd`

インスタンス・ビューアのプレビューを使用するたびに、ユーザーは常にキャッシュ内のファイルを使用するように要求されます(US GAAP レポート)。

- リソース・ファイルをインスタンス・ファイルと同じフォルダにコピーします。依存リソース・ファイルをインスタンス・ファイル(インスタンス XML ファイルとそのタクソノミ拡張ファイル)と同じフォルダから使用できる場合、ユーザーに対するリソース・ファイルのプロンプトは表示されません。SEC ビューアは、自動的にフォルダのファイルを使用します。

## ルール・サポートを使用した検証

Disclosure Management には、次のような、追加のルール検証があります:

- XBRL 2.1 仕様(デフォルト)に基づく、次元、リンクベースおよび単位タイプ・レジストリに関する検証
- US SEC Edgar Filing Manual、HMRC 合同申告チェックおよび IFRS Global Filing Manual に関する規制の検証
- タブルの生成、カスタム関数などに使用可能な拡張モジュール。

▶ 規制固有の検証を実行するには:

- 1 レポートを Microsoft Word または Excel で開き、Disclosure Management サーバーに接続します。

## 2 Disclosure Management リボンから「プレビュー」を選択します。

「プレビュー」ダイアログが表示されます。

## 3 「ファイル」メニューから、.DMR ファイルまたは.XML ファイルを選択します。

**オプション:** 「レポート・フォルダを開く」または「US-GAAP レポートを開く」を選択して、ファイルに移動することもできます。

ファイルがロードされると、「プレビュー」ダイアログに「検証」メニュー・アイテムが追加されます。

「検証」ドロップダウンが表示されます。

## 4 「検証」を選択し、「検証」ドロップダウンから検証オプションを選択します。

オプションは次のとおりです:

- US SEC
- UK HRMC
- IRFS

Disclosure システム・チェック・ログが生成され、「プレビュー」に表示されます。

▶ 「プレビュー」の「ツール」メニューから Disclosure システム・チェック・ログを表示するには:

### 1 Disclosure Management リボンで「プレビュー」を選択します。

### 2 「ツール」、「ビュー」、「XBRL」または「汎用」(.DMR ファイルの場合)の順に選択します。

### 3 「Disclosure システム・チェック・ログ」を選択します。

## レポートの複製

複製したレポートの「一般」オプションを使用すると、ドキュメントとそのマッピングを別の物理ドキュメントにコピーし、Disclosure Management レポート名を指定して、マップされたアイテムの数値フォーマットを表示できます。参照:

- [109 ページの「レポートの複製の作成」](#)
- [110 ページの「複製したレポートのフォーマットの変更」](#)

## レポートの複製の作成

ドキュメントのデータを更新し、新しいコメントを追加することで、古いドキュメントおよびマッピングを保持しながら以前のマッピングを再利用できます。

▶ レポートを複製するには:

### 1 複製するドキュメントのコピーを作成します。

### 2 ドキュメントを開きます。



- 3 「Disclosure Management」リボンで「複製」アイコン -  を選択します  
「複製したレポートのプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 4 「全般」タブを選択します。
- 5 「レポート名」に、複製するレポートの名前を入力します。  
レポート名は、タクソノミ・マッピングとともにマッピング・リポジトリに格納され、レポート名に基づいてマッピングを管理できます。
- 6 「XBRL インスタンス名」に、複製するレポートのインスタンス名を入力します。
- 7 「場所」に、物理ドキュメントのコピー先となるファイル・システム上の宛先パスを入力します。  
 を選択して、ファイル・システム上のパスにナビゲートすることもできます。
- 8 「OK」を選択します。

表 13 複製したレポートの「全般」オプションと説明

フィールド	説明
ドキュメント ID	マッピング・リポジトリ内の Office ドキュメントのドキュメント識別子を示します。非データ・ソース・マッピングがあるすべての Office ドキュメントは、ドキュメント識別子 (documentName と呼ばれる) を割り当てられます。このプロパティの値は、カスタム XML として Office ドキュメント内に格納されます。
レポート名	レポートに関連付けるレポート名を指定します。レポート名は、タクソノミ・マッピングとともにマッピング・リポジトリに格納され、レポート名に基づいてマッピングを管理できます。
関連付けられているタクソノミ	レポートの複製で使用されるタクソノミを示します。タクソノミは、元のドキュメントから継承されます。タクソノミの変更の詳細は、 <a href="#">81 ページの「Disclosure Management ドキュメントのロールオーバー」</a> を参照してください。
XBRL インスタンス名	エクスポート時にレポートに割り当てられる XBRL インスタンス名を指定します。
場所	物理ドキュメントのコピー先となるファイル・システム上の宛先パスを入力します。

## 複製したレポートのフォーマットの変更

「レポートの複製」の「変換」オプションを使用すると、マッピングを実行する際に Microsoft Word ドキュメントの数値データの数値の接頭辞、接尾辞、桁区切り文字および小数点を表示できます。Microsoft Excel では基礎となる数値データがフォーマットされないため、Microsoft Excel には影響がありません。

▶ 数値フォーマットを表示するには:

- 1 「Disclosure Management」リボンで、「レポートの複製」を選択します。
- 2 「変換」を選択します。

表 14 正数の記号のフィールドと説明

フィールド	説明
接頭辞	<p>それぞれの正の値の左に配置される、正数の接頭辞記号を表示します。記号オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> <li>● \$</li> <li>● %</li> <li>● [</li> <li>● ]</li> </ul> <p>デフォルトの接頭辞記号は「なし」です。</p>
接尾辞	<p>それぞれの正の値の右に配置される、正数の接尾辞記号を表示します。記号オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> <li>● \$</li> <li>● %</li> <li>● [</li> <li>● ]</li> </ul> <p>デフォルトの接頭辞記号は「なし」です。</p>

表 15 負数の記号のフィールドと説明

フィールド	説明
接頭辞	<p>それぞれの負の値の左に配置される、負数の接頭辞記号を表示します。記号オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● -(負の符号)</li> <li>● なし</li> <li>● \$</li> <li>● %</li> <li>● [</li> <li>● ]</li> </ul> <p>デフォルトの接頭辞記号は「-」です。</p> <p>または、フィールドをハイライトし、別の記号を入力して、リストで別の記号を指定することもできます。</p>
接尾辞	<p>それぞれの負の値の右に配置される、負数の接尾辞記号を表示します。記号オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> <li>● \$</li> <li>● %</li> <li>● [</li> <li>● ]</li> </ul> <p>デフォルトの接頭辞記号は「なし」です。</p>

表 16 区切り文字のフィールドと説明

フィールド	説明
区切り文字	数値の3桁ごとの区切り文字および小数点のフォーマットを表示します。
3桁ごとの区切り文字	3桁ごとの区切り文字を表示します。
小数点	小数点を表す文字を表示します。

表 17 小数位、精度およびスケール属性の全般情報

フィールド	説明
小数位、精度およびスケール属性の全般情報	<p>インスタンス・ドキュメントを生成すると、XBRL ライン・アイテムにマッピングされた数値は raw データ値とともに保存されます。数値からは、フォーマットと四捨五入が除去されます。値を正しくレポートするには、精度とスケール属性のプロパティの両方を適用する必要があります。たとえば、アイテムを30にマップし、この値を百万の単位で表したい場合、2つの属性を指定する必要があります。まず、数値が百万の単位まで正確に表すように小数位属性を6に設定します。次に、スケール係数を6と指定すると、マップされた値30に6つのゼロが追加され、値30000000がインスタンス・ドキュメントにレポートされます。</p> <p>インスタンス・ドキュメント内のすべての数値には、小数位または精度の属性のいずれかが必要のため、Disclosure Management では、インスタンス・ドキュメントに存在するすべての数値データに精度設定を指定できます。また、スケール属性を指定して、インスタンス・ドキュメントに含める正しいゼロ値を決定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小数位 - 小数位属性は、小数位に基づいてX位置まで数値がどの程度正確であることを示します。たとえば、小数位属性が0の場合、数値は整数の値まで正確であることを意味します。小数位属性が2の場合、数値は百分の1まで正確であることを意味します。小数位属性は、SEC 申告者には必須です。</li> <li>● 精度 - 精度属性は、数値のどの桁まで正確かを示します。つまり、このライン・アイテムにマッピングされる数値は、インスタンス・ドキュメントに示される値と同じになります(四捨五入なし)。デフォルトでは、Disclosure Management では精度設定を使用します。このオプションは常に INF に設定されます。データ・ソースに保管される値がすでに丸められている場合(保管された値250が、実際は250,000であるなど)、インスタンス・ドキュメントの作成後に、作成されたXMLファイルの精度属性を手動で調整することが必要な場合があります。精度属性の詳細は、XBRL 2.1仕様を参照してください。</li> <li>● スケールリング - スケールリング属性を使用すると、値の単位にスケール係数を乗算する際に使用される係数を指定し、インスタンス・ドキュメントに含める正しい値を算出できます。スケールリングにより、大きな数値をマップする際に、Microsoft Word または Excel にゼロを入力する必要がなくなります。</li> </ul> <p>たとえば、値\$30をマップし、実際にはこの値が30百万を表す場合、スケール係数を6に設定する必要があります。これにより、マップされた30にゼロが6個追加され、インスタンス・ドキュメントでは、値30000000がレポートされます。スケール係数-2を30に適用した場合、2つのゼロが減らされるため0.3となります。(これは、パーセンテージをレポートする際に頻繁に使用されます。実際には0.3の数値が、レポートでは30%と示されます。)</p> <p>スケールリングは必須ではありません。係数を使用しない場合、スケールリングは自動的に0にデフォルト設定され、これはスケールリングが適用されないことを意味します。スケールが0の数値30は、30のままです。</p>



フィールド	説明
小数位	<p>正確さを持たせる小数点以下の桁数を指定します。この設定は、SEC 申告者には必須です。</p> <p>小数点以下の値の正確性を示すには、正の整数で設定を入力します。</p> <p>たとえば、数値ファクトが小数点以下 3 桁まで正確であることを指定するには、「3」と入力します。別の例として、\$42.38 がレポートされている場合、小数位は 2 に設定されています。値が 36.69% の場合、小数位は 4 に設定されています。</p> <p>また、負(-)の数値を入力し、小数点の左側の値の正確性を示すことができます。たとえば、小数位に-3 を割り当てた場合、金額\$30,000 は、千の単位まで正確であるということになります。小数位が-6 の場合、数値は百万の単位まで正確ということになります。</p> <p><b>注：</b> 小数位の設定をスケーリング・プロパティで補完することが重要になる場合が多くあります。たとえば、値\$30 をマップし、実際にはこの値が 30 百万を表す場合、スケール・プロパティを 6 に設定する必要があります。この属性により、マップされた 30 にゼロが 6 個追加され、インスタンス・ドキュメントでは、値 30000000 がレポートされます。</p>
精度	<p>精度の設定を使用する際に選択し、正確に表示する数値の桁数を選択します。</p> <p>たとえば「7」と入力した場合、左側の最初のゼロ以外の桁から数えて 7 桁目までが正確であるとみなされます。</p> <p>デフォルトでは、Disclosure Management では精度設定を使用します。このオプションは INF に設定されます。</p>

表 18 スケーリングのフィールドと説明

フィールド	説明
スケーリング	<p>初期のグローバル・スケール係数を選択します。</p> <p>スケーリングとは、各値にスケール係数をかけてインスタンス・ドキュメントに含める正しい値を求める方法です。スケーリングにより、大きな数値をマップする際に、Microsoft Word または Excel にゼロを入力する必要がなくなります。スケール係数は、10 の指数として定義します。たとえば、ドキュメントのマップされた値が"2"で、スケール係数が"3"の場合、インスタンス・ドキュメントの値は 2000 です。デフォルトのスケール係数は 0 で、値のスケーリングは行われません。-1 または-2 などの負のスケール係数もサポートされています。</p> <p>たとえば、値\$30 をマップし、実際にはこの値が 30 百万を表す場合、スケール係数を 6 に設定する必要があります。これにより、マップされた 30 にゼロが 6 個追加され、インスタンス・ドキュメントでは、値 30000000 がレポートされます。スケール係数-2 を 30 に適用した場合、2 つのゼロが減らされるため 0.3 となります。(これは、パーセンテージをレポートする際に頻繁に使用されます。実際には 0.3 の数値が、レポートでは 30%と示されます。)</p> <p>スケーリングは必須ではありません。係数を使用しない場合、スケーリングは自動的に 0 にデフォルト設定され、これはスケーリングが適用されないことを意味します。スケールが 0 の数値 30 は、30 のままです。</p>

表 19 日付フォーマットのフィールドと説明

フィールド	説明
日付フォーマット	<p>「日付フォーマット」ドロップダウンから日付フォーマットを表示します。有効なオプションは、次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> <li>● DD.MM.YY(YY)</li> <li>● MM.DD.YY(YY)</li> <li>● DD Month, YY(YY)</li> <li>● Month DD, YY(YY)</li> <li>● DD Mon YY(YY)</li> <li>● Mon DD, YY(YY)</li> <li>● DD/MM/YY(YY)</li> <li>● MM/DD/YY(YY)</li> <li>● カスタム(日付フォーマットは、「カスタム・フォーマット」フィールドに指定する必要があります)</li> </ul>
カスタム・フォーマット	カスタム日付フォーマットを表示します。

表 20 文字列のフォーマット・フィールドと説明

フィールド	説明
文字列	<p>文字列値のフォーマットを表示します。</p> <p>文字列が <code>xbrl.us:TextBlockItemType</code> タイプとその派生タイプ概念に基づく、数値以外の XBRL マッピングで使用可能なフォーマット・オプションがあります。次のフォーマット・オプションを使用できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リッチ・テキスト - Disclosure Management が Office ドキュメントから HTML フォーマットのコンテンツを抽出し、このフォーマットを数値以外のアイテムに適用します。</li> <li>● プレーン・テキスト - Disclosure Management は対応するファクトのフォーマット値を使用し、フォーマットを数値以外のアイテムに適用します。</li> <li>● デフォルト - プレーン・テキスト・フォーマットが数値以外のアイテムにデフォルトで適用されます。ただし、特定の文字列タイプとその派生タイプにはリッチ・テキスト・フォーマットを使用するようにデフォルト構成を設定できます。</li> </ul>

## レポートのエクスポート

Disclosure Management レポートをエクスポートすると、レポート・データに関連するすべての情報が 1 つのパッケージに収集され、.ZIP ファイルに保存されます。.ZIP は、レポートのインポート・プロシージャに使用できます。

パッケージに保存されたレポート・データには、次のデータが含まれます:

- サーバー・データ
  - レポート記述子
  - ドックレット
  - コンテキスト

- 単位
  - レポートに関連する、概念、次元、タプルのドキュメント・レベルのマッピング
  - データ・ソース・マッピング
  - クライアント・データ
    - Microsoft Office Word または Excel レポート・ファイル
    - Microsoft Office Word または Excel ドックレット・ファイル
  - 追加のメタデータ情報:
    - エクスポート・プロシージャが実行された Disclosure Management 製品のバージョン
    - パッケージの構造を記述するその他のメタデータ
- ▶ レポートをエクスポートするには:
- 1 レポートを Microsoft Word または Excel で開き、Disclosure Management サーバーに接続します。
  - 2 Disclosure Management リボンから、「エクスポート」を選択します。  
「レポートのエクスポート」画面が表示されます。
  - 3 「ファイル名」フィールドに、「.zip」の名前を入力し、「保存」をクリックします。

## レポートのインポート

Disclosure Management のインポート機能を使用すると、次を行えます:

- パッケージ(.zip)からすべてのクライアント・ファイルを解凍します。
  - 必要に応じてデータ・ソース(次のような、変更可能なデータ・ソース・パラメータ: server、database、application、data base など)を移行します。
  - サーバーにサーバー・データを適用します。この処理の間、ID の競合を避けるため、オブジェクト(マッピング、レポート、コンテキストなど)の ID が再生成されます。データ・ソースが移行されると、対応するデータ・ソース・マッピングがこの手順で更新されます。
  - クライアント・ファイルに再生成されたサーバー・データを適用します。
  - クライアントの Smart View レポートに変更されたデータ・ソース・パラメータを適用します。
  - クライアント・ドキュメントの再マップされた情報を適用します
  - パッケージのバージョンが現在の Disclosure Management のバージョンより古い場合は、旧バージョンのパッケージを移行します。
- ▶ レポートをインポートするには:
- 1 レポートを Microsoft Word または Excel で開き、Disclosure Management サーバーに接続します。
  - 2 Disclosure Management リボンから、「インポート」を選択します。

Disclosure Management レポート・ウィザードが起動されます。

**3 「次」をクリックします。**

「インポートするレポート」画面が表示されます。

**4 「ファイル名」フィールドに、ファイルのパスと名前を入力し、「次」をクリックします。**

ファイルを参照するには、「参照」をクリックしてファイルに移動し、「開く」をクリックします。

「レポートの場所」画面が表示されます。

**5 「ディレクトリ名」フィールドに、ファイルをインポートするフォルダの名前を入力し、「次」をクリックします。**

フォルダを参照するには、「参照」をクリックしてフォルダに移動し、「OK」をクリックします。

Disclosure Management により、インポートされたレポートに含まれるすべてのデータ・ソース情報が収集されます。

「データ・ソース」画面が表示されます。

**6 必要に応じてデータ・ソースを確認して変更し、「次」をクリックします。**

Disclosure Management により、ページに関連付けられたデータ・ソースが取得されます。

「データ・ソース・マッピング」画面が表示されます。

**7 データ・ソース・マッピングの競合を解決し、「次」をクリックします。**

インポートに成功すると、ウィザードの最終画面が表示されます。

**8 「インポートされたレポートを開きます。」を選択し、「終了」をクリックします。**



## ドキュメントのフォーマット

すべてのドキュメントに適用するグローバルなドキュメント・プロパティを設定できます。さらに、様々なオプションを使用して、選択されている現在のドキュメントのグローバル設定をオーバーライドできます。

- 数値の接頭辞および接尾辞
- マッピング(ドキュメントのプロパティ)の実行時に Microsoft Word ドキュメントの数値データを解析するための 3 桁ごとの区切り文字と小数点
- インスタンス・ドキュメントに登録されているすべての数値データの小数点以下の桁数または精度の設定
- スケーリング係数
- 日付フォーマット

▶ ドキュメントのプロパティを適用するには:

**1 いずれかのオプションを選択します:**

- グローバルなフォーマット・オプションを設定するには、 - 「Disclosure Management」リボンで「プロパティ」アイコン -  - をクリックして「変換」を選択します。
  - 選択したドキュメントにフォーマット・オプションを設定するには - 「Disclosure Management」リボンで「フォーマット」アイコン -  をクリックします。
- 2 「オプション」: 「接頭辞」または「接尾辞」リストで、正数の「接頭辞」または「接尾辞」を指定します。
  - 3 「オプション」: 「接頭辞」または「接尾辞」リストで、負数の「接頭辞」または「接尾辞」を指定します。
  - 4 「オプション」: 「区切り文字」リストで、現在のレポートで3桁ごとの区切り文字および小数点を表す文字フォーマットを選択します。

カスタムの区切り文字フォーマットを指定するには、「区切り文字」リストから「カスタム」を選択してから、3桁ごとの区切り文字と小数点を選択します。
  - 5 「オプション」: 「小数位」または「精度」を選択し、ドロップダウンから桁数を選択します。
  - 6 「オプション」: 「スケーリング」を選択し、ドロップダウンから係数を選択します。
  - 7 「オプション」: 「日付フォーマット」リストで、レポートの日付フォーマットを選択します。

または、カスタムの日付フォーマットを指定するには、「日付フォーマット」リストで「カスタム」を選択してから、「カスタム・フォーマット」フィールドに日付フォーマットを入力します。
  - 8 「文字列のフォーマット」ドロップダウンで、文字列値のフォーマットを選択します。
- 注:** 現在のドキュメントのみをフォーマットしている場合は、「リセット」ボタンをクリックしてグローバル・フォーマットに戻すことができます。
- 9 「OK」をクリックします。

**注:** 「サンプル」セクションに、フォーマット選択の結果が示されます。

表 21 正数の記号のフィールドと説明

フィールド	説明
接頭辞	<p>各正の値の左側に置く記号を設定します。記号オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> <li>● \$</li> <li>● %</li> <li>● [</li> <li>● ]</li> </ul> <p>デフォルトの接頭辞記号は「なし」です。</p> <p>または、フィールドをハイライトし、別の記号を入力して、リストで別の記号を指定することもできます。</p>
接尾辞	<p>各正の値の右側に置く記号を設定します。記号オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> <li>● \$</li> <li>● %</li> <li>● [</li> <li>● ]</li> </ul> <p>デフォルトの接頭辞記号は「なし」です。</p> <p>または、フィールドをハイライトし、別の記号を入力して、リストで別の記号を指定することもできます。</p>

表 22 負数の記号のフィールドと説明

フィールド	説明
接頭辞	<p>各負の値の左側に置く記号を設定します。記号オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● -(負の符号)</li> <li>● なし</li> <li>● \$</li> <li>● %</li> <li>● [</li> <li>● ]</li> </ul> <p>デフォルトの接頭辞記号は「-」です。</p> <p>または、フィールドをハイライトし、別の記号を入力して、リストで別の記号を指定することもできます。</p>

フィールド	説明
接尾辞	<p>各負の値の右側に置く記号を設定します。記号オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> <li>● \$</li> <li>● %</li> <li>● [</li> <li>● ]</li> </ul> <p>デフォルトの接頭辞記号は「なし」です。</p> <p>または、フィールドをハイライトし、別の記号を入力して、リストで別の記号を指定することもできます。</p>

表 23 区切り文字のフィールドと説明

フィールド	説明
区切り文字	<p>「区切り文字」リストで、数値の3桁ごとの区切り文字および小数点のフォーマットを設定します。</p> <p>カスタム・フォーマットを指定するには、「区切り文字」リストで「カスタム」を選択します。次に、「3桁ごとの区切り文字」リストで3桁ごとの区切り文字を選択し、「小数点」リストで小数点のフォーマットを選択します。</p>
3桁ごとの区切り文字	<p>「3桁ごとの区切り文字」リストの値から、3桁ごとの区切り文字を設定します。たとえば、カンマ(,)を選択して値を「1,000」と表示するか、ピリオド(.)を選択して値を「1.000」と表示できます。オプション: カンマ(,)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)、(空白)スペース。</p> <p>または、フィールドをハイライトし、別の記号を入力して、リストで別の記号を指定することもできます。</p>
小数点	<p>「小数点」リストで、小数点を表す文字を設定します(たとえば、1,000.06)。オプション: カンマ(,)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)、(空白)スペース。</p> <p>または、フィールドをハイライトし、別の記号を入力して、リストで別の記号を指定することもできます。</p>

表 24 小数位、精度およびスケール属性の全般情報

フィールド	説明
小数位、精度およびスケール属性の全般情報	<p>インスタンス・ドキュメントを生成すると、XBRL ライン・アイテムにマッピングされた数値は raw データ値とともに保存されます。数値からは、フォーマットと四捨五入が除去されます。値を正しくレポートするには、精度とスケール属性のプロパティの両方を適用する必要があります。たとえば、アイテムを 30 にマップし、この値を百万の単位で表したい場合、2 つの属性を指定する必要があります。まず、数値が百万の単位まで正確に表すように小数位属性を 6 に設定します。次に、スケール係数を 6 と指定すると、マップされた値 30 に 6 つのゼロが追加され、値 30000000 がインスタンス・ドキュメントにレポートされます。</p> <p>インスタンス・ドキュメント内のすべての数値には、小数位または精度の属性のいずれかが必要のため、Disclosure Management では、インスタンス・ドキュメントに存在するすべての数値データに精度設定を指定できます。また、スケール属性を指定して、インスタンス・ドキュメントに含める正しいゼロ値を決定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小数位 - 小数位設定は、小数位に基づいて X 位置まで数値がどの程度正確であることを示します。たとえば、小数位属性が 0 の場合、数値は整数の値まで正確であることを意味します。小数位属性が 2 の場合、数値は百分の 1 まで正確であることを意味します。小数位属性は、SEC 申告者には必須です。</li> <li>● 精度 - 精度属性は、数値のどの桁まで正確かを示します。つまり、このライン・アイテムにマッピングされる数値は、インスタンス・ドキュメントに示される値と同じになります(四捨五入なし)。デフォルトでは、Disclosure Management では精度設定を使用します。このオプションは常に INF に設定されます。データ・ソースに保管される値がすでに丸められている場合(保管された値 250 が、実際は 250,000 であるなど)、インスタンス・ドキュメントの作成後に、作成された XML ファイルの精度属性を手動で調整することが必要な場合があります。精度属性の詳細は、XBRL 2.1 仕様を参照してください。</li> <li>● スケーリング - スケーリング属性を使用すると、値の単位にスケール係数を乗算する際に使用される係数を指定し、インスタンス・ドキュメントに含める正しい値を算出できます。スケール属性により、大きな数値をマップする際に、Microsoft Word または Excel にゼロを入力する必要がなくなります。</li> </ul> <p>たとえば、値\$30 をマップし、実際にはこの値が 30 百万を表す場合、スケール係数を 6 に設定する必要があります。これにより、マップされた 30 にゼロが 6 個追加され、インスタンス・ドキュメントでは、値 30000000 がレポートされます。スケール係数-2 を 30 に適用した場合、2 つのゼロが減らされるため 0.3 となります。(これは、パーセンテージをレポートする際に頻繁に使用されます。実際には 0.3 の数値が、レポートでは 30%と示されます。)</p> <p>スケール属性は必須ではありません。係数を使用しない場合、スケール属性は自動的に 0 にデフォルト設定され、これはスケール属性が適用されないことを意味します。スケールが 0 の数値 30 は、30 のままです。</p>
小数位	<p>正確さを持たせる小数点以下の桁数を指定します。この設定は、SEC 申告者には必須です。</p> <p>小数点以下の値の正確性を示すには、正の整数で設定を入力します。</p> <p>たとえば、数値ファクトが小数点以下 3 桁まで正確であることを指定するには、「3」と入力します。別の例として、\$42.38 がレポートされている場合、小数位は 2 に設定されています。値が 36.69%の場合、小数位は 4 に設定されています。</p> <p>また、負(-)の数値を入力し、小数点の左側の値の正確性を示すことができます。たとえば、小数位に-3 を割り当てた場合、金額\$30,000 は、千の単位まで正確であるということになります。小数位が-6 の場合、数値は百万の単位まで正確ということになります。</p> <p><b>注：</b> 小数位の設定をスケール属性・プロパティで補完することが重要になる場合が多くあります。たとえば、値\$30 をマップし、実際にはこの値が 30 百万を表す場合、スケール属性を 6 に設定する必要があります。この属性により、マップされた 30 にゼロが 6 個追加され、インスタンス・ドキュメントでは、値 30000000 がレポートされます。</p>



フィールド	説明
精度	<p>精度の設定を使用する際に選択し、正確に表示する数値の桁数を選択します。</p> <p>たとえば「7」と入力した場合、左側の最初のゼロ以外の桁から数えて7桁目までが正確であるとみなされます。</p> <p>デフォルトでは、Disclosure Management では精度設定を使用します。このオプションは INF に設定されます。</p>

表 25 スケーリングのフィールドと説明

フィールド	説明
スケーリング	<p>初期のグローバル・スケール係数を選択します。</p> <p>スケーリングとは、各値にスケール係数をかけてインスタンス・ドキュメントに含める正しい値を求める方法です。スケーリングにより、大きな数値をマップする際に、Microsoft Word または Excel にゼロを入力する必要がなくなります。スケール係数は、10 の指数として定義します。たとえば、ドキュメントのマップされた値が"2"で、スケール係数が"3"の場合、インスタンス・ドキュメントの値は 2000 です。デフォルトのスケール係数は 0 で、値のスケーリングは行われません。-1 または -2 などの負のスケール係数もサポートされています。</p> <p>たとえば、値\$30 をマップし、実際にはこの値が 30 百万を表す場合、スケール係数を 6 に設定する必要があります。これにより、マップされた 30 にゼロが 6 個追加され、インスタンス・ドキュメントでは、値 30000000 がレポートされます。スケール係数-2 を 30 に適用した場合、2 つのゼロが減らされるため 0.3 となります。(これは、パーセンテージをレポートする際に頻繁に使用されます。実際には 0.3 の数値が、レポートでは 30% と示されます。)</p> <p>スケーリングは必須ではありません。係数を使用しない場合、スケーリングは自動的に 0 にデフォルト設定され、これはスケーリングが適用されないことを意味します。スケールが 0 の数値 30 は、30 のままです。</p>

表 26 日付フォーマットのフィールドと説明

フィールド	説明
日付フォーマット	<p>「日付フォーマット」ドロップダウンから日付フォーマットを選択します。有効なオプションは、次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> <li>● DD.MM.YY(YY)</li> <li>● MM.DD.YY(YY)</li> <li>● DD Month, YY(YY)</li> <li>● Month DD, YY(YY)</li> <li>● DD Mon YY(YY)</li> <li>● Mon DD, YY(YY)</li> <li>● DD/MM/YY(YY)</li> <li>● MM/DD/YY(YY)</li> <li>● カスタム(日付フォーマットは、「カスタム・フォーマット」フィールドに指定する必要があります)</li> </ul>
カスタム・フォーマット	<p>カスタムの日付フォーマットを指定するには、カスタムの日付フォーマットを指定します。</p>

表 27 文字列のフォーマット・フィールドと説明

フィールド	説明
文字列	<p>文字列のフォーマットを指定します。文字列が <code>xbrl.us:TextBlockItemType</code> タイプとその派生タイプの概念に基づく、数値以外の XBRL マッピングで使用可能なフォーマット・オプションがあります。次のフォーマット・オプションを使用できます：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リッチ・テキスト - Disclosure Management が Office ドキュメントから HTML フォーマットのコンテンツを抽出し、このフォーマットを数値以外のアイテムに適用します。</li> <li>● プレーン・テキスト - Disclosure Management は対応するファクトのフォーマット値を使用し、フォーマットを数値以外のアイテムに適用します。</li> <li>● デフォルト - プレーン・テキスト・フォーマットが数値以外のアイテムにデフォルトで適用されます。ただし、特定の文字列タイプとその派生タイプにはリッチ・テキスト・フォーマットを使用するようにデフォルト構成を設定できます。</li> </ul>

# 5

## マスター・ドキュメントおよびドックレットの操作

### この章の内容

マスター・ドキュメントの使用 .....	123
ドックレットの追加 .....	124
ドックレットの再配置 .....	126
ドックレットのスタンドアロン・レポートの作成 .....	127
マスター・ドキュメント内でのドックレットの非表示 .....	127
ドックレットの除去 .....	128
Microsoft Word を使用した変更およびドックレットの追跡 .....	128

## マスター・ドキュメントの使用

Disclosure Management では、マスター・ドキュメント機能を使用して、最後のレポートを次のレポートの開始時に使用できます。管理者は Microsoft Word でマスター・ドキュメントを使用して、最後のレポートを簡単にコピーし、Microsoft Word および Excel セクションをドキュメントに埋め込み、名前を変更してレポート・ビューを現在の期間または年に更新できます。

マスター・ドキュメントは、ドックレットと呼ばれるサブドキュメントのコンテナ・ファイルとして機能します。登録された Microsoft Word ドキュメントは、マスター・ドキュメントとして使用できます。Disclosure Management ドキュメントは、1 つ以上のドックレットが挿入されると、マスター・ドキュメントになります。

ドックレットとは、マスター・ドキュメントに含める選択データを含む個別の Microsoft Word または Excel ファイルです。ドックレットにより、複雑なレポートでの操作をパーツに分割し、後でこれらのパーツからレポート全体を組み立てることができます。また、論理的に独立したレポートのピースを分割し、各ピースを別々に操作することで、正確さおよび効率の向上が可能になります。

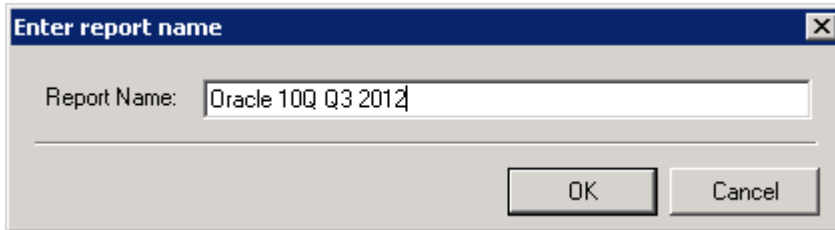
**注：** Disclosure Management ドキュメントを次の期間または四半期にロール・フォワードするには、[81 ページの「Disclosure Management ドキュメントのロールオーバー」](#)を参照してください。

レポートをマスター・ドキュメントとして保存し、ドックレットを追加すると、Disclosure Management はマスター・ドキュメントとドックレットが存在するサブフォルダに、対応する Microsoft Word または Excel ファイルを保存します。Disclosure Management は、ドックレットを保存する発行済フォルダも作成します。マスター・ドキュメントとドックレットは、同じフォルダに存在する必要はありません。

ませんが、ドックレットをマスター・ドキュメントに追加した後、移動または削除しないでください。また、Disclosure Management で作成された XML ファイルも直接変更することはできません。

▶ マスター・ドキュメントを作成するには:

- 1 Microsoft Word でメイン・レポートを開き、「Disclosure Management」サーバーに接続します。
- 2 「Disclosure Management」リボンで「レポート・マネージャ」を選択します。
- 3 「Disclosure Management」リボンで「登録」を選択します。



- 4 「レポート名」に、マスター・ドキュメントの名前を入力し、「OK」をクリックします。

マスター・ドキュメントのメイン・コンテンツを作成後にマップし、ドックレットを追加できます。

## ドックレットの追加

ドックレットには、データ・ソースからの出力、手動入力データまたは関数グリッドなどの複数のソースからのコンテンツが含まれます。ドックレットのデータは、通常のレポートと同様にマップできます。マスター・ドキュメントにドックレットを追加すると、単位/コンテキストのリストがマージされます。その結果、すべてのコンテキストと単位をマスター・ドキュメントとドックレットの両方に使用できます。ドックレットは静的ファイルですが、レポート・マネージャで開いて変更し(マッピングの実行など)、保存し閉じてリフレッシュするたびに、マスター・ドキュメント内で再生成されます。ドックレット内のデータは、マスター・ドキュメントに追加される前または後のどちらのタイミングでもマップできます。

ドックレットの追加には、2つの方法があります。Microsoft Word または Excel のプレーン・ドキュメントをドックレットとしてコピーするか、既存の(登録された)スタンドアロン Disclosure Management ドキュメント(ドックレットなし)を使用できます。最初のケースでは、コピーされたドキュメントは、マスター・ドキュメントが保存されたのと同じディレクトリにある<MasterDocName>\_doclets ディレクトリに作成されます。元のドキュメントはそのまま維持されます。


2番目のケースでは、Disclosure Management ドキュメントにタクソノミ、マッピング、コンテキスト、単位などが関連付けられている場合があります。最初のケース同様、物理ドキュメントは、マスター・ドキュメントと同じディレクトリにコピーされます。すべてのマッピングは、新規に作成されたコピー・ドキュメント用です。マスター・ドキュメントおよびドックレットに定義されたコンテキストおよび単位のセットはマージされます。新しい追加されたドックレットとマスター・ドキュメントに関連付けられたタクソノミが異なる場合、タクソノミの変更プロシージャがドックレットに適用されます。



**注：** マスター・ドキュメントで関数グリッドを使用する際のベスト・プラクティスは、関数グリッドを直接挿入するかわりに、それぞれのドックレットに関数グリッドを含め、マスター・ドキュメントにドックレットを追加することです。

▶ ドックレットをマスター・ドキュメントに追加するには:

- 1 マスター・ドキュメントが開いている状態で、マスター・ドキュメントが登録されていることを確認します。「Disclosure Management」リボンで「登録」アイコンが有効になっている場合、ドキュメントは登録されていません。アイコンをクリックして、ドキュメントを登録します。
- 2 マスター・ドキュメントが開いている状態で、ドックレットのコンテンツを埋め込むドキュメントにカーソルを移動します。



- 3 「Disclosure Management」リボンで「管理」アイコン -  - を選択します。「Disclosure Management レポート・マネージャ」パネルが表示されます。

- 4 「編集」アイコン -  - をクリックしてから「追加」アイコン -  - をクリックすると、「開く」ダイアログが表示されます。

- 5 挿入するドックレットに移動して強調表示し、「開く」をクリックします。

- 6 「Disclosure Management レポート・マネージャ」ペインで「完了」をクリックします。ドックレットのコンテンツが読取り専用コンテンツとしてマスター・ドキュメントに埋め込まれます。

▶ ドックレットのデータをマップするには:

- 1 「Disclosure Management」サーバーに接続します。
- 2 マスター・ドキュメントを開きます。
- 3 「Disclosure Management」リボンで「管理」を選択して、Disclosure Management レポート・マネージャを開きます。
- 4 ドックレットを選択し、ショートカット・メニューで「開く」をクリックして、メイン・ウィンドウにドックレットを表示します。
- 5 データ・ポイントまたはデータ・ソースを選択し、マッピングを実行します。


	Additions Ending In		Inventory
Apr	14212	44917	41574
May	15739	49529	44917
Jun	15231	53184	49529

- 6 ドックレットを保存して、閉じます。
- 7 切替えドロップダウン( )で、「Disclosure Management レポート・マネージャ」を選択します。マスター・ドキュメントに移動し、マスター・ドキュメントに関連付けられているドックレット・リストを展開します。
- 8 ドックレットを選択し、「リフレッシュ」アイコン- をクリックします。

## ドックレットの再配置

マスター・ドキュメント内で1つまたは複数のドックレットの位置を移動することができます。

- ▶ ドックレットを再配置するには:
  - 1 「Disclosure Management」で、ドックレットを含むマスター・ドキュメントを開きます。
  - 2 「Disclosure Management」リボンで「管理」を選択して、「Disclosure Management レポート・マネージャ」ダイアログを表示します。
  - 3 再配置するドックレットを強調表示し、「編集モードの表示」ボタン- を選択します。

- 4 ドックレットを再配置するには、「上へ移動」または「下へ移動」ボタン-  をクリックします。
- 5 「完了」をクリックします。場所の変更を受け入れるには、「完了」を選択する必要があります。
- 6 マスター・ドキュメントにドックレットの新しい場所が表示されます。

## ドックレットのスタンドアロン・レポートの作成

ドックレットをレポートとして保存することで、新しいスタンドアロン・レポートとしてドックレットのコピーを作成できます。スタンドアロン・レポートとして保存した後、別のマスター・ドキュメントに挿入できます。スタンドアロン・レポートとして保存されたドックレットでは、ソース情報の取得元がそのドックレットまたは静的値である同じXBRL マッピング、コンテキスト、単位、脚注、タプル・グループおよび変数がすべて保持されます。ドックレットでは、マスター・ドキュメントのレポート・プロパティが保持されます。

**注：** 最初にスタンドアロン・レポートを作成しなくても、ドックレットを別のマスター・ドキュメントに挿入できます。

▶ ドックレットのスタンドアロン・レポートを作成するには:

- 1 「Disclosure Management」でマスター・ドキュメントを開きます。
- 2 「Disclosure Management」リボンで「管理」を選択して、「Disclosure Management レポート・マネージャ」ダイアログを表示します。
- 3 スタンドアロン・レポートとして使用するドックレットを強調表示し、「アクション」ドロップダウンを選択して「レポートとして保存」を選択します。

## マスター・ドキュメント内でのドックレットの非表示

マスター・ドキュメントおよび生成された出力で、ドックレットの表示コンテンツを非表示にすることができます。ドックレットのコンテンツを非表示にしても、そのドックレットのXBRL マッピングは保持され、生成されたXBRL インスタンスに含まれます。

▶ マスター・ドキュメント内でドックレットを非表示にするには:

- 1 「Disclosure Management」でマスター・ドキュメントを開きます。
- 2 「Disclosure Management」リボンで「管理」を選択して、「Disclosure Management レポート・マネージャ」ダイアログを表示します。
- 3 非表示にするドックレットを強調表示し、「アクション」ドロップダウンを選択して「非表示」を選択します。

**注：** 選択すると、「非表示」オプションは「再表示」に変わります。ドックレットを再表示するには、「再表示」オプションを使用します。

## ドックレットの除去

マスター・ドキュメントからドックレットを除去できます。



**注：** ドックレットを除去すると、ファイルおよび関連付けられているすべてのマッピングも削除されるため、ドックレットは使用できなくなり、ドックレットの再マップが必要になります。ファイルを保持しつつドックレットを除去する場合は、レポートとして保存機能を使用します。

▶ ドックレットを除去するには:

- 1 マスター・ドキュメントを開いた状態で、「Disclosure Management」リボンから「管



理」アイコンを選択して、「Disclosure Management レポート・マネージャ」ペインを開きます。

- 2 ペインでドックレットを選択し、「編集」アイコン()をクリックして「除去」アイコン()をクリックします。

## Microsoft Word を使用した変更およびドックレットの追跡

Microsoft Word の変更履歴機能を使用すると、インスタンス・ドキュメントの生成および検証中に問題が発生する場合があります。また、Microsoft Word ドックレットで変更履歴機能を有効にすると、ドックレットに埋め込まれたすべての変更マークアップが、マスター・ドキュメントによってインポートされます。

これは、検証およびインスタンスの生成のルーチンで問題となる場合があります。たとえば、マップされた値 123 の 2 が 4 で置き換えられた場合(したがって、結果の値は 143)、変更マークアップを含む数値は、インスタンス・ドキュメント内で 1423 と表示され、それが検証されます。

この動作を回避するには、次の解決策のいずれかを選択します:

- 1 「校閲」タブで「すべての変更を許可」オプションを選択し、変更履歴オプションを無効にして、変更履歴機能を無効にします。この解決策では、すべての変更がコミットされ、変更マークアップは Microsoft Word のドックレットから完全に削除されます。
- 2 インスタンス・ドキュメントの生成および検証を実行する前に、変更履歴機能が、最終版(マークアップの表示)(ドキュメントを開いたときのデフォルト)から最終版に変更されていることを確認してください。最終バージョンのみが、マスター・ドキュメントにインポートされるようにする必要があります。



2 番目の解決策は、変更マークアップがマスター・ドキュメントに追加されないようにするものではないことに注意してください。インスタンス・ドキュメントの生成、および検証に関連する問題の解決のみが行われます。





# XBRLおよびDisclosure Managementの用語集

一般的な XBRL 用語の定義は、次のとおりです:

表 28 XBRL の用語および定義

用語	説明
抽象	階層内で関連する要素をまとめるためにのみ概念が使用されることを表す、概念の属性を示します。抽象概念を使用してインスタンス・ドキュメント内のデータをマップすることはできません。
Arc	Arc は、合計アイテム Arc のことです。合計アイテム Arc は、アイテム代替グループ内にありタイプが数値である概念間のみの関係を表す必要があります。これらは、概念間の集約関係を表します。これらの各関係は、合計概念と呼ばれる 1 つの概念とコントリビューション概念と呼ばれる別の概念の関係です。
属性	概念/要素のプロパティ
軸	インスタンス・ドキュメントでは、軸は、ファクトおよびファクトのレポート方法を分類します。たとえば、一定期間において、総利益を販売地域軸または事業部門軸で分類できます。
計算リンクベース	計算リンクベースは、タクソノミ・スキーマ・ドキュメント内のアイテム・セットに対する基本操作の定義を許可するよう設計されています。これらの計算を使用して、XBRL インスタンス・ドキュメント内でこれらの操作が正しく計算されたかどうかを確認できます。計算リンクベースでは、基本的な加算といくつかの乗算が提供されます。
計算トレース	XBRL ドキュメントの計算結果をすべて同じツリー・ビューに編成します。拡張リンク、および拡張リンクにハイパーリンクされた単位、および単位(下部)別にデータをソートし、加算が合計を表すインスタンス値とは異なる場合の差異を記載します。
データ型(タイプ)	概念の特定のデータ型または値の範囲を保持可能なデータ・ストレージ・フォーマットを示します。データ型の例には、10 進数や文字列があります。
ドキュメント・データ	Microsoft Office ドキュメント内に存在するデータを意味します。最初のリリースの場合、サポートされる Office ドキュメントには Microsoft Excel または Word があります。一般的なドキュメント・データという用語は、Microsoft Excel 内の単一セル、Word 内の単一の単語、または Word 内の段落全体を意味する場合があります。ドキュメント・データは全般的に、Disclosure Management マッピング・ツールによってマップされるデータまたはマップ可能なデータを表すために使用されます。
ドキュメント識別子	Disclosure Management の非データ・ソース・マッピングがあるすべての Office ドキュメントには、ドキュメント識別子(documentName と呼ばれます)が割り当てられます。このプロパティは、マッピング・リポジトリ内の Office ドキュメントを識別するために使用されます。このプロパティの値は、カスタム XML として Office ドキュメント内に格納されます。documentName プロパティは、データ・ソース・マッピングで必要になったり使用されたりすることはありません。

用語	説明
ドメイン	ドメインは、XBRL 次元のメンバーです。ドメインは、1 つ以上の子要素があるという点を除けば、ドメイン・メンバーに似ています。ドメイン・メンバーは、別のドメインの子(埋込みドメイン)である場合があります。ただし、ドメイン・メンバーに1 つ以上の子があるかぎり、ドメイン・メンバーはドメインであるとみなされます。ドメインとドメイン・メンバーのもう1 つの相違点は、ドメインは常にそのメンバーの集約であるとみなされる点です。ドメイン・メンバー(子)を集約することにより、ドメインの値を計算できます。タクソノミ内では、ドメインは xbrl アイテム代替グループ属性を使用して識別されます。ドメインは抽象要素でないため、マッピング可能です。たとえば、「地域」次元内で、「北米」、「米国」、「欧州」をすべてドメイン・メンバーにできます。
ファクト値	XBRL の概念が関連付けられたデータを示します。ファクト値をドキュメント・データという用語と区別することが重要です。ドキュメント・データは Office ドキュメントの一部であるのに対し、ファクト値は通常 XBRL インスタンス・ドキュメントの一部です。マッピング・フェーズでは、ドキュメント・データとファクト値を区別なく使用できます。ただし、主な違いは、ファクト値には必要な XBRL マッピング(概念、コンテキストおよび単位)がすべて含まれるのに対し、ドキュメント・データではマッピングが完備されていなくてもかまわない点です。ドキュメント・データの元は Office ファイルです; これは、後で(フォーマットなしで)XBRL インスタンス・ドキュメントにコピーされます。
財務諸表	企業の別期財務情報(四半期次、年次など)が記載された財務レポート
式トレース	式トレースは、XBRL ドキュメントのすべての式の結果を同じツリー・ビューに編成します。拡張リンク、および拡張リンクにハイパーリンクされた単位、および単位(下部)別にデータをソートし、式の失敗を下部に記録します。
ハイパーキューブ	XBRL 次元の最上位コンテナ。xbrl:hypercubeitem 代替グループ属性。次元は常に抽象要素であるため、マップすることはできません。Disclosure Management では、ハイパーキューブは「タクソノミ」ペインの「定義ビュー」に表示されます。
マッピング	財務諸表データの列と行のタクソノミ・アイテムと、拡張によって作成する必要があるアイテム間の相関。
ネームスペース	XML 用語です。ネームスペースは、XML の概念を一意に識別するためのメカニズムを提供します。このメカニズムは Universal Resource Identifier (URI) と呼ばれます。XBRL は、ネームスペースを使用して、タクソノミおよびその要素定義を定義する組織を識別します。たとえば、US GAAP タクソノミのネームスペースには次の接頭辞が付きます: <a href="http://xbrl.us/us-gaap/">http://xbrl.us/us-gaap/</a> 。ただし、ネームスペースの接頭辞はネームスペースには含まれません。
nillable	すべてのタクソノミ概念に適用されるプロパティ。nillable は、概念に空の値を設定できるかどうかを示します。
期間タイプ	概念が一時点と期間のどちらとしてレポートされるかを示す、概念の属性。
表示関係ビュー	親子階層において概念がタクソノミ別に配置されます。
関係	xlink 標準を使用して作成される、2 つの概念間の関係。これは常に1 つの概念から別の概念に向かう関係です。これは、起点と終点をエンドポイントとして xlink によって作成される、方向付きの関係です。関係の名前はその役割です。1 つの概念で複数の関係にかかわることができます。たとえば、1 つの概念が複数の言語別ラベルを持つことができます。
スキーム	エンティティ ID の命名機関への参照。たとえば、コンテキストが US GAAP フレームワークを参照するよう指定できます。

用語	説明
タクソノミ拡張 (XLink)	拡張は、基本タクソノミに対する追加です。タクソノミを追加または拡張する場合、基本タクソノミの構造を重ね合せます。たとえば、拡張は、概念の関係、計算、リンクベースまたはビジネス・ルールの追加で構成できます。これにより、独自のレポート要件に基づき、必要に応じてアイテムを追加できます。基本タクソノミを拡張する機能は、Disclosure Management XBRL タクソノミ・デザイナーに搭載されています。
検証	インスタンス・ドキュメントおよびタクソノミが XBRL 仕様の要件に関連していることを確認する方法。
XBRL 概念/要素	タクソノミ内で定義されているコンポーネント(アイテム、タプル、次元、ドメイン)。
XBRL コンテキスト	<p>ビジネス・エンティティ、レポート期間およびオプションのシナリオに関する情報を定義します。このメタデータ・セットは、財務レポート内のファクトを解釈します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エンティティ - 会社または個人(「Oracle Corporation」など)</li> <li>● 期間 - 日付、四半期または年次累計(「2008 年 5 月 31 日」など)</li> <li>● シナリオ-実績など、ファクトのカテゴリ。通貨や共有などの単位は、数値および小数ファクトにのみ適用されます</li> </ul>
XBRL 次元	次元は、ハイパーキューブのスライスまたは軸です。1 つの XBRL 次元には、1 つ以上のドメインが含まれます。XBRL は、明示的次元と型付き次元の 2 つのタイプの次元を定義します。タクソノミ内では、次元は xbrldt:dimensionItem 代替グループ属性を使用して識別されます。次元は常に抽象要素であるため、マップすることはできません。たとえば、「地域」、「会計」、「シナリオ」および「製品」はすべてハイパーキューブ内で次元として定義できます。Disclosure Management では、ハイパーキューブは「タクソノミ」ペインの「定義ビュー」に表示されます。
XBRL インスタンス・ドキュメント	1 つ以上の XBRL タクソノミからのマッピングを使用した財務ビジネス・レポート情報が含まれる XML ファイル
XBRL スキーマ	XML スキーマは、XML インスタンス・ドキュメントおよびボキャブラリの仕様に関する World Wide Web Consortium の標準です。XML スキーマを使用して XML インスタンス・ドキュメントを定義することにより、開発者は、標準 XML パーサーの検証プロパティを使用してドキュメント定義に対してデータを機械的に検証できます。XML スキーマ標準に合わせて記述されるすべてのスキーマを World Wide Web Consortium の「Schema for schemas」に対して検証する必要があります。XML スキーマ標準は、次のサイトに定義されています: <a href="http://www.w3.org/XML/Schema">http://www.w3.org/XML/Schema</a>
XBRL 仕様	XBRL 構築に使用される XML セマンティック、構文およびフレームワークの説明およびガイドライン。
XBRL タクソノミ	<p>XBRL インスタンス・ドキュメントの作成に使用される概念、ラベル、計算および指示からなる、XML ベースのディクショナリ。</p> <p>タクソノミ全体は Disclosure Management XBRL タクソノミ・デザイナーで表示できますが、概念構造は Microsoft Word、Excel または Oracle Hyperion Financial Reporting で使用可能な Disclosure Management マッピング・ツールで表示できます。</p>

用語	説明
XBRL タプル	<p>タプルは、複数の値が含まれるファクトで、ネストしたアイテムを保持した単一の XML 概念によって識別されます。1つのタプル・メンバーのみでは十分な関連情報が提供されない場合があります;ただし、タプル・メンバーのグループによって必要な情報が提供されます。たとえば、「会社の住所」というタプル概念は、次のタプル・メンバーで構成されます:「名前」、「番地」、「市区町村」、「都道府県」、「郵便番号」および「国」。単一のタプル・メンバー(「市区町村」など)のみでは「会社の住所」という概念を記述するには十分ではありません。すべてのタプル・メンバーが揃ったときのみ概念が有効になります。Disclosure Management マッピング・ツールの「概念」タブの下には、タクソノミ内に定義されている既存のすべてのタプルが表示されるタプル・ビューがあります。</p>
XBRL 単位	<p>数値を測定する単位。単位の例としてドルや株式などがあります。</p>

# B

## EDGAR検証メッセージ

EDGAR 検証プロセスでは、Disclosure Management によって提出物がチェックされ、エラーまたは問題が発生した場合は、EDGAR Filer Manuals (第 I - III 巻) に詳述されているガイドラインに基づいて申告者に警告されます。EDGAR では、エラーが重大なエラーまたは警告に分類されます。重大なエラーの場合、提出物の XBRL 以外の部分は EDGAR に合格しますが、XBRL は申告から除去されます。申告を EDGAR に提出する前に、エラーを修正する必要があります。次のリストで、Oracle Hyperion Disclosure Management によって戻されるエラーまたは警告メッセージ、およびこれらのエラーの解決策について説明します。

表 29 EDGAR 検証メッセージ

メッセージ	説明	解決策
イメージ{0}に無効な属性{1}がありません	HTML ドキュメントに無効な属性{1}が埋め込まれています。DYN SRC、LOOP、LOOPDELAY、START および CONTROLS 属性はこのタグではサポートされていません。	申告を EDGAR に提出する前に、無効なイメージ属性を HTML ドキュメントから削除するか修正してください。
不適切な外部参照 {0}が見つかりました: {1}	EDGAR 申告に添付された HTML ドキュメントに、無効な外部参照が埋め込まれています。参照できるのは提出物に含まれるドキュメントのみです。以前に提出した申告も参照できます。(SEC のパブリック Web サイトでは、目的の申告を探すために EDGAR 申告の履歴を検索できます)。モジュールおよびセグメント・ドキュメントに HTML 外部 (グラフィック) 参照を含めることはできません。添付ドキュメントに重複する名前を付けることもできません。	申告を EDGAR に提出する前に、外部参照を HTML ドキュメントから削除するか修正してください。
無効なイメージ・タイプ (GIF または JPEG にする必要があります): {0}	HTML ドキュメントでは、JPG および GIF グラフィック・ファイルのみ参照できます。	申告を EDGAR に提出する前に、無効なグラフィック参照を HTML ドキュメントから削除するか修正してください。
HTML ドキュメント内で無効な HTML タグ{1}の{0}インスタンスが見つかりました	HTML ドキュメント内のすべてのタグは、EDGAR で許容される HTML 3.2 タグのサブセットに準拠している必要があります。HTML ドキュメント内のいずれかのタグがこの規格に準拠していない場合、EDGAR でエラーが表示されます。	HTML ドキュメント内では、SEC で承認された HTML 3.2 タグ・セットのみを使用してください。





# 索引

## A - Z

### Disclosure Management

インタフェース, 27

用語集, 131

### Disclosure Management オブジェクト

削除, 84

### Disclosure Management マッピング・ツール, 23

EPM Workspace, 21

移動, 30

メニュー, 31

### Disclosure Management マッピング・ツールでの

タイムアウト, 24

### Disclosure Manager サーバー

接続, 24

### EDGAR エラー・メッセージ, 135

### IXBRL フォーマット, 105

### Nil 値

マッピング, 42

### Smart View と Disclosure Management 間の移動,

16

### XBRL

定義, 9

用語集, 131

### XBRL 概念, 31

検索, 44

詳細の表示, 43

除去, 40

### XBRL コンテキスト

検索, 49

更新, 48

コンテキスト詳細の表示, 49

削除, 48

追加, 46

マッピング, 47

マップされたコンテキストの除去, 48

### XBRL 出力

プレビュー, 102

### XBRL 単位

検索, 52

更新, 52

削除, 52

追加, 50

マッピング, 51

マッピングの除去, 52

XBRL プランニングの考慮事項, 11

## あ行

### インスタンス・ドキュメント

検証, 98

出力タイプの選択, 101

生成, 97

表示, 106

## か行

### 確認モード

ナビゲーション・オプション, 97

仮想コンテキスト, 71

概念名, 43

概念ラベル, 43

期間タイプ, 43

規制機関リソース, 12

### 脚注

検索, 56

更新, 55

削除, 55

追加, 53

フォーマット, 55

マップされた脚注の除去, 54

クイック・マッピング, 41

計算トレース, 99

計算ビュー, 35

検証, 98

エラー・メッセージ, 95

確認モード, 95

ルール・サポート, 108

コンテキスト

「確認」タブからの変更, 90  
 コンテキストの管理, 72

## さ行

式トレース, 100  
 次元, 63  
   インスタンスの生成, 73  
   検証, 70  
   次元に対するセルのデータ・ソース・マッピング, 70  
   プライマリ・アイテムに対するデータ・ソース・マッピング, 69  
   ヘッダーに対するデータ・ソース・マッピング, 69  
 次元ビュー, 32, 37  
 次元マップの格納, 71  
 数値フォーマット  
   変更, 110  
 ステータス・アラート記号, 95

## た行

タクソノミ  
   選択, 31  
   ビューの変更, 34  
   変更, 44  
   理解, 10  
   リフレッシュ, 43  
 タクソノミ関係ビュー  
   変更, 34  
 タクソノミ言語  
   変更, 32  
 タクソノミのロールオーバー, 81  
 タプル, 44, 78  
 タプル・ビュー, 38, 79  
 単位  
   「確認」タブからの変更, 90  
 単位名, 51  
 (代替)グループ, 44  
 抽象, 43  
 次で除算, 51  
 定義ビュー, 36  
 データ型, 43  
 データ・ソース  
   Financial Reporting, 19, 21  
   複数の選択, 17  
 データ・ソースのマッピング, 13  
   Financial Reporting 関数グリッド, 19

次元, 69  
   スマート・スライス関数グリッド, 18  
 ドキュメント, 44  
 ドキュメントの移行, 24  
 ドキュメントの登録, 25  
 ドキュメントのフォーマット, 116  
 ドックレット, 123  
   除去, 128  
   追加, 124  
 ドメインおよびドメイン・メンバー  
   マッピング, 65

## な行

ネストされたタグ, 83

## は行

表示ビュー, 34, 88  
 ファクト値  
   オーバーライド, 91  
 符号の反転, 91  
 ブロック・テキスト  
   マッピング, 83  
 分母, 51  
 プライマリ・アイテム  
   マッピング, 65

## ま行

マスター・ドキュメント, 123  
 マッピング  
   Smart View のデータ・ソース, 14  
   レポート・レベルまたはデータ・ソースの  
   マッピング, 13  
 マッピングの確認, 87  
 マッピングを繰り返し越します。 , 109  
 マップされたアイテムのプレビュー, 88  
 マップされたデータ  
   除去, 84  
 メジャー, 51

## や行

抑制されたマッピング, 86

## ら行

レポートのインポート, 115  
 レポートのエクスポート, 114  
 レポートの複製, 109

レポート・レベルのマッピング, 13

A-Z あ行 か行 さ行 た行 な行 は行 ま行 や行 ら行